

理学療法学専攻 講義科目の概要 新旧対照表

| 新                                    |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                    | 旧                                    |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |    |
|--------------------------------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|--------------------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 別記様式第2号（その3）<br>(用紙 日本工業規格A4縦型)      |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                    | 別記様式第2号（その3）<br>(用紙 日本工業規格A4縦型)      |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |    |
| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                    | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |    |
| 科目区分                                 | 授業科目の名称 | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 備考                 | 科目区分                                 | 授業科目の名称 | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 備考 |
| 教養分野                                 | 導入教育    | 【目的】大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。<br>【方法】本科目は主として「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義する。                                                                                                                                  | 時間数変更(15時間より30時間に) | 教養分野                                 | 導入教育    | 【目的】大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。<br>【方法】本科目は主として「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義する。                                                                                                              |    |
|                                      | 基礎ゼミⅠ   | 【目的】大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。<br>【方法】本科目は主として「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義する。                                                                                                                                  |                    |                                      | 基礎ゼミⅠ   | 【目的】大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。<br>【方法】本科目は主として「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義する。                                                                                                              |    |
|                                      | 基礎ゼミⅡ   | 【目的】大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。<br>【方法】少人数に分かれグループとして「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験し、地域の課題解決に向けて結果をまとめて発表する。                                                                                                                   | 時間数変更(15時間より30時間に) |                                      | 基礎ゼミⅡ   | 【目的】大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習慣化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。<br>【方法】少人数に分かれグループとして「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験し、地域の課題解決に向けて結果をまとめて発表する。                                                                                               |    |
|                                      | 基礎ゼミⅢ   | 【目的】将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。<br>【方法】専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わりを通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「文献研究」、「調査・研究計画」、「医療倫理(e-learning)」などについてゼミ活動をおこなう。また、専攻毎のホームルーム活動などで討議、演習を行う。 | 時間数変更(15時間より30時間に) |                                      | 基礎ゼミⅢ   | 【目的】将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。<br>【方法】このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わりを通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「文献研究」、「調査・研究計画」、「医療倫理(e-learning)」などについてゼミ活動をおこなう。 |    |
| 高年次教養教育                              | 基礎ゼミⅣ   | 【目的】将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。<br>【方法】専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わりを通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「調査・データ収集」、「データ整理」、「発表」などについてゼミ活動をおこなう。また、専攻毎のホームルーム活動などで討議、演習を行う。             | 時間数変更(15時間より30時間に) |                                      | 基礎ゼミⅣ   | 【目的】将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。<br>【方法】このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わりを通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「調査・データ収集」、「データ整理」、「発表」などについてゼミ活動をおこなう。             |    |
|                                      | 基礎ゼミⅤ   | 【目的】3年次は、卒業後の就職に向け自己を認識し、就職活動への意識を高めることを目的とする。また3年次後期からは、専攻によっては就職活動が開始可能となるような力を養成することをも目的とする。<br>【方法】就職に関しての個別相談や指導を行う他、これからの就職活動に向けた自己理解セミナーを実施する。就職ガイダンスや各種キャリア講座、履歴書作成や面接マナーなどを実施する。                                                                                                                                                                                   | 新設科目               |                                      |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |    |
|                                      | 基礎ゼミⅥ   | 【目的】4年次は、就職先を決める学年であり、3年次で取り組んできた就職活動を実践できる能力を身につけることを目的とする。<br>【方法】より具体的な就職先を検討しながら、個別に就職試験に向けた相談・指導を行う。その他、個別に履歴書の作成や面接試験の方法について指導を行う。                                                                                                                                                                                                                                    | 新設科目               |                                      |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |    |
|                                      |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                    |                                      |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |    |
| 人文科学                                 | 臨床倫理学   | 【目的】医療従事者には、一般の人よりも多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事が多々ある。臨床現場から外れた行動をしないよう自己啓発に向け修養する。<br>【方法】教科書を中心に講義を行い、様々な視点から「真の医療」ということについて学修する。                                                                                                                                                                                                                                             | 変更なし。              | 人文科学                                 | 臨床倫理学   | 【目的】医療従事者には、一般の人よりも多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事が多々ある。臨床現場から外れた行動をしないよう自己啓発に向け修養する。<br>【方法】教科書を中心に講義を行い、様々な視点から「真の医療」ということについて学修する。                                                                                                                                                                                                                         |    |
|                                      | 地域文化論   | 【目的】本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に、伝統文化がもつ諸問題を考えてみる。<br>【方法】本学の所在地である新潟県村上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。                                                                                                                                                                                                                             | 変更なし。              |                                      | 地域文化論   | 【目的】本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に、伝統文化がもつ諸問題を考えてみる。<br>【方法】本学の所在地である新潟県村上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。                                                                                                                                                                                                         |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |          |                                                                                                                                                                                                                                                                        |         | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |          |                                                                                                                                                                                                                                                                        |    |
|-------------------------------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|-------------------------------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称  | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                 | 備考      | 科目<br>区分                            | 授業科目の名称  | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                 | 備考 |
|                                     | 日本語表現法   | 【目的】レポートや報告書、論文等を書く際に必要な、基本的な日本語に関する文法や表現法を学ぶ。文脈の整合性や、正しい敬語の使い方、口語体や文語体の違い、正しい助詞や助動詞の使い方、正しい単語や漢字の使い方等を学習する。<br>【方法】基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文等を題材にして、より正しい日本語を学習する。                                                                                             | 変更なし。   |                                     | 日本語表現法   | 【目的】レポートや報告書、論文等を書く際に必要な、基本的な日本語に関する文法や表現法を学ぶ。文脈の整合性や、正しい敬語の使い方、口語体や文語体の違い、正しい助詞や助動詞の使い方、正しい単語や漢字の使い方等を学習する。<br>【方法】基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文等を題材にして、より正しい日本語を学習する。                                                                                             |    |
|                                     | 心理学概論Ⅰ   | 【目的】心理学における代表的分野についての基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができる。<br>【方法】Power Point スライドを使用しての講義が中心となる。内容は、原則指定教科書に準ずる。本科目は主として、「知覚」「学習」、「記憶」、「動機づけ」、「感情」について講義する。                                                                               | 変更なし。   |                                     | 心理学概論Ⅰ   | 【目的】心理学における代表的分野についての基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができる。<br>【方法】Power Point スライドを使用しての講義が中心となる。内容は、原則指定教科書に準ずる。本科目は主として、「知覚」「学習」、「記憶」、「動機づけ」、「感情」について講義する。                                                                               |    |
|                                     | 心理学概論Ⅱ   | 【目的】心理学における代表的分野についての基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができる。<br>【方法】Power Point スライドを使用しての講義が中心となる。内容は、原則指定教科書に準ずる。本科目は主として、「精神的健康」、「パーソナリティ」、「知能」について講義する。                                                                                  | 変更なし。   |                                     | 心理学概論Ⅱ   | 【目的】心理学における代表的分野についての基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができる。<br>【方法】Power Point スライドを使用しての講義が中心となる。内容は、原則指定教科書に準ずる。本科目は主として、「精神的健康」、「パーソナリティ」、「知能」について講義する。                                                                                  |    |
|                                     | 医療行動科学Ⅰ  | 【目的】人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。<br>【方法】行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえつつ、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動理解のポイントを理解する。<br>本科目は主として、「行動科学と医療：目的・課題・方法」「自己と他者の理解・役割」、「医療者としての適性」などを講義する。 | 変更なし。   |                                     | 医療行動科学Ⅰ  | 【目的】人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。<br>【方法】行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえつつ、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動理解のポイントを理解する。<br>本科目は主として、「行動科学と医療：目的・課題・方法」「自己と他者の理解・役割」、「医療者としての適性」などを講義する。 |    |
|                                     | 医療行動科学Ⅱ  | 【目的】人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。<br>【方法】行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえつつ、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動理解のポイントを理解する。<br>本科目は主として、「医療者のストレス」、「医療者の教育」、「患者とのコミュニケーション」などを講義する。         | 変更なし。   |                                     | 医療行動科学Ⅱ  | 【目的】人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。<br>【方法】行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえつつ、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動理解のポイントを理解する。<br>本科目は主として、「医療者のストレス」、「医療者の教育」、「患者とのコミュニケーション」などを講義する。         |    |
|                                     | 社会<br>科学 |                                                                                                                                                                                                                                                                        |         |                                     | 社会<br>科学 |                                                                                                                                                                                                                                                                        |    |
|                                     | 社会と健康Ⅰ   | 【目的】人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要因が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。<br>【方法】社会の仕組みと健康との関わり合いと自分の所属する専攻領域以外からも関心をもてるように、他専攻の教員から座学、演習（実技・学外研修も含む）を交えて学ぶ。                                         | 内容変更あり。 |                                     | 社会と健康Ⅰ   | 【目的】人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要因が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。<br>【方法】社会の仕組みと健康との関わり合いを歴史的に考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。<br>本科目は主として、「社会学とは何か」、「家族の問題」、「再生可能な社会とは何か」などを講義する。                 |    |
|                                     | 社会と健康Ⅱ   | 【目的】人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要因が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。<br>【方法】社会の仕組みと健康との関わり合いと自分の所属する専攻領域以外からも関心をもてるように、他専攻の教員から座学、演習（実技・学外研修も含む）を交えて学ぶ。                                         | 内容変更あり。 |                                     | 社会と健康Ⅱ   | 【目的】人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要因が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。<br>【方法】社会の仕組みと健康との関わり合いを歴史的に考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。<br>本科目は主として、「社会制度と健康」、「食料生産と健康」、「健康のインフラとしての社会」などを講義する。             |    |
|                                     | 法律と医療Ⅰ   | 【目的】医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。<br>【方法】授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に、行い配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。本科目は主として、「法律と医療倫理」、「憲法と医療」などを講義する。                                           | 変更なし。   |                                     | 法律と医療Ⅰ   | 【目的】医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。<br>【方法】授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に、行い配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。本科目は主として、「法律と医療倫理」、「憲法と医療」などを講義する。                                           |    |
|                                     | 法律と医療Ⅱ   | 【目的】医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。<br>【方法】授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に、行い配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。本科目は主として、「民法と医療」、「刑法と医療」などを講義する。                                             | 変更なし。   |                                     | 法律と医療Ⅱ   | 【目的】医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。<br>【方法】授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に、行い配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。本科目は主として、「民法と医療」、「刑法と医療」などを講義する。                                             |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                           | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |    |
|-------------------------------------|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称       | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 備考                                        | 科目<br>区分                            | 授業科目の名称       | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 備考 |
|                                     | コミュニケーション心理学Ⅰ | <p>【目的】人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。</p> <p>【方法】言語的・非言語的になされる自己の開示や呈示、他者の理解や説得、欺きや情報操作、集団力動のはたらきや影響などを、実例を踏まえながら理解する。本科目は主として、「対人コミュニケーションの社会心理学」、「非言語的コミュニケーション」、「自己呈示」などを講義する。</p>                                                                                         | 変更なし。                                     |                                     | コミュニケーション心理学Ⅰ | <p>【目的】人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。</p> <p>【方法】言語的・非言語的になされる自己の開示や呈示、他者の理解や説得、欺きや情報操作、集団力動のはたらきや影響などを、実例を踏まえながら理解する。本科目は主として、「対人コミュニケーションの社会心理学」、「非言語的コミュニケーション」、「自己呈示」などを講義する。</p>                                                                  |    |
|                                     | コミュニケーション心理学Ⅱ | <p>【目的】人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。</p> <p>【方法】言語的・非言語的になされる自己の開示や呈示、他者の理解や説得、欺きや情報操作、集団力動のはたらきや影響などを、実例を踏まえながら理解する。本科目は主として、「命令・強制」、「他者を欺くコミュニケーション」、「集団・社会・文化とコミュニケーション」などを講義する。</p>                                                                                      | 変更なし。                                     |                                     | コミュニケーション心理学Ⅱ | <p>【目的】人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。</p> <p>【方法】言語的・非言語的になされる自己の開示や呈示、他者の理解や説得、欺きや情報操作、集団力動のはたらきや影響などを、実例を踏まえながら理解する。本科目は主として、「命令・強制」、「他者を欺くコミュニケーション」、「集団・社会・文化とコミュニケーション」などを講義する。</p>                                                               |    |
| 自然科学                                | 統計学Ⅰ          | <p>【目的】リハビリテーション・心理学的介入の有用性を判断する上で、統計学の知識は必要不可欠である。この講義では、統計学の始まりから現在までを概括し、統計に関する基礎的な知識、およびリハビリテーション学・心理学における統計で用いられる独特の用語や定義に基づく基本的分析方法を学ぶと共に、各分析方法の意味と実用に即したデータ処理について理解できるようにする。</p> <p>【方法】統計学の網羅的な体系、統計学の基礎的な考え方、標本と母集団との関係、およびデータの種類と表現形式について学ぶ。また、よく用いられる統計的な検定方法を学修し、その実際の適用の仕方について学ぶ。本科目は主として、「統計的な考え方」、「代表値とバラツキ」、「確率」、「ベイズの定理」、「正規分布」、「仮説検定」などを講義する。</p> | 時間数変更(15時間より30時間に、内容変更あり(統計学の基礎理論を講義する。)) | 自然科学                                | 統計学Ⅰ          | <p>【目的】リハビリテーション・心理学的介入の有用性を判断する上で、統計学の知識は必要不可欠である。この講義では、統計学の始まりから現在までを概括し、統計に関する基礎的な知識、およびリハビリテーション学・心理学における統計で用いられる独特の用語や定義に基づく基本的分析方法を学ぶと共に、各分析方法の意味と実用に即したデータ処理について理解できるようにする。</p> <p>【方法】統計学の網羅的な体系、統計学の基礎的な考え方、標本と母集団との関係、およびデータの種類と表現形式について学ぶ。また、よく用いられる統計的な検定方法を学修し、その実際の適用の仕方について学ぶ。本科目は主として、「統計的な考え方」、「代表値とバラツキ」、「確率」などを講義する。</p> |    |
|                                     | 統計学Ⅱ          | <p>【目的】現在多くの仕事の領域でデータを読み解く能力が求められている。これは専門職・事務職の区別を問わない。この講義では、入門程度の統計の知識を持つものが、実際にデータを操作して初歩的な統計分析を実施するための技能を修得することを目的としている。自分でデータを分析できるようになると、新聞やテレビ、学術論文で公表された数値をより正確に理解できるようになる。</p> <p>【方法】統計ソフトORを使用して、データの集約法(記述統計)と基礎的な統計的検定(推測統計)を自分でデータを操作しながら学習する。統計ソフトに関する予備知識は必要ない。エクセルを少し使えると役に立つ。</p>                                                                | 内容変更あり。(統計ソフトの基本的使用方法を講義する。)              |                                     | 統計学Ⅱ          | <p>【目的】リハビリテーション・心理学的介入の有用性を判断する上で、統計学の知識は必要不可欠である。この講義では、統計学の始まりから現在までを概括し、統計に関する基礎的な知識、およびリハビリテーション学・心理学における統計で用いられる独特の用語や定義に基づく基本的分析方法を学ぶと共に、各分析方法の意味と実用に即したデータ処理について理解できるようにする。</p> <p>【方法】統計学の網羅的な体系、統計学の基礎的な考え方、標本と母集団との関係、およびデータの種類と表現形式について学ぶ。また、よく用いられる統計的な検定方法を学修し、その実際の適用の仕方について学ぶ。本科目は主として「ベイズの定理」、「正規分布」、「仮説検定」などを講義する。</p>     |    |
|                                     | 基礎生命科学        | <p>【目的】本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物科学の履修に向けて必要となる基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>【方法】高等学校にて「生物」を履修しなかった学生も対象に、医生物科学を学ぶにあたって必要な学習事項を中心に概説する。</p>                                                                                                                                                                                                                              | 変更なし。                                     |                                     | 基礎生命科学        | <p>【目的】本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物科学の履修に向けて必要となる基礎知識の修得を目的とする。</p> <p>【方法】高等学校にて「生物」を履修しなかった学生も対象に、医生物科学を学ぶにあたって必要な学習事項を中心に概説する。</p>                                                                                                                                                                                                       |    |
|                                     | 医生物科学Ⅰ        | <p>【目的】リハビリテーションという現実と直面する人の肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。</p> <p>【方法】生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物(学)の世界」、「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義する。</p>                                                                                                                                              | 変更なし。                                     |                                     | 医生物科学Ⅰ        | <p>【目的】リハビリテーションという現実と直面する人の肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。</p> <p>【方法】生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物(学)の世界」、「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義する。</p>                                                                                                                       |    |
|                                     | 医生物科学Ⅱ        | <p>【目的】リハビリテーションという現実と直面する人の肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。</p> <p>【方法】生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「感性～音と絵の世界」、「死とは」、「人間・からだのたたかい」などを講義する。</p>                                                                                                                                                     | 変更なし。                                     |                                     | 医生物科学Ⅱ        | <p>【目的】リハビリテーションという現実と直面する人の肉体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。</p> <p>【方法】生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「感性～音と絵の世界」、「死とは」、「人間・からだのたたかい」などを講義する。</p>                                                                                                                              |    |
|                                     | 人間支援科学Ⅰ       | <p>【目的】人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ講義です。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることを目的とする。</p> <p>【方法】自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法(人から人、物を使用)を演習を踏まえて講義する。</p>                                                                                                                                                                                            | 内容の変更あり。                                  |                                     | 人間支援科学Ⅰ       | <p>【目的】人間の感覚器や効果器の諸特性、高次な認知過程の特質などについて把握し、人間の特性に合ったより使いやすい機器の開発を目指すための知識を身につける。</p> <p>【方法】当講義では主に人間工学に基づく基礎知識を具体例を通して学ぶ。本科目は主として、「人間支援科学とは」、「人間支援科学のキーワード」、「電池とその使い方」などを講義する。</p>                                                                                                                                                           |    |
|                                     | 人間支援科学Ⅱ       | <p>【目的】人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ講義です。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることを目的とする。</p> <p>【方法】自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法(人から人、物を使用)を演習を踏まえて講義する。</p>                                                                                                                                                                                            | 内容の変更あり。                                  |                                     | 人間支援科学Ⅱ       | <p>【目的】人間の感覚器や効果器の諸特性、高次な認知過程の特質などについて把握し、人間の特性に合ったより使いやすい機器の開発を目指すための知識を身につける。</p> <p>【方法】当講義では主に人間工学に基づく基礎知識を具体例を通して学ぶ。本科目は主として、「磁石とモーターの基本」、「半導体デバイスの基本構造」、「人間の感覚器と半導体センサー」などを講義する。</p>                                                                                                                                                   |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                           | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |    |
|-------------------------------------|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|-------------------------------------|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称            | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 備考                                        | 科目<br>区分                            | 授業科目の名称            | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 備考 |
|                                     | 物理学Ⅰ               | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は、主として、「物理学を学ぶのに必要な数学」、「デコムの原理」、「輪じく・滑車・歯車」などを学修する。                                                                                                                        | 内容の変更あり。                                  |                                     | 物理学Ⅰ               | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は主として、「なぜ物理が必要か」、「デコムの原理」、「生体の中のデコ」などを講義する。                                                                                                                                                             |    |
|                                     | 物理学Ⅱ               | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は、主として、「生体の中のデコ」、「作用・反作用」、「力の分解」などを学修する。                                                                                                                                   | 内容の変更あり。                                  |                                     | 物理学Ⅱ               | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は主として、「作用・反作用」、「力の分解」、「振り子」などを講義する。                                                                                                                                                                     |    |
| 体育<br>学<br>関<br>連                   | レクリエーション           | 【目的】レクリエーションは小児の場合は運動発達を促し、高齢者の場合は活動性をあげるなど、年令別にさまざまな目的がある。また、目的や対象者によって、的確なレクリエーションを選択する必要がある。楽しむだけでなくレクリエーションの理論を学ぶ。<br>【方法】座学の講義以外にレクリエーションを実際に行い、司会役や患者役などに分かれ、より良いレクリエーションを提供できる能力を学び、近隣施設へ赴き実践的能力も身につける。                                                                                  | 変更なし。                                     | 体育<br>学<br>関<br>連                   | レクリエーション           | 【目的】レクリエーションは小児の場合は運動発達を促し、高齢者の場合は活動性をあげるなど、年令別にさまざまな目的がある。また、目的や対象者によって、的確なレクリエーションを選択する必要がある。楽しむだけでなくレクリエーションの理論を学ぶ。<br>【方法】座学の講義以外にレクリエーションを実際に行い、司会役や患者役などに分かれ、より良いレクリエーションを提供できる能力を学び、近隣施設へ赴き実践的能力も身につける。                                                                                                               |    |
|                                     | スポーツ実践             | 【目的】様々な運動やスポーツを経験し、健康に関する知識や相互理解を深める。<br>【方法】各種体育・スポーツ種目を実践するとともに、健康や障害について考える。                                                                                                                                                                                                                 | 変更なし。                                     |                                     | スポーツ実践             | 【目的】様々な運動やスポーツを経験し、健康に関する知識や相互理解を深める。<br>【方法】各種体育・スポーツ種目を実践するとともに、健康や障害について考える。                                                                                                                                                                                                                                              |    |
| 情<br>報                              | 情報処理技法Ⅰ            | 【目的】情報処理技法Ⅰでは、基本的なパソコン 操作と情報スキルについて学習し、今後の臨床実習、サークル活動やボランティア活動にも必要となる技能を身につける。<br>【方法】情報スキルの基礎知識について講義を通し学び、実習を行うことにより具体的方法を学習する。                                                                                                                                                               | 時間数変更(15時間より30時間に)、内容変更あり(基礎的情報処理について学ぶ)。 | 情<br>報                              | 情報処理技法Ⅰ            | 【目的】情報処理技法では、基本的なPC 操作について学習をし、今後の臨床実習、サークル活動やボランティア活動にも必要となるスキルを身につける。特に大学生活や病院や施設等で使用頻度が高いMicrosoft office を使用して実践的な能力を学修する。<br>【方法】「Word」「Excel」「PowerPoint」を中心に実践的に、ビジネス文書作成、表計算、プレゼンテーション技術、情報発信方法、ネットワークの基礎、セキュリティなどについて学ぶ。さらに各ソフト間のデータの連携や共有方法なども合わせて学ぶ。その他、ポスターやチラシの作成なども行う。本科目は主として、「コンピュータの基本操作」、「Word」などを講義・実習する。 |    |
|                                     | 情報処理技法Ⅱ            | 【目的】情報処理技法Ⅱでは、応用的なPC 操作と情報スキルについて学習し、今後の授業や臨床実習でのレポート作成・発表資料作成にも必要となる技能を身につける。<br>【方法】情報スキルの基礎知識について講義を通し学び、実習を行うことにより具体的方法を学習する。                                                                                                                                                               | 内容変更あり(応用的情報処理について学ぶ)。                    |                                     | 情報処理技法Ⅱ            | 【目的】情報処理技法では、基本的なPC 操作について学習をし、今後の臨床実習、サークル活動やボランティア活動にも必要となるスキルを身につける。特に大学生活や病院や施設等で使用頻度が高いMicrosoft office を使用して実践的な能力を学修する。<br>【方法】「Word」「Excel」「PowerPoint」を中心に実践的に、ビジネス文書作成、表計算、プレゼンテーション技術、情報発信方法、ネットワークの基礎、セキュリティなどについて学ぶ。さらに各ソフト間のデータの連携や共有方法なども合わせて学ぶ。その他、ポスターやチラシの作成なども行う。本科目は主として、「Excel」、「PowerPoint」などを講義・実習する。 |    |
|                                     | コンピューターと人間の<br>接点Ⅰ | 【目的】人間とコンピューターとの関係がどうあるべきかについて学ぶことにより、技術をどのように活かすべきかを考え、それを具体的なインタフェースとして設計する考え方を身につける。リハビリテーション工学の基礎となる考え方を学ぶ。<br>【方法】インタフェースという基本概念を、次いで人間について身体・生理的特性、認知的特性を学ぶ。さらに、インタフェース設計のための人間中心設計という考え方を、またここ30 年程の間に開発されてきた様々な技術について学ぶ。本科目は主として、「コンピューターの構成と利用」、「情報社会と情報システム」、「システム開発の基礎」などを講義する。      | 変更なし。                                     |                                     | コンピューターと人間の<br>接点Ⅰ | 【目的】人間とコンピューターとの関係がどうあるべきかについて学ぶことにより、技術をどのように活かすべきかを考え、それを具体的なインタフェースとして設計する考え方を身につける。リハビリテーション工学の基礎となる考え方を学ぶ。<br>【方法】インタフェースという基本概念を、次いで人間について身体・生理的特性、認知的特性を学ぶ。さらに、インタフェース設計のための人間中心設計という考え方を、またここ30 年程の間に開発されてきた様々な技術について学ぶ。本科目は主として、「コンピューターの構成と利用」、「情報社会と情報システム」、「システム開発の基礎」などを講義する。                                   |    |
|                                     | コンピューターと人間の<br>接点Ⅱ | 【目的】人間とコンピューターとの関係がどうあるべきかについて学ぶことにより、技術をどのように活かすべきかを考え、それを具体的なインタフェースとして設計する考え方を身につける。リハビリテーション工学の基礎となる考え方を学ぶ。<br>【方法】インタフェースという基本概念を、次いで人間について身体・生理的特性、認知的特性を学ぶ。さらに、インタフェース設計のための人間中心設計という考え方を、またここ30 年程の間に開発されてきた様々な技術について学ぶ。本科目は主として、「企業内における情報活用」、「インターネットの仕組み」、「情報化におけるリスクマネジメント」などを講義する。 | 変更なし。                                     |                                     | コンピューターと人間の<br>接点Ⅱ | 【目的】人間とコンピューターとの関係がどうあるべきかについて学ぶことにより、技術をどのように活かすべきかを考え、それを具体的なインタフェースとして設計する考え方を身につける。リハビリテーション工学の基礎となる考え方を学ぶ。<br>【方法】インタフェースという基本概念を、次いで人間について身体・生理的特性、認知的特性を学ぶ。さらに、インタフェース設計のための人間中心設計という考え方を、またここ30 年程の間に開発されてきた様々な技術について学ぶ。本科目は主として、「企業内における情報活用」、「インターネットの仕組み」、「情報化におけるリスクマネジメント」などを講義する。                              |    |
|                                     | 医療英語ベーシック          | 【目的】医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級合格を目標とする。医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようにする。検定合格に必要な基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージを読解し、実用的な英文が書けるようになる。この授業は検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。<br>【方法】専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため「書く」「読む」の演習で使っていく。テキストの会話を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。  | 旧科目「医療英語Ⅰ・初級」、「医療英語Ⅱ・初級」を統合し名称変更、内容変更あり。  | 外<br>国<br>語                         | 医療英語Ⅰ・初級           | 【目的】医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級合格を目標とする。医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようにする。検定合格に必要な基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージを読解し、実用的な英文が書けるようになる。この授業は検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。<br>【方法】専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため「書く」「読む」の演習で使っていく。テキストの会話を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。                               |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                          | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                 |
|-------------------------------------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 備考                                                                       | 科目<br>区分                            | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 備考              |
|                                     | 医療英語アドバンス  | <p>【目的】医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格を目標とする。医療現場における言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要とされる文法力を高める。導入した専門語彙や文法を使用し医療関係を内容とした英文パラグラフを読解できるようになる。またその内容を問う英語質問文を理解できるようになる。短いパラグラフが書けるようになる。この授業は検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。</p> <p>【方法】専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』の演習で使っていく。テキストのパラグラフを読解すると同時にターゲット文法の解説及び演習を行う。</p> | 旧科目「医療英語Ⅰ・中級」、「医療英語Ⅱ・中級」、「総合医療英語Ⅰ・上級」、「総合医療英語Ⅱ・上級」の内容を整理・統合し名称変更、内容変更あり。 |                                     | 医療英語Ⅰ・中級   | <p>【目的】医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格を目標とする。医療現場における言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要とされる文法力を高める。導入した専門語彙や文法を使用し医療関係を内容とした英文パラグラフを読解できるようになる。またその内容を問う英語質問文を理解できるようになる。短いパラグラフが書けるようになる。この授業は検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。</p> <p>【方法】専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』の演習で使っていく。テキストのパラグラフを読解すると同時にターゲット文法の解説及び演習を行う。</p>                                   |                 |
|                                     |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                          |                                     | 医療英語Ⅱ・初級   | <p>【目的】医療英語Ⅰ・初級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足している力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級合格を目指す。医療分野の初歩的な知識を学び英文読解力を高める。検定の勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。</p> <p>【方法】医療英語Ⅰ・初級に引き続き専門用語集を使用し基礎語彙及び文法を更に導入し、『書く』『読む』の演習で定着化させていく。会話を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。同時に多くの検定試験練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練をする。</p>                          | 「医療英語ベーシック」に統合  |
|                                     |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                          |                                     | 医療英語Ⅱ・中級   | <p>【目的】医療英語Ⅰ・中級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足している力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格を目指す。医療分野の知識を身に付け英文読解力を高め、その内容を問う英語質問文を即座に理解できるようになる。検定の勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。</p> <p>【目的】医療英語Ⅰ・中級に引き続き専門用語集を使用し語彙及び文法を更に導入し、『書く』『読む』の演習で定着化させていく。テキストのパラグラフを読解すると同時にターゲット文法の解説及び演習を行う。また短いパラグラフを書く演習を行う。更に多くの検定試験練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練をする。</p> | 「医療英語アドバンス」に統合  |
|                                     | 医療英会話ベーシック | <p>【目的】様々な日常医療現場における簡単な内容の会話を聴き理解できるようになる。また同現場での基礎的な対話ができるようになる。福祉英語検定4級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。</p> <p>【方法】検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。簡単な医療現場での会話をモデルに、自分で会話が作れるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。</p>                                                        | 旧科目「医療英会話Ⅰ・初級」、「医療英会話Ⅱ・初級」を統合し名称変更、内容変更あり。                               |                                     | 医療英会話Ⅰ・初級  | <p>【目的】様々な日常医療現場における簡単な内容の会話を聴き理解できるようになる。また同現場での基礎的な対話ができるようになる。福祉英語検定4級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。</p> <p>【方法】検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。簡単な医療現場での会話をモデルに、自分で会話が作れるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。</p>                                                                                          |                 |
|                                     | 医療英会話アドバンス | <p>【目的】医療現場における様々な領域の知識を身に付ける。基礎英会話力をもとにそれを医療現場において応用できるようになる。また同現場でのコミュニケーションを無理なく継続できるようになる。福祉英語検定3級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。</p> <p>【方法】検定協会の教材で導入した3級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。医療現場での会話をモデルにした演習を繰り返し行い、英語による会話継続力を身に付ける。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。</p>               | 旧科目「医療英会話Ⅰ・中級」、「医療英会話Ⅱ・中級」を統合し名称変更、内容変更あり。                               |                                     | 医療英会話Ⅰ・中級  | <p>【目的】医療現場における様々な領域の知識を身に付ける。基礎英会話力をもとにそれを医療現場において応用できるようになる。また同現場でのコミュニケーションを無理なく継続できるようになる。福祉英語検定3級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。</p> <p>【方法】検定協会の教材で導入した3級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。医療現場での会話をモデルにした演習を繰り返し行い、英語による会話継続力を身に付ける。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。</p>                                                 |                 |
|                                     |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                          |                                     | 医療英会話Ⅱ・初級  | <p>【目的】医療英会話Ⅰ・初級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足しているリスニング力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級合格を目指す。検定のリスニングセクション勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。医療分野の初歩的な知識を身に付け、日常医療現場における会話力を高める。</p> <p>【目的】医療英会話Ⅰ・初級に引き続き検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。4級検定試験において取り上げられる医療現場設定を中心に対話練習を繰り返し行う。同時に多くの検定試験リスニング練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練をする。</p>         | 「医療英会話ベーシック」に統合 |
|                                     |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                          |                                     | 医療英会話Ⅱ・中級  | <p>【目的】医療英会話Ⅰ・中級 で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足しているリスニング力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格を目指す。検定3級のリスニングセクション勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。医療分野の知識を身に付け、医療現場における会話継続力を高める。</p> <p>【方法】医療英会話Ⅰ・中級に引き続き検定協会の教材で導入した3級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。3級検定試験において取り上げられる医療現場設定を中心に対話練習を繰り返し行う。同時に多くの検定試験リスニング練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練をする。</p>         | 「医療英会話アドバンス」に統合 |
|                                     |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                                                          |                                     | 総合医療英語Ⅰ・上級 | <p>【目的】医療分野における英語でのディスカッションなどができる会話力を身に付けると共に、効果的に情報提示するプレゼンテーションができるようになる。また、科学的根拠に基づいた理論的な英文エッセイの作成法を身に付ける。</p> <p>【方法】自分でまとめた英文エッセイを明確な発音や適切なリズム、イントネーションで効果的にプレゼンテーションを行う実践的演習を行う。医療分野において学生が興味のあるトピックを選びディスカッションに必要な表現の導入や練習をし、情報交換型から問題解決型グループディスカッションへと段階的に指導を行う。</p>                                                                     | 「医療英語アドバンス」に統合  |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |          |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |          |                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                |
|-------------------------------------|----------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------------------------------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 科目<br>区分                            |          | 授業科目の名称  | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 備考    | 科目<br>区分                            |          | 授業科目の名称                                                                                                                                                                                                                                                                  | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 備考             |
|                                     |          |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       |                                     |          | 総合医療英語Ⅱ・上級                                                                                                                                                                                                                                                               | 【目的】医療に関連するテーマに自分の主張を英語でディベートできるようにする。その主張をエッセイとして理論的にまとめ、それを発表できるようにする。<br>【方法】自分でまとめた英文エッセイを明確な発音や適切なリズム・イントネーションで効果的にプレゼンテーションを行う実践的演習を行う。医療分野において学生が興味のあるトピックを選びディベートに必要な表現等の導入、即効的なスピーキングそしてディベートへと段階的に指導を行う。                                                                                                 | 「医療英語アドバンス」に統合 |
|                                     |          | 中国語      | 【目的】中国語は中国本土のほか、香港、台湾、シンガポール、マレーシアなどで広く使われています。同じ漢字圏に身を置く日本人学生に日中文化の比較を念頭に置かせて、中国語の深い文化的背景を理解しながら、中国語のローマ字表記法（ピンイン）と声調（四声）、基礎的な文法の学習をはじめ、日常会話に対応できる能力を身につけることを目指す。<br>【方法】特に中国語学習において難点とされる「ピンイン・声調」を確実に習得し、美しい発音を身につける。また中国語の語順や否定文、疑問文など基礎的な文法を学んで、自己紹介や家族紹介など日常会話をできるようにする。授業中にペアワーク、グループワークなども盛り込みながら、みずからの力で「読み」「書き」「話す」ために必要な知識と能力を養う。 | 新設科目  |                                     |          |                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                |
|                                     |          | 医療英文抄読法Ⅰ | 【目的】英語で書かれた学術論文に慣れ親しみ、将来、英語文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけ、その形式を理解し論文を読むポイントが分かるようになる。<br>【方法】基礎医学用語、医療現場でよく用いられる専門用語、疾患名、医療関係者が用いる略語、薬剤名や検査法、英語で記載されたカルテや報告書に触れる機会を多数設ける。また、学術雑誌に掲載される症例報告や研究論文（臨床研究および基礎研究）を個々の学生の興味や専門分野に合わせて選択し、グループ作業も含めて読みこなす練習をする。                                                                             | 変更なし。 |                                     |          | 医療英文抄読法Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                 | 【目的】英語で書かれた学術論文に慣れ親しみ、将来、英語文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけ、その形式を理解し論文を読むポイントが分かるようになる。<br>【方法】基礎医学用語、医療現場でよく用いられる専門用語、疾患名、医療関係者が用いる略語、薬剤名や検査法、英語で記載されたカルテや報告書に触れる機会を多数設ける。また、学術雑誌に掲載される症例報告や研究論文（臨床研究および基礎研究）を個々の学生の興味や専門分野に合わせて選択し、グループ作業も含めて読みこなす練習をする。                                                   |                |
|                                     |          | 医療英文抄読法Ⅱ | 【目的】英語で書かれた学術論文に慣れ親しみ、将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけ、その論文を読むポイントが分かるようになる。文献リストの意義を理解し、その書き方を学ぶ。更にリストに記載されている文献から新しい必要資料を探し出せるようになる。<br>【方法】基礎医学用語、医療現場でよく用いられる専門用語、疾患名、医療関係者が用いる略語、薬剤名や検査法、英語で記載されたカルテや報告書に触れる機会を多数設ける。また、参考文献リストから必要な学術雑誌に掲載される症例報告や研究論文（臨床研究および基礎研究）を探し、グループ作業も含めて読みこなす練習をする。                           | 変更なし。 |                                     |          | 医療英文抄読法Ⅱ                                                                                                                                                                                                                                                                 | 【目的】英語で書かれた学術論文に慣れ親しみ、将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけ、その論文を読むポイントが分かるようになる。文献リストの意義を理解し、その書き方を学ぶ。更にリストに記載されている文献から新しい必要資料を探し出せるようになる。<br>【方法】基礎医学用語、医療現場でよく用いられる専門用語、疾患名、医療関係者が用いる略語、薬剤名や検査法、英語で記載されたカルテや報告書に触れる機会を多数設ける。また、参考文献リストから必要な学術雑誌に掲載される症例報告や研究論文（臨床研究および基礎研究）を探し、グループ作業も含めて読みこなす練習をする。 |                |
|                                     |          | 国際理解演習Ⅰ  | 【目的】諸外国のリハビリテーション医療の状況や医療従事者の教育について知識を深めるににより、それぞれの国の社会状況や文化がどのように影響しているかを学修する。<br>【方法】国際理解演習Ⅰでは、各国のリハビリテーション医療・教育、国際的医療支援について講義形式で学ぶ。また教材として英文の資料を用いて学修する。                                                                                                                                                                                  | 変更なし。 |                                     |          | 国際理解演習Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                  | 【目的】諸外国のリハビリテーション医療の状況や医療従事者の教育について知識を深めるににより、それぞれの国の社会状況や文化がどのように影響しているかを学修する。<br>【方法】国際理解演習Ⅰでは、各国のリハビリテーション医療・教育、国際的医療支援について講義形式で学ぶ。また教材として英文の資料を用いて学修する。                                                                                                                                                        |                |
|                                     |          | 国際理解演習Ⅱ  | 【目的】諸外国のリハビリテーション医療の状況や医療従事者の教育について知識を深めるににより、それぞれの国の社会状況や文化がどのように影響しているかを学修する。<br>【方法】実際に短期間の海外でのリハビリテーション施設や大学を見学することにより日本でのリハビリテーション医療・教育との違いを学ぶ。                                                                                                                                                                                         | 変更なし。 |                                     |          | 国際理解演習Ⅱ                                                                                                                                                                                                                                                                  | 【目的】諸外国のリハビリテーション医療の状況や医療従事者の教育について知識を深めるににより、それぞれの国の社会状況や文化がどのように影響しているかを学修する。<br>【方法】実際に短期間の海外でのリハビリテーション施設や大学を見学することにより日本でのリハビリテーション医療・教育との違いを学ぶ。                                                                                                                                                               |                |
| 専門<br>基礎<br>分野                      | 基礎<br>医学 | 解剖学・総論Ⅰ  | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、尿管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「解剖学総論」、「人体構造の基本」、「体幹の解剖」などを講義する。                                                                             | 変更なし。 | 専門<br>基礎<br>分野                      | 基礎<br>医学 | 解剖学・総論Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                  | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習、ならびに問題の論議による演習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、尿管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「解剖学総論」、「人体構造の基本」、「体幹の解剖」などを講義する。                                    |                |
|                                     |          | 解剖学・総論Ⅱ  | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、尿管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「上肢の解剖」を講義する。                                                                                                 | 変更なし。 | 解剖学・総論Ⅱ                             |          | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習、ならびに問題の論議による演習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、尿管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「上肢の解剖」を講義する。              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                |
|                                     |          | 解剖学・総論Ⅲ  | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、尿管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「下肢の解剖」、「上肢と下肢の比較」などを講義する。                                                                                    | 変更なし。 | 解剖学・総論Ⅲ                             |          | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習、ならびに問題の論議による演習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、尿管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「下肢の解剖」、「上肢と下肢の比較」などを講義する。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                            | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |
|-------------------------------------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-------------------------------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称 | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 備考                                                         | 科目<br>区分                            | 授業科目の名称 | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 備考 |
|                                     | 解剖学・各論Ⅰ | 【目的】人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）→（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】教科書、図譜のみでなく、標本、模型に加えて生体観察も活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。<br>本科目は主として、「循環器」、「内臓学・組織学」、「呼吸器」などを講義する。                                                                                | 変更なし。                                                      |                                     | 解剖学・各論Ⅰ | 【目的】人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）→（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】教科書、図譜のみでなく、標本、模型に加えて生体観察も活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。<br>本科目は主として、「循環器」、「内臓学・組織学」、「呼吸器」などを講義する。                                                         |    |
|                                     | 解剖学・各論Ⅱ | 【目的】人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）→（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】教科書、図譜のみでなく、標本、模型に加えて生体観察も活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。<br>本科目は主として、「消化器」、「泌尿器」、「内臓の神経と脈管学」などを講義する。                                                                              | 変更なし。                                                      |                                     | 解剖学・各論Ⅱ | 【目的】人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）→（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】教科書、図譜のみでなく、標本、模型に加えて生体観察も活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。<br>本科目は主として、「消化器」、「泌尿器」、「内臓の神経と脈管学」などを講義する。                                                       |    |
|                                     | 解剖学実習   | 【目的】解剖学実習は、脳科学なんかんずく中枢神経の解剖学を学習することを通して、解剖学・総論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、解剖学・各論Ⅰ、Ⅱで学習した知識を、心身機能と身体構造の統合へと理解を深めることが目的である。中枢神経系の理解により、脳や脊髄の障害が身体各部へどのように影響を与えるかを、局所解剖学的にとらえて、理解、説明できるようにすることも重要な目標の一つである。<br>【方法】医学の大学で人体解剖の見学・実習を行う。献体されたご遺体から、生と死、生命の尊厳、医の倫理を実体験として感じ、学ぶことができる。生体で体表から同定しう構造についての触診・体表への投影などの投影などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することで理解を深める。 | 旧科目「解剖学・演習Ⅰ」・「解剖学・演習Ⅱ」を統合し「解剖学実習」に名称変更。1単位・45時間とする。内容変更あり。 |                                     | 解剖学・演習Ⅰ | 【目的】解剖学演習は解剖学・総論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、解剖学・各論Ⅰ、Ⅱで学修した知識を、標本もしくは人体で確認し、構造的、機能的に結合した理解を得ることが目的である。局所臨床解剖学的にとらえて、理解し、説明することも重要。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】医学、歯学の大学で人体解剖の見学・演習・実習を行う。生体で体表から同定しうる構造についての触診、体表への投影、画像の解析などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することで理解を深める。<br>本科目は主として、「中枢神経系：総論」、「髄膜と脳脊髄液」、「脳・脳幹・小脳」などを講義・演習・実習する。    |    |
|                                     | 生理学Ⅰ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「生理学概説」、「血液の成分とその働き」、「心臓循環系」などを講義する。                                   | 変更なし。                                                      |                                     | 生理学Ⅰ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「生理学概説」、「血液の成分とその働き」、「心臓循環系」などを講義する。            |    |
|                                     | 生理学Ⅱ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。                        | 変更なし。                                                      |                                     | 生理学Ⅱ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。 |    |
|                                     | 生理学Ⅲ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「呼吸機能」、「自律神経系と内在神経系」、「消化と吸収」などを講義する。                                   | 変更なし。                                                      |                                     | 生理学Ⅲ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「呼吸機能」、「自律神経系と内在神経系」、「消化と吸収」などを講義する。            |    |
|                                     | 生理学実習   | 【目的】生理学実習では生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび神経生理学Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深めることを目標とする。生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】皮膚感覚や味覚などの実習は各自が体験し確認する。また、筋電図や心電図などの記録と解析を行う。                                                                                 | 時間数変更(30時間より45時間)                                          |                                     | 生理学実習   | 【目的】生理学実習では生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび神経生理学Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深めることを目標とする。生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を修得する。これらにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】皮膚感覚や味覚などの実習は各自が体験し確認する。また、筋電図や心電図などの記録と解析を行う。                                                          |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |       | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |
|--------------------------------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------------------------|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称  | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 備考    | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称  | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 備考 |
|                                      | 神経生理学Ⅰ   | <p>【目的】生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で神経生理学は特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の機能から始まり、情報伝達のKey Playerである活動電位の発生メカニズムを理解し、情報の伝達手法また体性感覚・特殊感覚系などにおける情報伝達の入りに口における基本的事項を理解する。また、学習・記憶・意識・情動などの高次脳機能について学ぶ。</p> <p>【方法】生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。本科目は主として、「細胞の構造と基本機能」、「活動電位の発生」、「情報伝達機構」などを講義する。</p>                   | 変更なし。 |                                      | 神経生理学Ⅰ   | <p>【目的】生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で神経生理学は特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の機能から始まり、情報伝達のKey Playerである活動電位の発生メカニズムを理解し、情報の伝達手法また体性感覚・特殊感覚系などにおける情報伝達の入りに口における基本的事項を理解する。また、学習・記憶・意識・情動などの高次脳機能について学ぶ。</p> <p>【方法】生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。本科目は主として、「細胞の構造と基本機能」、「活動電位の発生」、「情報伝達機構」などを講義する。</p>                   |    |
|                                      | 神経生理学Ⅱ   | <p>【目的】生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で神経生理学は特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の機能から始まり、情報伝達のKey Playerである活動電位の発生メカニズムを理解し、情報の伝達手法また体性感覚・特殊感覚系などにおける情報伝達の入りに口における基本的事項を理解する。また、学習・記憶・意識・情動などの高次脳機能について学ぶ。</p> <p>【方法】生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。本科目は主として、「感覚総論」、「特殊感覚受容機構」、「体性感覚受容機構」、「脳幹・小脳・大脳基底核の運動制御機構」などを講義する。</p> | 変更なし。 |                                      | 神経生理学Ⅱ   | <p>【目的】生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で神経生理学は特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の機能から始まり、情報伝達のKey Playerである活動電位の発生メカニズムを理解し、情報の伝達手法また体性感覚・特殊感覚系などにおける情報伝達の入りに口における基本的事項を理解する。また、学習・記憶・意識・情動などの高次脳機能について学ぶ。</p> <p>【方法】生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。本科目は主として、「感覚総論」、「特殊感覚受容機構」、「体性感覚受容機構」、「脳幹・小脳・大脳基底核の運動制御機構」などを講義する。</p> |    |
|                                      | 病理学概論    | <p>【目的】医療では予防、診断、治療、リハビリテーションが重要であるが、病気の原因は診断に不可欠である。この診断に欠かせないのが病理学であり、細胞をつないでいる組織を診断する組織診および細胞診、病理解剖から成り立っている。したがって、病理学は、体内の異常を調べ、病気の原因および病気になる機序を研究する学問であり、これらを概論的に学ぶ。</p> <p>【方法】教科書を使用し、特にリハビリテーションの対象となる疾患については踏み込んで学修する。</p>                                                                                                                                                                             | 変更なし。 |                                      | 病理学概論    | <p>【目的】医療では予防、診断、治療、リハビリテーションが重要であるが、病気の原因は診断に不可欠である。この診断に欠かせないのが病理学であり、細胞をつないでいる組織を診断する組織診および細胞診、病理解剖から成り立っている。したがって、病理学は、体内の異常を調べ、病気の原因および病気になる機序を研究する学問であり、これらを概論的に学ぶ。</p> <p>【方法】教科書を使用し、特にリハビリテーションの対象となる疾患については踏み込んで学修する。</p>                                                                                                                                                                             |    |
|                                      | 医学概論     | <p>【目的】リハビリテーション分野だけでなく、医学及び医療に携わる専門職業人として、医の本質や医の倫理について理解を深め、幅広い視野をもった医療従事者としての基礎知識や倫理観を身につける。</p> <p>【方法】健康の概念や、疾病・障害の概念を中心に、医学の発展や将来などについて、講義を行う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                        | 変更なし。 |                                      | 医学概論     | <p>【目的】リハビリテーション分野だけでなく、医学及び医療に携わる専門職業人として、医の本質や医の倫理について理解を深め、幅広い視野をもった医療従事者としての基礎知識や倫理観を身につける。</p> <p>【方法】健康の概念や、疾病・障害の概念を中心に、医学の発展や将来などについて、講義を行う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                        |    |
| 臨床<br>医学                             | 公衆衛生学Ⅰ   | <p>【目的】公衆衛生学とは、人の集団を対象として、疾病を予防し、生命を延長し、身体的精神的能率を増進させる技術及び科学である。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや、具体的な健康の保持増進と疾病の予防方法を学習する。</p> <p>【方法】公衆衛生学の基礎となる集団の健康水準の測定や評価の方法、疾病の危険因子を解明する方法、多様な危険因子に対する予防対策の方法等を学ぶ。本科目は主として、「衛生学と公衆衛生学」、「健康問題の変遷」、「保健統計」などを講義する。</p>                                                                                                                                            | 変更なし。 | 臨床<br>医学                             | 公衆衛生学Ⅰ   | <p>【目的】公衆衛生学とは、人の集団を対象として、疾病を予防し、生命を延長し、身体的精神的能率を増進させる技術及び科学である。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや、具体的な健康の保持増進と疾病の予防方法を学習する。</p> <p>【方法】公衆衛生学の基礎となる集団の健康水準の測定や評価の方法、疾病の危険因子を解明する方法、多様な危険因子に対する予防対策の方法等を学ぶ。本科目は主として、「衛生学と公衆衛生学」、「健康問題の変遷」、「保健統計」などを講義する。</p>                                                                                                                                            |    |
|                                      | 公衆衛生学Ⅱ   | <p>【目的】公衆衛生学とは、人の集団を対象として、疾病を予防し、生命を延長し、身体的精神的能率を増進させる技術及び科学である。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや、具体的な健康の保持増進と疾病の予防方法を学習する。</p> <p>【方法】公衆衛生学の基礎となる集団の健康水準の測定や評価の方法、疾病の危険因子を解明する方法、多様な危険因子に対する予防対策の方法等を学ぶ。本科目は主として、「疫学」、「疾病予防」、「健康管理」などを講義する。</p>                                                                                                                                                      | 変更なし。 |                                      | 公衆衛生学Ⅱ   | <p>【目的】公衆衛生学とは、人の集団を対象として、疾病を予防し、生命を延長し、身体的精神的能率を増進させる技術及び科学である。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや、具体的な健康の保持増進と疾病の予防方法を学習する。</p> <p>【方法】公衆衛生学の基礎となる集団の健康水準の測定や評価の方法、疾病の危険因子を解明する方法、多様な危険因子に対する予防対策の方法等を学ぶ。本科目は主として、「疫学」、「疾病予防」、「健康管理」などを講義する。</p>                                                                                                                                                      |    |
|                                      | 臨床心理学概論Ⅰ | <p>【目的】臨床心理学に関する基礎的な概念として、①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論などを理解し、患者がおかれた心理・精神面の特徴と心理的支援のありかたを学修する。</p> <p>【方法】心理・精神面に影響する典型的な問題を取り上げ、その臨床心理学の評価や介入方法に触れる。将来のリハビリテーション現場では、心理的な問題を抱える患者に関わることも多いはずである。その際、患者の心理状態を適切に評価し心理的に援助するための知識を習得する。本科目は主として、「臨床心理学とは何か」、「精神疾患との関連と支援」などを講義する。</p>                                                                                                                               | 変更なし。 |                                      | 臨床心理学概論Ⅰ | <p>【目的】臨床心理学に関する基礎的な概念として、①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論などを理解し、患者がおかれた心理・精神面の特徴と心理的支援のありかたを学修する。</p> <p>【方法】心理・精神面に影響する典型的な問題を取り上げ、その臨床心理学の評価や介入方法に触れる。将来のリハビリテーション現場では、心理的な問題を抱える患者に関わることも多いはずである。その際、患者の心理状態を適切に評価し心理的に援助するための知識を習得する。本科目は主として、「臨床心理学とは何か」、「精神疾患との関連と支援」などを講義する。</p>                                                                                                                               |    |
|                                      | 臨床心理学概論Ⅱ | <p>【目的】臨床心理学に関する基礎的な概念として、①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論などを理解し、患者がおかれた心理・精神面の特徴と心理的支援のありかたを学修する。</p> <p>【方法】心理・精神面に影響する典型的な問題を取り上げ、その臨床心理学の評価や介入方法に触れる。将来のリハビリテーション現場では、心理的な問題を抱える患者に関わることも多いはずである。その際、患者の心理状態を適切に評価し心理的に援助するための知識を習得する。本科目は主として、「臨床心理学的リハビリテーション」、「臨床心理学的アセスメント」、「臨床心理学的介入」などを講義する。</p>                                                                                                             | 変更なし。 |                                      | 臨床心理学概論Ⅱ | <p>【目的】臨床心理学に関する基礎的な概念として、①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論などを理解し、患者がおかれた心理・精神面の特徴と心理的支援のありかたを学修する。</p> <p>【方法】心理・精神面に影響する典型的な問題を取り上げ、その臨床心理学の評価や介入方法に触れる。将来のリハビリテーション現場では、心理的な問題を抱える患者に関わることも多いはずである。その際、患者の心理状態を適切に評価し心理的に援助するための知識を習得する。本科目は主として、「臨床心理学的リハビリテーション」、「臨床心理学的アセスメント」、「臨床心理学的介入」などを講義する。</p>                                                                                                             |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |    |
|--------------------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|--------------------------------------|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称 | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 備考                                             | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称 | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 備考 |
|                                      | 発達心理学Ⅰ  | 【目的】近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。<br>【方法】講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因（生物・心理的要因）と外的要因（社会・文化的要因）について考察し、適切な対処法を習得する。<br>本科目は主として、「生涯発達心理学の基礎」、「胎児期・乳児期～青年期中期」などを講義する。                          | 変更なし。                                          |                                      | 発達心理学Ⅰ  | 【目的】近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。<br>【方法】講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因（生物・心理的要因）と外的要因（社会・文化的要因）について考察し、適切な対処法を習得する。<br>本科目は主として、「発達心理学の基礎」、「胎児期・乳児期～青年期中期」などを講義する。             |    |
|                                      | 発達心理学Ⅱ  | 【目的】近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。<br>【方法】講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因（生物・心理的要因）と外的要因（社会・文化的要因）について考察し、適切な対処法を習得する。<br>本科目は主として、「青年期後期～成人期後期」を講義する。                                           | 変更なし。                                          |                                      | 発達心理学Ⅱ  | 【目的】近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。<br>【方法】講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因（生物・心理的要因）と外的要因（社会・文化的要因）について考察し、適切な対処法を習得する。<br>本科目は主として、「青年期後期～成人期後期」を講義する。                            |    |
|                                      | 内科学Ⅰ    | 【目的】基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。これらにより、心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害を理解する。また、がんや難病など、リハビリテーションや心面への支援が必要な疾病について理解する。<br>【方法】各疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎、泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に關与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。<br>本科目は主として、「循環系の疾患」、「呼吸系の疾患」、「消化系の疾患」などについて講義する。                                            | 変更なし。                                          |                                      | 内科学Ⅰ    | 【目的】基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。これらにより、心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害を理解する。また、がんや難病など、リハビリテーションや心面への支援が必要な疾病について理解する。<br>【方法】各疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎、泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に關与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。<br>本科目は主として、「循環系の疾患」、「呼吸系の疾患」、「消化系の疾患」などについて講義する。                             |    |
|                                      | 内科学Ⅱ    | 【目的】基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。これらにより、心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害を理解する。また、がんや難病など、リハビリテーションや心面への支援が必要な疾病について理解する。<br>【方法】各疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎、泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に關与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。<br>本科目は主として、「出血と止血」、「糖尿病」、「腎炎」などについて講義する。                                                    | 変更なし。                                          |                                      | 内科学Ⅱ    | 【目的】基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。これらにより、心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害を理解する。また、がんや難病など、リハビリテーションや心面への支援が必要な疾病について理解する。<br>【方法】各疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎、泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に關与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。<br>本科目は主として、「出血と止血」、「糖尿病」、「腎炎」などについて講義する。                                     |    |
|                                      | 整形外科Ⅰ   | 【目的】整形外科領域における病態、臨床症状、診断、治療などについて学修することを目的とする。<br>【方法】身体の姿勢および運動器に関する臨床医学であり、小児整形外科、脊椎・脊髄外科、関節外科、骨折・外傷の外科、手の外科、骨・軟部腫瘍学といった各分野の中で、リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について講義を行う。<br>本科目は主として、「整形外科の基礎科学」、「整形外科診断総論」などを講義する。                                                                                                                                                               | 変更なし。                                          |                                      | 整形外科Ⅰ   | 【目的】整形外科領域における病態、臨床症状、診断、治療などについて学修することを目的とする。<br>【方法】身体の姿勢および運動器に関する臨床医学であり、小児整形外科、脊椎・脊髄外科、関節外科、骨折・外傷の外科、手の外科、骨・軟部腫瘍学といった各分野の中で、リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について講義を行う。<br>本科目は主として、「整形外科の基礎科学」、「整形外科診断総論」などを講義する。                                                                                                                                                |    |
|                                      | 整形外科Ⅱ   | 【目的】整形外科領域における病態、臨床症状、診断、治療などについて学修することを目的とする。<br>【方法】身体の姿勢および運動器に関する臨床医学であり、小児整形外科、脊椎・脊髄外科、関節外科、骨折・外傷の外科、手の外科、骨・軟部腫瘍学といった各分野の中で、リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について講義を行う。<br>本科目は主として、「先天性骨系統疾患」、「整形外科疾患各論」、「整形外科外傷学」、「スポーツと整形外科」などを講義する。「 <b>医用画像の基礎</b> 」の内容を含む。                                                                                                                 | 内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため「 <b>医用画像の基礎</b> 」の内容を含む。 |                                      | 整形外科Ⅱ   | 【目的】整形外科領域における病態、臨床症状、診断、治療などについて学修することを目的とする。<br>【方法】身体の姿勢および運動器に関する臨床医学であり、小児整形外科、脊椎・脊髄外科、関節外科、骨折・外傷の外科、手の外科、骨・軟部腫瘍学といった各分野の中で、リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について講義を行う。<br>本科目は主として、「先天性骨系統疾患」、「整形外科疾患各論」、「整形外科外傷学」、「スポーツと整形外科」などを講義する。                                                                                                                           |    |
|                                      | 臨床神経学Ⅰ  | 【目的】リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる。その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠である。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。<br>【方法】神経内科や脳神経外科で扱われる神経疾患を中心に、その病態について学習し、疾患理解を深める。有病率が高い神経疾患（脳血管障害、脳外傷、脳腫瘍、神経変性疾患、てんかん・頭痛などの機能性疾患、認知症、筋疾患、末梢神経疾患）、などについて重点的に講義する。理解に必要な神経解剖、神経生理や検査法については各疾患毎に補足する。<br>本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「脳動脈と脳血管障害」、「脳卒中急性期と後遺症」などを講義する。                | 変更なし。                                          |                                      | 臨床神経学Ⅰ  | 【目的】リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる。その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠である。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。<br>【方法】神経内科や脳神経外科で扱われる神経疾患を中心に、その病態について学習し、疾患理解を深める。有病率が高い神経疾患（脳血管障害、脳外傷、脳腫瘍、神経変性疾患、てんかん・頭痛などの機能性疾患、認知症、筋疾患、末梢神経疾患）、などについて重点的に講義する。理解に必要な神経解剖、神経生理や検査法については各疾患毎に補足する。<br>本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「脳動脈と脳血管障害」、「脳卒中急性期と後遺症」などを講義する。 |    |
|                                      | 臨床神経学Ⅱ  | 【目的】リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる。その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠である。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。<br>【方法】神経内科や脳神経外科で扱われる神経疾患を中心に、その病態について学習し、疾患理解を深める。有病率が高い神経疾患（脳血管障害、脳外傷、脳腫瘍、神経変性疾患、てんかん・頭痛などの機能性疾患、認知症、筋疾患、末梢神経疾患）、などについて重点的に講義する。理解に必要な神経解剖、神経生理や検査法については各疾患毎に補足する。<br>本科目は主として、「神経変性疾患」、「認知症」、「頭部外傷と意識障害」などを講義する。「 <b>医用画像の基礎</b> 」の内容を含む。 | 内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため「 <b>医用画像の基礎</b> 」の内容を含む。 |                                      | 臨床神経学Ⅱ  | 【目的】リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる。その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠である。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。<br>【方法】神経内科や脳神経外科で扱われる神経疾患を中心に、その病態について学習し、疾患理解を深める。有病率が高い神経疾患（脳血管障害、脳外傷、脳腫瘍、神経変性疾患、てんかん・頭痛などの機能性疾患、認知症、筋疾患、末梢神経疾患）、などについて重点的に講義する。理解に必要な神経解剖、神経生理や検査法については各疾患毎に補足する。<br>本科目は主として、「神経変性疾患」、「認知症」、「頭部外傷と意識障害」などを講義する。           |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                            |  | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |    |  |
|-------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--|
| 科目区分                                | 授業科目の名称     | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 備考                                                                                                         |  | 科目区分                                | 授業科目の名称     | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 備考 |  |
|                                     | 小児科学        | 【目的】小児と関わるためには「子どもは絶えず成長するという特性を持つということ、その成長の途中で起きる問題に対して、生活の質を考慮しながら成長を援助していく」という視点が重要である。正常児の発育・発達を基礎として、小児の疾患や障害、難病、心の問題や母子保健・教育に至るまで、多角的に考える知識と技術を習得することを目的とする。<br>【方法】正常児の発育・発達について基礎知識を実例や実演を交えながら学ぶ。小児の疾患や障害を系統的に学び、幅広い基礎的知識を得る。また、子ども特有の精神・社会・保健等の視点を学ぶ。                                                           | 変更なし。                                                                                                      |  |                                     | 小児科学        | 【目的】小児と関わるためには「子どもは絶えず成長するという特性を持つということ、その成長の途中で起きる問題に対して、生活の質を考慮しながら成長を援助していく」という視点が重要である。正常児の発育・発達を基礎として、小児の疾患や障害、難病、心の問題や母子保健・教育に至るまで、多角的に考える知識と技術を習得することを目的とする。<br>【方法】正常児の発育・発達について基礎知識を実例や実演を交えながら学ぶ。小児の疾患や障害を系統的に学び、幅広い基礎的知識を得る。また、子ども特有の精神・社会・保健等の視点を学ぶ。                                                           |    |  |
|                                     | 精神疾患とその治療   | 【目的】①精神疾患総論として代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援、②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、③医療機関との連携などについて学修する。さらには、リエゾン等を含み広くリハビリテーション分野での精神医学的アプローチを実践的に学ぶ。<br>【方法】疾患別の講義のほか、社会・司法に関する事例も豊富に取り上げることにより、自己を分析し、客観的に深く物事を捉えることのできる能力を鍛え、治療者としての技術の向上を目指す。また治療における、精神分析や芸術療法などの技法も修得する。                                                   | 変更なし。                                                                                                      |  |                                     | 精神疾患とその治療   | 【目的】①精神疾患総論として代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援、②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、③医療機関との連携などについて学修する。さらには、リエゾン等を含み広くリハビリテーション分野での精神医学的アプローチを実践的に学ぶ。<br>【方法】疾患別の講義のほか、社会・司法に関する事例も豊富に取り上げることにより、自己を分析し、客観的に深く物事を捉えることのできる能力を鍛え、治療者としての技術の向上を目指す。また治療における、精神分析や芸術療法などの技法も修得する。                                                   |    |  |
|                                     | リハビリテーション工学 | 【目的】リハビリテーションでは日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、リハビリテーション医療を提供していく必要がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。<br>【方法】介護の実践、福祉機器について紹介を行いつつ、工学の視点から理学療法・作業療法について理解を深める講義を行う。                                                                                                         | 変更なし。                                                                                                      |  |                                     | リハビリテーション工学 | 【目的】リハビリテーションでは日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、リハビリテーション医療を提供していく必要がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。<br>【方法】介護の実践、福祉機器について紹介を行いつつ、工学の視点から理学療法・作業療法について理解を深める講義を行う。                                                                                                         |    |  |
|                                     | リハビリテーション医学 | 【目的】リハビリテーション医学が対象とする疾患として、脳血管障害、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についてそれらを理解し、リハビリテーション治療技術を体得し実践できるようにすることを目標とする。<br>【方法】脳血管障害、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についての講義を通してリハビリテーション専門職として必要なリハビリテーション医学の基礎知識を学ぶ。また治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、診断、治療等を学ぶ。                                                                                    | 変更なし。                                                                                                      |  |                                     | リハビリテーション医学 | 【目的】リハビリテーション医学が対象とする疾患として、脳血管障害、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についての講義を通してリハビリテーション専門職として必要なリハビリテーション医学の基礎知識を学ぶ。また治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、診断、治療等を学ぶ。                                                                                                                                                                         |    |  |
|                                     | 救急救命医学      | 【目的】この科目では救急救命医学の基礎知識を学ぶことを目的とする。リハビリテーションでは、心疾患患者など生命にかかわるようなリスクを抱えながら進めることになる。また、脳血管リハビリテーションでは脳卒中等の急性期管理などの危険を伴う。医療事故の発生防止対策及び医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につける。<br>【方法】緊急時場合にはどうすれば安全に援助できるかを事例に基づいてその概念を習得して事故防止に努めるとともに、実際に救急時の対応方法を習得できるように進める。                                                        | 旧科目「医療安全管理学」より名称変更。内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため「救急救命の基礎」に対して、本科目に対応する。                                            |  |                                     | 医療安全管理学     | 【目的】リハビリテーションでは、心疾患患者など生命にかかわるようなリスクを抱えながら進めることになる。また、脳血管リハビリテーションでは脳卒中等の急性期管理などの危険を伴う。医療事故の発生防止対策及び医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につける。<br>【方法】緊急時場合にはどうすれば安全に援助できるかを事例に基づいてその概念を習得して事故防止に努めるとともに、実際に救急時の対応方法を習得できるように進める。                                                                                     |    |  |
|                                     | 薬理学         | 【目的】リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。<br>【方法】教科書を中心に、リハビリテーションに関わる内容を中心に講義を行う。                                                                                                  | リハビリテーション関連分野より移行(新指定規則では「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」に分類されるため臨床医学へ移行)・内容変更なし。新指定規則の要件を満たすため、「薬理の基礎」に対して、本科目に対応する。 |  |                                     |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |    |  |
|                                     | 栄養学         | 【目的】従来、栄養学では食品を対象として、その栄養素及び物性等が、どのように体内で消化・吸収されているかが研究されてきた。しかし、近年、食品を摂取する生体の機能面からも盛んに研究されている。本講義を通じて、栄養摂取は単に生命維持のためのみではなく、QOLに大きな影響を及ぼしていることを理解することを目的とする。<br>【方法】講義が中心となる。栄養を食品面と生体面の双方から概観する。特に、医療及びリハビリテーションに関連して、栄養管理法も学んでいく。経口摂取による良好な栄養状態が、リハビリテーション効果を促進させる等の実例に触れながら、口から栄養がとれなくなった場合の基本的対処法も習得していく。              | リハビリテーション関連分野より移行(新指定規則では「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」に分類されるため臨床医学へ移行)・内容変更なし。新指定規則の要件を満たすため、「栄養の基礎」に対して、本科目に対応する。 |  |                                     |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |    |  |
|                                     | 感染症学        | 【目的】数々の抗生物質やワクチンの登場以来、「感染症」は終わったとの見方が医療関係者や研究者の間で大勢を占めつつあった。そんな時に病原大腸菌0-157 が興った。忘れつつあった細菌の襲来である。感染症、それはヒトが生きている限り、他の生物との関わりの中で、避けられない環境の中で起こる1つの現象である。学問としての内容は古典的な面は多くあるが、忘れてはいけない医学微生物科学の一分野である。そのため、感染予防対策を伝染病という観点からも眺める。<br>【方法】本講義においては、他の生物との兼ね合いを考えながら、解剖生理学、免疫学、疫学等を背景にし、広い視点から学習をすすめる。リハビリテーション現場での具体的な問題を考察する。 | 変更なし。                                                                                                      |  |                                     | 感染症学        | 【目的】数々の抗生物質やワクチンの登場以来、「感染症」は終わったとの見方が医療関係者や研究者の間で大勢を占めつつあった。そんな時に病原大腸菌0-157 が興った。忘れつつあった細菌の襲来である。感染症、それはヒトが生きている限り、他の生物との関わりの中で、避けられない環境の中で起こる1つの現象である。学問としての内容は古典的な面は多くあるが、忘れてはいけない医学微生物科学の一分野である。そのため、感染予防対策を伝染病という観点からも眺める。<br>【方法】本講義においては、他の生物との兼ね合いを考えながら、解剖生理学、免疫学、疫学等を背景にし、広い視点から学習をすすめる。リハビリテーション現場での具体的な問題を考察する。 |    |  |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                      |  | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |              |                                                                                                                                                                                                                                                                              |    |  |
|-------------------------------------|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|--|-------------------------------------|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--|
| 科目区分                                | 授業科目の名称      | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                              | 備考                                                                   |  | 科目区分                                | 授業科目の名称      | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                       | 備考 |  |
| 社会福祉                                | リハビリテーション概論  | <p>【目的】保健・医療・福祉を中心に、今日のリハビリテーションに関わるさまざまな問題を体系的に学べるように進めて行き、介護保険法の一部改正、障害者自立支援法の成立、就労支援・学校教育法の改正など包括的に理解することを目的とする。</p> <p>【方法】テキストを用いて、体系的に学ぶ講義を進める。特に、「リハビリテーションとは何か」、その本質にふれ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ってもらうことを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史の変遷、障がい者と障がいのレベル、機能障害の測定・評価法など実例を提示して進める。</p> | 内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため、「自立支援、就労支援の理解」に対して、本科目に対応する。                   |  | 社会福祉                                | リハビリテーション概論  | <p>【目的】保健・医療・福祉を中心に、今日のリハビリテーションに関わるさまざまな問題を体系的に学べるように進めて行き、介護保険法の一部改正、障害者自立支援法の成立、学校教育法の改正など包括的に理解することを目的とする。</p> <p>【方法】テキストを用いて、体系的に学ぶ講義を進める。特に、「リハビリテーションとは何か」、その本質にふれ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ってもらうことを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史の変遷、障害者と障害のレベル、機能障害の測定・評価法など実例を提示して進める。</p> |    |  |
|                                     | 社会保障論        | <p>【目的】本邦において社会保障制度は医療制度と並んで一生をカバーするセーフティネットの役割を果たしている。社会保障の概念や対象及びその理念等について現代社会の課題と関連させながら理解することを目的とする。</p> <p>【方法】講義を中心とするが、必要に応じて映像資料を用いる。改正案等が出される場合が多いので、新聞記事も併用する。</p>                                                                                                        | 新指定規則の要件を満たすため、「社会保障論の理解」に対して、本科目に対応する。                              |  |                                     | 社会保障論        | <p>【目的】本邦において社会保障制度は医療制度と並んで一生をカバーするセーフティネットの役割を果たしている。社会保障の概念や対象及びその理念等について現代社会の課題と関連させながら理解することを目的とする。</p> <p>【方法】講義を中心とするが、必要に応じて映像資料を用いる。改正案等が出される場合が多いので、新聞記事も併用する。</p>                                                                                                 |    |  |
|                                     | 公的扶助論        | <p>【目的】低所得層の生活実施と社会的背景を学ぶ。また、生活保護制度と関連する他制度を学ぶ。低所得問題を抱える対象者やその社会的原因について考察することを通じて、専門職としての社会的役割や倫理的価値観について理解を深める。</p> <p>【方法】教科書や映像資料を用いた講義を行う。また、映像資料や実践事例等を用いて、個人ワーク・グループワークなどを行う。実際に地域で起こっている事例や各専門職の支援内容について紹介する。</p>                                                            | 変更なし。                                                                |  |                                     | 公的扶助論        | <p>【目的】低所得層の生活実施と社会情勢、福祉需要について理解する。生活保護制度と関連する他制度について理解する。【方法】教科書や配付資料を用いた講義を行う。その後、グループワークにて事例を用いて自立支援プログラムを立案する。</p>                                                                                                                                                       |    |  |
|                                     | 権利擁護と成年後見制度論 | <p>【目的】地域を基盤として行われる権利擁護の基本的視座を学ぶ。また、成年後見制度の制定背景・理念・仕組みについて学ぶとともに、高齢者虐待防止法等の周辺法律や専門職として知っておきたい権利擁護に関する社会資源について学ぶ。</p> <p>【方法】教科書や映像資料を用いた講義を行う。また、映像資料や実践事例等を用いて、個人ワーク・グループワークなどを行う。実際に地域で起こっている事例や各専門職の支援内容について紹介する。</p>                                                            | 変更なし。                                                                |  |                                     | 権利擁護と成年後見制度論 | <p>【目的】地域を基盤として行われる権利擁護の基本的視座を学ぶ。また、成年後見制度の制定背景・理念・仕組みについて学ぶとともに、高齢者虐待防止法等の周辺法律や専門職として知っておきたい権利擁護に関する社会資源について学ぶ。</p> <p>【方法】教科書や映像資料を用いた講義を行う。また、映像資料や実践事例等を用いて、個人ワーク・グループワークなどを行う。実際に地域で起こっている事例や各専門職の支援内容について紹介する。</p>                                                     |    |  |
|                                     | 地域包括ケア論      | <p>【目的】地域包括ケアシステムの基礎理論及び地域福祉の実践と運営に必要な知識と方法論について理解することを目的とする。住民と専門職の協働による地域福祉の展開方法、連携の意義、地域包括ケアシステム、介護・医療連携について学ぶ。</p> <p>【方法】教科書、映像資料等を用いて、地域包括ケアシステムの基本的理念や方法について講義を行う。また、地域づくりの実践事例を紹介し、住民・福祉職・医療職が協働して地域づくりを行うことの意義と方法を学ぶ。</p>                                                  | 旧科目「地域福祉論」より名称変更。内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため、「地域包括ケアシステムの理解」に対して、本科目に対応する。 |  |                                     | 地域福祉論        | <p>【目的】地域福祉の基礎理論及び地域福祉の実践と運営に必要な知識と方法論について理解することを目的とする。住民と専門職の協働による地域福祉の展開方法、連携の意義、地域包括ケアシステム、介護・医療連携について学ぶ。</p> <p>【方法】教科書、映像資料等を用いて、地域福祉の基本的理念や方法について講義を行う。また、地域づくりの実践事例を紹介し、住民・福祉職・医療職が協働して地域づくりを行うことの意義と方法を学ぶ。</p>                                                       |    |  |
|                                     | 福祉財政論        | <p>【目的】福祉財政の基本について学ぶ。国・都道府県・市町村の役割と関係、財源等を学び、社会福祉と財政がどのように関係にあるのかを学ぶとともに、現代日本が抱えている財政的問題について理解を深める。</p> <p>【方法】教科書・配布資料を用いた講義を行う。「財政」は、学生にとって馴染みがない領域である点を踏まえ、基礎的な理解に重点をおいた講義を行う。「福祉」と「お金」の問題について、事例を用いながら説明を行う。</p>                                                                | 変更なし。                                                                |  |                                     | 福祉財政論        | <p>【目的】福祉財政の基本について学ぶ。国・都道府県・市町村の役割と関係、財源等を学び、社会福祉と財政がどのように関係にあるのかを学ぶとともに、現代日本が抱えている財政的問題について理解を深める。</p> <p>【方法】教科書・配布資料を用いた講義を行う。「財政」は、学生にとって馴染みがない領域である点を踏まえ、基礎的な理解に重点をおいた講義を行う。「福祉」と「お金」の問題について、事例を用いながら説明を行う。</p>                                                         |    |  |
|                                     | 高次脳機能障害学概論   | <p>【目的】我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのか、などについて学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】上記の高次脳機能およびその臨床像について、座学を中心に講義を進める。その中で、高次脳機能障害の抽出に使用する各種の検査器具等についても紹介する。</p>                                                       | 変更なし。                                                                |  |                                     | 高次脳機能障害学概論   | <p>【目的】我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのか、などについて学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】上記の高次脳機能およびその臨床像について、座学を中心に講義を進める。その中で、高次脳機能障害の抽出に使用する各種の検査器具等についても紹介する。</p>                                                |    |  |
| リハビリ関連科目                            | 摂食・嚥下障害学概論   | <p>【目的】摂食・嚥下機能ととりわけ関係の深い顎口腔系の構造と機能を理解し、また、それらが障害された場合の病態像やリハビリテーションの基礎等を学ぶ。</p> <p>【方法】正常な摂食・嚥下のメカニズムについて、解剖学的・生理学的な知識を身につける。さらに、それらの機能が障害された場合の病態、障害されるメカニズム、リハビリテーションの基礎等を学ぶ。また、摂食・嚥下障害の人たちに対して、リハビリテーションスタッフがどのように関わったらよいかを知る。</p>                                               | 変更なし。                                                                |  | リハビリ関連科目                            | 摂食・嚥下障害学概論   | <p>【目的】摂食・嚥下機能ととりわけ関係の深い顎口腔系の構造と機能を理解し、また、それらが障害された場合の病態像やリハビリテーションの基礎等を学ぶ。</p> <p>【方法】正常な摂食・嚥下のメカニズムについて、解剖学的・生理学的な知識を身につける。さらに、それらの機能が障害された場合の病態、障害されるメカニズム、リハビリテーションの基礎等を学ぶ。また、摂食・嚥下障害の人たちに対して、リハビリテーションスタッフがどのように関わったらよいかを知る。</p>                                        |    |  |
|                                     | 基礎運動学Ⅰ       | <p>【目的】リハビリテーションを実施するために必要な、基本的用語や身体運動に関する分析方法を学ぶ。</p> <p>【方法】グループワークを中心に、解剖学や生理学の知識を統合し、身体の構造や機能について学生相互の説明やデモンストレーションを用い、運動に関する考え方を共有する。</p>                                                                                                                                      | 旧科目「基礎運動学概論」より名称変更。内容変更なし。                                           |  |                                     | 基礎運動学概論      | <p>【目的】リハビリテーションを実施するために必要な、基本的用語や身体運動に関する分析方法を学ぶ。</p> <p>【方法】グループワークを中心に、解剖学や生理学の知識を統合し、身体の構造や機能について学生相互の説明やデモンストレーションを用い、運動に関する考え方を共有する。</p>                                                                                                                               |    |  |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                              | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |           |
|-------------------------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|-------------------------------------|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称      | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 備考                                           | 科目<br>区分                            | 授業科目の名称  | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 備考        |
|                                     | 基礎運動学Ⅱ       | 【目的】基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習についての確に説明でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。<br>【方法】教科書、資料を使用し、講義を中心に行う。<br>本科目は主として、「四肢と体幹の運動」、「運動と動作の分析」、「体力と運動処方」などを講義する。                                                                                                                                                             | 旧科目「基礎運動学各論Ⅰ」より名称変更。内容変更なし。                  |                                     | 基礎運動学各論Ⅰ | 【目的】基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習についての確に説明でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。<br>【方法】教科書、資料を使用し、講義を中心に行う。<br>本科目は主として、「四肢と体幹の運動」、「運動と動作の分析」、「体力と運動処方」などを講義する。                                                                                                                                                             |           |
|                                     | 基礎運動学Ⅲ       | 【目的】基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習についての確に説明でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。<br>【方法】教科書、資料を使用し、講義を中心に行う。<br>本科目は主として、「姿勢（立位姿勢の異常）」、「歩行（異常歩行）」、「運動発達」などを講義する。                                                                                                                                                             | 旧科目「基礎運動学各論Ⅱ」より名称変更。内容変更なし。                  |                                     | 基礎運動学各論Ⅱ | 【目的】基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習についての確に説明でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。<br>【方法】教科書、資料を使用し、講義を中心に行う。<br>本科目は主として、「姿勢（立位姿勢の異常）」、「歩行（異常歩行）」、「運動発達」などを講義する。                                                                                                                                                             |           |
|                                     | チーム医療学Ⅰ      | 【目的】リハビリテーション医療は多くの専門職がかかわるチーム医療であり、中核的技術である理学療法、作業療法、言語聴覚療法の連携の重要性はもちろんのこと、その他の多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要となる。この科目では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解することを目的とする。<br>【方法】実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。また、学生同士の討論、発表を重視する。                                                       | 新指定規則の要件を満たすため、「多職種連携の理解」に対して、本科目で対応する。      |                                     | チーム医療学Ⅰ  | 【目的】リハビリテーション医療は多くの専門職がかかわるチーム医療であり、中核的技術である理学療法、作業療法、言語聴覚療法の連携の重要性はもちろんのこと、その他の多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要となる。この科目では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解することを目的とする。<br>【方法】実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。また、学生同士の討論、発表を重視する。                                                       |           |
|                                     | チーム医療学Ⅱ      | 【目的】対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもちろんであるが、さらに広く保健・医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。この科目では、「チーム医療学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、実際的な事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようにすることを目的とする。<br>【方法】実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義し、それを基に討論する。模擬症例（仮想事例）を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。 | 新指定規則の要件を満たすため、「多職種連携の理解」に対して、本科目で対応する。      |                                     | チーム医療学Ⅱ  | 【目的】対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもちろんであるが、さらに広く保健・医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。この科目では、「チーム医療学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、実際的な事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようにすることを目的とする。<br>【方法】実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義し、それを基に討論する。模擬症例（仮想事例）を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。 |           |
|                                     | 予防リハビリテーション学 | 【目的】健康で生き生きとした生活を支援することを目標に、医療従事者が必要とする以下の疾病予防の3層について学ぶ。<br>①日常生活を送る上で介護が必要な状態に陥ることを予防すること。<br>②要介護状態にある方の場合介護状態が重度化していくことを予防すること。<br>③再び要介護状態に陥ることのないように再発予防を行うこと。<br>【方法】予防リハビリテーションの基礎知識と具体的な対処方法を講義を通して学ぶ。                                                                                                                                   | 新設科目、新指定規則の要件を満たすため、「予防の基礎の必須化」に対し、本科目で対応する。 |                                     |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |           |
|                                     | 老年心理学        | 【目的】一般に老年期は否定的なイメージで理解されるが、人間を生涯発達する存在としたなかでは発達の最終段階に相当する。高齢期リハビリテーションを促進するため、加齢による身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年期特有の課題や認知症などについて学修する。<br>【方法】加齢による身体・認知機能やパーソナリティ、家族機能などの変化について、正常範囲にあるとされる老化を踏まえた上で疾病や障害を伴う老化を理解する。                                                                                                                                      | 変更なし。                                        |                                     | 老年心理学    | 【目的】一般に老年期は否定的なイメージで理解されるが、人間を生涯発達する存在としたなかでは発達の最終段階に相当する。高齢期リハビリテーションを促進するため、加齢による身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年期特有の課題や認知症などについて学修する。<br>【方法】加齢による身体・認知機能やパーソナリティ、家族機能などの変化について、正常範囲にあるとされる老化を踏まえた上で疾病や障害を伴う老化を理解する。                                                                                                                                      |           |
|                                     | 認知症          | 【目的】認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。<br>【方法】座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。                                                                                                                                                                                     | 変更なし。                                        |                                     | 認知症      | 【目的】認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。<br>【方法】座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。                                                                                                                                                                                     |           |
|                                     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                              |                                     | 薬理学      | 【目的】リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。<br>【方法】教科書を中心に、リハビリテーションに関わる内容を中心に講義を行う。                                                                                                                        | 臨床医学分野に移動 |
|                                     |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                              |                                     | 生化学      | 【目的】生化学は生命現象を科学的に解釈する学問であり、生理学や分子生理学を含めた他の多くの学問の基礎的立場にあるため、リハビリテーション医療学に必要な生化学の基礎を修得する。<br>【方法】本講義では、細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能、生体物質の代謝とその調節、遺伝子の構造と発現調節について解説する。                                                                                                                                                                                      | 廃止        |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |           |
|-------------------------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------------------------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 科目区分                                | 授業科目の名称   | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 備考    | 科目区分                                | 授業科目の名称   | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 備考        |
|                                     |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |                                     | 栄養学       | <p>【目的】従来、栄養学では食品を対象として、その栄養素及び物性等が、どのように体内で消化・吸収されているのかが研究されてきた。しかし、近年、食品を摂取する生体の機能面からも盛んに研究されている。本講義を通じて、栄養摂取は単に生命維持のためのみではなく、QOLに大きな影響を及ぼしていることを理解することを目的とする。</p> <p>【方法】講義が中心となる。栄養食品面と生体面の双方から概観する。特に、医療及びリハビリテーションに関連して、栄養管理法も学んでいく。経口摂取による良好な栄養状態が、リハビリテーション効果を促進させる等の実例に触れながら、口から栄養がとれなくなった場合の基本的対処法も習得していく。</p>             | 臨床医学分野に移動 |
|                                     |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |                                     | 健康実践科学Ⅰ   | <p>【目的】生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などについて運動面・生活指導の概要について学ぶ。内容は病院や福祉施設などのメディカルスタッフと連携、メタボリック症候群の予防や生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢化をふまえた介護予防のための運動指導を専門的に学ぶ。</p> <p>【方法】講義を中心として基本的理論を学修する。本科目は主として、「健康づくり施策概論」、「運動生理学」、「栄養摂取と運動」などを講義する。</p>                                                                                                            | 廃止        |
|                                     |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |                                     | 健康実践科学Ⅱ   | <p>【目的】生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などについて運動面・生活指導の概要について学ぶ。内容は病院や福祉施設などのメディカルスタッフと連携、メタボリック症候群の予防や生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢化をふまえた介護予防のための運動指導を専門的に学ぶ。</p> <p>【方法】講義を中心として基本的理論を学修する。本科目は主として、「体力の測定と評価」、「健康づくりと運動プログラム」、「健康づくり運動の実践」などを講義する。</p>                                                                                                  | 廃止        |
|                                     |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |       |                                     | 健康実践科学実習  | <p>【目的】生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などを目的とした実習（健康管理指導、エアロビックスなどの運動プログラム、ストレッチング、体力測定など）を行い内容を理解する。</p> <p>【方法】「健康実践科学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ理論を基に各種の運動プログラム・指導を体験し理解する。</p>                                                                                                                                                                                    | 廃止        |
|                                     | 心理測定法Ⅰ    | <p>【目的】特にリハビリテーション臨床において必要となる、認知・情動・人格・各種機能などの測定・評価方法について、正確な測定・評価技術の習得のみでなく、その背後にある概念を理解し、測定の限界や評価が患者に与える影響をも理解し身につける。</p> <p>【方法】認知や人格などを測定し評価する実証的な研究方法を概説するとともに、リハビリテーション臨床において有用な各種検査法を紹介し、可能な限り実際の検査に触れて評価の手順を体得する。検査者としてだけでなく、常に被検査者の立場を理解しようとしながら学習する。本科目は主として、「心理測定法とは」、「基礎的な心理統計」、「テスト理論」などを講義する。</p>                      | 変更なし。 |                                     | 心理測定法Ⅰ    | <p>【目的】特にリハビリテーション臨床において必要となる、認知・情動・人格・各種機能などの測定・評価方法について、正確な測定・評価技術の習得のみでなく、その背後にある概念を理解し、測定の限界や評価が患者に与える影響をも理解し身につける。</p> <p>【方法】認知や人格などを測定し評価する実証的な研究方法を概説するとともに、リハビリテーション臨床において有用な各種検査法を紹介し、可能な限り実際の検査に触れて評価の手順を体得する。検査者としてだけでなく、常に被検査者の立場を理解しようとしながら学習する。本科目は主として、「心理測定法とは」、「基礎的な心理統計」、「テスト理論」などを講義する。</p>                      |           |
|                                     | 心理測定法Ⅱ    | <p>【目的】特にリハビリテーション臨床において必要となる、認知・情動・人格・各種機能などの測定・評価方法について、正確な測定・評価技術の習得のみでなく、その背後にある概念を理解し、測定の限界や評価が患者に与える影響をも理解し身につける。</p> <p>【方法】認知や人格などを測定し評価する実証的な研究方法を概説するとともに、リハビリテーション臨床において有用な各種検査法を紹介し、可能な限り実際の検査に触れて評価の手順を体得する。検査者としてだけでなく、常に被検査者の立場を理解しようとしながら学習する。本科目は主として、「精神物理学的測定法」、「尺度構成法」などを講義する。</p>                               | 変更なし。 |                                     | 心理測定法Ⅱ    | <p>【目的】特にリハビリテーション臨床において必要となる、認知・情動・人格・各種機能などの測定・評価方法について、正確な測定・評価技術の習得のみでなく、その背後にある概念を理解し、測定の限界や評価が患者に与える影響をも理解し身につける。</p> <p>【方法】認知や人格などを測定し評価する実証的な研究方法を概説するとともに、リハビリテーション臨床において有用な各種検査法を紹介し、可能な限り実際の検査に触れて評価の手順を体得する。検査者としてだけでなく、常に被検査者の立場を理解しようとしながら学習する。本科目は主として、「精神物理学的測定法」、「尺度構成法」などを講義する。</p>                               |           |
|                                     | 知覚・認知心理学Ⅰ | <p>【目的】人間を一種の情報処理システムとして捉え、①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害などの認知心理学の基礎的知見を理解し修得することを目的とする。</p> <p>【方法】講義では、まず、「視知覚」「記憶」「言語」などの心理学的な実験を通して明らかにされた人間の認知メカニズムについて概説する。さらに、認知の歪みから不適応を引き起こすとはどういうことなのか、記憶障害をもつ人どのような支援ができるか、などのトピックを紹介し、臨床場面における認知心理学的研究の成果についても言及していく。本科目は主として、「感覚」、「知覚・認知」などを講義する。</p>                            | 変更なし。 |                                     | 知覚・認知心理学Ⅰ | <p>【目的】人間を一種の情報処理システムとして捉え、①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害などの認知心理学の基礎的知見を理解し修得することを目的とする。</p> <p>【方法】講義では、まず、「視知覚」「記憶」「言語」などの心理学的な実験を通して明らかにされた人間の認知メカニズムについて概説する。さらに、認知の歪みから不適応を引き起こすとはどういうことなのか、記憶障害をもつ人どのような支援ができるか、などのトピックを紹介し、臨床場面における認知心理学的研究の成果についても言及していく。本科目は主として、「感覚」、「知覚・認知」などを講義する。</p>                            |           |
|                                     | 知覚・認知心理学Ⅱ | <p>【目的】人間を一種の情報処理システムとして捉え、①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害などの認知心理学の基礎的知見を理解し修得することを目的とする。</p> <p>【方法】講義では、まず、「視知覚」「記憶」「言語」などの心理学的な実験を通して明らかにされた人間の認知メカニズムについて概説する。さらに、認知の歪みから不適応を引き起こすとはどういうことなのか、記憶障害をもつ人どのような支援ができるか、などのトピックを紹介し、臨床場面における認知心理学的研究の成果についても言及していく。本科目は主として、「記憶」、「思考」、「言語」などを講義する。</p>                          | 変更なし。 |                                     | 知覚・認知心理学Ⅱ | <p>【目的】人間を一種の情報処理システムとして捉え、①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害などの認知心理学の基礎的知見を理解し修得することを目的とする。</p> <p>【方法】講義では、まず、「視知覚」「記憶」「言語」などの心理学的な実験を通して明らかにされた人間の認知メカニズムについて概説する。さらに、認知の歪みから不適応を引き起こすとはどういうことなのか、記憶障害をもつ人どのような支援ができるか、などのトピックを紹介し、臨床場面における認知心理学的研究の成果についても言及していく。本科目は主として、「記憶」、「思考」、「言語」などを講義する。</p>                          |           |
|                                     | 学習・言語心理学Ⅰ | <p>【目的】人間の生涯において①人の行動が変化する過程、②言語の習得における機序などについて、心理学的な学習研究の基本的理論と基礎的知見について学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】講義が中心となる。内容は、条件づけ、社会的学習、自発的学習、技術学習等である。行動の基盤に「学習」のメカニズムが機能していることを理解し、人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることが説明でき、さらに、将来の臨床現場における多くの問題に対して、学習心理学の理論を応用していくことができるよう、学習の原理を学修する。</p> <p>本科目は主として、「学習とは何か」、「古典的条件づけ」、「オペラント条件づけ」などを講義する。</p> | 変更なし。 |                                     | 学習・言語心理学Ⅰ | <p>【目的】人間の生涯において①人の行動が変化する過程、②言語の習得における機序などについて、心理学的な学習研究の基本的理論と基礎的知見について学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】講義が中心となる。内容は、条件づけ、社会的学習、自発的学習、技術学習等である。行動の基盤に「学習」のメカニズムが機能していることを理解し、人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることが説明でき、さらに、将来の臨床現場における多くの問題に対して、学習心理学の理論を応用していくことができるよう、学習の原理を学修する。</p> <p>本科目は主として、「学習とは何か」、「古典的条件づけ」、「オペラント条件づけ」などを講義する。</p> |           |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |         |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻)                                            |      |         |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |             |
|--------------------------------------|---------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|------|---------|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
| 科目区分                                 |         | 授業科目の名称   | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 備考                                                                              | 科目区分 |         | 授業科目の名称   | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 備考          |
|                                      |         | 学習・言語心理学Ⅱ | 【目的】人間の生涯において①人の行動が変化する過程、②言語の習得における機序などについて、心理学的な学習研究の基本的理論と基礎的知見について学ぶことを目的とする。<br>【方法】講義が中心となる。内容は、条件づけ、社会的学習、自発的学習、技能学習等である。行動の基盤に「学習」のメカニズムが機能していることを理解し、人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることが説明でき、さらに、将来の臨床現場における多くの問題に対して、学習心理学の理論を応用していくことができるよう、学習の原理を学修する。<br>本科目は主として、「社会的学習」、「技能学習」、「問題解決と推理」などを講義する。                     | 変更なし。                                                                           |      |         | 学習・言語心理学Ⅱ | 【目的】人間の生涯において①人の行動が変化する過程、②言語の習得における機序などについて、心理学的な学習研究の基本的理論と基礎的知見について学ぶことを目的とする。<br>【方法】講義が中心となる。内容は、条件づけ、社会的学習、自発的学習、技能学習等である。行動の基盤に「学習」のメカニズムが機能していることを理解し、人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることが説明でき、さらに、将来の臨床現場における多くの問題に対して、学習心理学の理論を応用していくことができるよう、学習の原理を学修する。<br>本科目は主として、「社会的学習」、「技能学習」、「問題解決と推理」などを講義する。 |             |
| 専門分野                                 | 基礎理学療法学 | 理学療法概論    | 【目的】リハビリテーション医学の発達に伴い、理学療法の範疇は拡大している。理学療法を取り巻く状況（対象疾患、理学療法手法、職域、法律制度など）を理解し、理学療法の全体像を学修したうえで、実際に理学療法士が所属する医療施設等へ赴き、理学療法士の職場環境、他の医療関係者との関わりについて学ぶ。<br>【方法】資料を配布し、理学療法を取り巻く状況の概要を学び、理学療法の基礎を理解できるように講義を行う。本科目は主として、「理学療法の基礎」、「理学療法の法律制度」、「理学療法の対象と治療手法」などについて講義する。また、理学療法士が所属する医療機関等を少人数のグループで訪問し、理学療法の臨床現場を見学する。加えて、訪問前後に学内でセミナーを行う。 | 旧科目「理学療法概論Ⅰ」・「理学療法概論Ⅱ」・「理学療法見学実習」を「理学療法概論Ⅰ」に統合し、名称変更。時間数変更（15時間より30時間に）、内容変更あり。 | 専門分野 | 基礎理学療法学 | 理学療法概論Ⅰ   | 【目的】リハビリテーション医学の発達に伴い、理学療法の範疇は拡大している。理学療法を取り巻く状況（対象疾患、理学療法手法、職域、法律制度など）を理解し、理学療法の全体像を学修できるように講義を行う。<br>【方法】資料を配布し、理学療法を取り巻く状況の概要を学び、理学療法の基礎を理解できるように講義を行う。本科目は主として、「理学療法の基礎」、「理学療法の法律制度」、「理学療法の対象と治療手法」などについて講義する。                                                                                              | 「理学療法概論」に統合 |
|                                      |         |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                 |      |         | 理学療法概論Ⅱ   | 【目的】理学療法概論Ⅰを踏まえ、理学療法士の活動分野や、セラピストとして働いていく為に遵守すべきこと（情報管理）を理解する。またグループディスカッションを行い、自分が目指すべき理学療法士像を明確にすることを目的とする。<br>【方法】資料を配布し、理学療法として必要なことを学び、外部講師による講義も交えて、理学療法の全体像を理解できるように講義を行う。<br>本科目は主として、「理学療法の学問的体系と研究法」、「理学療法の活動分野」、「理学療法の現状について」などについて講義する。                                                             | 「理学療法概論」に統合 |
|                                      |         | 動作解析学実習Ⅰ  | 【目的】人間の正常な運動についての分析手段と原理を理解することを目的としてバイオニクスの基礎、体重心、筋電図の基礎を学修する。<br>【方法】講義と演習により基本的原理を理解した上で、実験を通して測定法の理解と得られたデータを用いて分析した結果をレポートとして提出することにより理解を深める。本科目は主として、「物体の落下運動」、「重心動揺計の利用」、「重心測定」「筋電図の概要と表面筋電図の測定法」などについて講義する。                                                                                                                 | 変更なし。                                                                           |      |         | 動作解析学実習Ⅰ  | 【目的】人間の正常な運動についての分析手段と原理を理解することを目的としてバイオニクスの基礎、体重心、筋電図の基礎を学修する。<br>【方法】講義と演習により基本的原理を理解した上で、実験を通して測定法の理解と得られたデータを用いて分析した結果をレポートとして提出することにより理解を深める。本科目は主として、「物体の落下運動」、「重心動揺計の利用」、「筋電図の概要と表面筋電図の測定法」などについて講義する。                                                                                                   |             |
|                                      |         | 運動解析学実習Ⅱ  | 【目的】人間の正常な運動についての分析手段と原理を理解することを目的としてバイオニクスの応用、立位アライメントの観察、3次元動作分析、運動負荷試験、誘発筋電図を学修する。<br>【方法】講義と演習により基本的原理を理解した上で、実験を通して測定法の理解と得られたデータを用いて分析した結果をレポートとして提出することにより理解を深める。本科目は主として、「立位アライメント」、「3次元動作解析」、「運動が循環系に与える影響」、「誘発筋電図」などについて講義する。                                                                                             | 変更なし。                                                                           |      |         | 運動解析学実習Ⅱ  | 【目的】人間の正常な運動についての分析手段と原理を理解することを目的としてバイオニクスの応用、立位アライメントの観察、3次元動作分析、運動負荷試験、誘発筋電図を学修する。<br>【方法】講義と演習により基本的原理を理解した上で、実験を通して測定法の理解と得られたデータを用いて分析した結果をレポートとして提出することにより理解を深める。本科目は主として、「立位アライメント」、「3次元動作解析」、「運動が循環系に与える影響」、「誘発筋電図」などについて講義する。                                                                         |             |
|                                      |         | 理学療法研究法Ⅰ  | 【目的】理学療法における一般的な研究手順と研究計画書・研究倫理について学ぶ。<br>【方法】講義においては研究に関わる基本的事項について学修し、具体的手法についてはグループ学修での実験を行い研究法について学んでいく。本科目は主として「少数例の研究法」、「実験計画法」、「研究のスタイルと特徴」などについて実施する。                                                                                                                                                                       | 変更なし。                                                                           |      |         | 理学療法研究法Ⅰ  | 【目的】理学療法における一般的な研究手順と研究計画書・研究倫理について学ぶ。<br>【方法】講義においては研究に関わる基本的事項について学修し、具体的手法についてはグループ学修での実験を行い研究法について学んでいく。本科目は主として、「少数例の研究法」、「実験計画法」、「研究のスタイルと特徴」などについて実施する。                                                                                                                                                  |             |
|                                      |         | 理学療法研究法Ⅱ  | 【目的】「理学療法卒業研究Ⅰ」との間で期間を空けないように、研究について継続的に学び、卒業研究へつなげる。卒業研究のためのテーマの選定や論文の探索方法、論文構成を学習し、論文内容を理解できるようにする。自学自習の習慣を身に付け、将来理学療法を行う時に必要な情報収集能力や、学習態度を身に付ける。<br>【方法】本科目は主として、「統計分析」、「文献研究」、「発表法」などについて実施する。また授業形態としてはゼミ形式を取り、文献抄読や発表会を実施することにより学生相互の情報交換を行う。                                                                                 | 変更なし。                                                                           |      |         | 理学療法研究法Ⅱ  | 【目的】「理学療法卒業研究Ⅰ」との間で期間を空けないように、研究について継続的に学び、卒業研究へつなげる。卒業研究のためのテーマの選定や論文の探索方法、論文構成を学習し、論文内容を理解できるようにする。自学自習の習慣を身に付け、将来理学療法を行う時に必要な情報収集能力や、学習態度を身に付ける。<br>【方法】本科目は主として、「統計分析」、「文献研究」、「発表法」などについて実施する。また授業形態としてはゼミ形式を取り、文献抄読や発表会を実施することにより学生相互の情報交換を行う。                                                             |             |
|                                      |         | 理学療法研究法Ⅲ  | 【目的】「理学療法卒業研究Ⅰ」との間で期間を空けないように、研究について継続的に学び、卒業研究へつなげる。卒業研究のためのテーマの選定や論文の探索方法、論文構成を学習し、論文内容を理解できるようにする。自学自習の習慣を身に付け、将来理学療法を行う時に必要な情報収集能力や、学習態度を身に付ける。<br>【方法】本科目はゼミ形式を取り主として、「パイロットスタディ」、「研究計画書の作成」、「ゼミ発表」などを実施する。                                                                                                                    | 変更なし。                                                                           |      |         | 理学療法研究法Ⅲ  | 【目的】「理学療法卒業研究Ⅰ」との間で期間を空けないように、研究について継続的に学び、卒業研究へつなげる。卒業研究のためのテーマの選定や論文の探索方法、論文構成を学習し、論文内容を理解できるようにする。自学自習の習慣を身に付け、将来理学療法を行う時に必要な情報収集能力や、学習態度を身に付ける。<br>【方法】本科目はゼミ形式を取り主として、「パイロットスタディ」、「研究計画書の作成」、「ゼミ発表」などを実施する。                                                                                                |             |
|                                      |         | 基礎運動療法学Ⅰ  | 【目的】運動療法は運動機能障害に対するものだけでなくとどまらず、生活習慣病など疾病予防や介護予防、さらにはヘルスプロモーションの領域にまで拡大しつつある。基礎運動療法学はこのような運動療法の歴史、経過を踏まえ、運動療法の目的、対象、適応、疾病と運動療法の原理・理論について学修することを目的とする。<br>【方法】運動療法の基礎知識を教科書に沿って理解を深め、理解度を確認するために間に確認試験を設ける。必要に応じて実技も行いながら講義を進める。本科目は主として、「末梢神経と中枢神経の機能の理解」、「筋の構造と筋収縮」、「骨の構造の理解」などについて講義する。                                           | 時間数変更（15時間より30時間に）、内容変更なし。                                                      |      |         | 基礎運動療法学Ⅰ  | 【目的】運動療法は運動機能障害に対するものだけでなくとどまらず、生活習慣病など疾病予防や介護予防、さらにはヘルスプロモーションの領域にまで拡大しつつある。基礎運動療法学はこのような運動療法の歴史、経過を踏まえ、運動療法の目的、対象、適応、疾病と運動療法の原理・理論について学修することを目的とする。<br>【方法】運動療法の基礎知識を教科書に沿って理解を深め、理解度を確認するために間に確認試験を設ける。必要に応じて実技も行いながら講義を進める。本科目は主として、「末梢神経と中枢神経の機能の理解」、「筋の構造と筋収縮」、「骨の構造の理解」などについて講義する。                       |             |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                                               |              |
|--------------------------------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                        | 備考                                                                             | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                        | 備考           |
|                                      | 基礎運動療法学Ⅱ   | 【目的】運動療法は運動機能障害に対するものだけでなく、とどまらず、生活習慣病など疾病予防や介護予防、さらにはヘルスプロモーションの領域にまで拡大しつつある。基礎運動療法学はこのような運動療法の歴史、経過を踏まえ、運動療法の目的、対象、適応、疾病と運動療法の原理・理論について学修することを目的とする。<br>【方法】運動療法の基礎知識を教科書に沿って理解を深め、理解度を確認するために間に確認試験を設ける。必要に応じて実技も行いながら講義を進める。<br>本科目は主として、「関節」、「運動の様式」、「筋力増強運動」などについて講義する。 | 時間数変更（15時間より30時間に）、内容変更なし。                                                     | 基礎<br>理<br>学<br>療<br>法<br>学          | 基礎運動療法学Ⅱ   | 【目的】運動療法は運動機能障害に対するものだけでなく、とどまらず、生活習慣病など疾病予防や介護予防、さらにはヘルスプロモーションの領域にまで拡大しつつある。基礎運動療法学はこのような運動療法の歴史、経過を踏まえ、運動療法の目的、対象、適応、疾病と運動療法の原理・理論について学修することを目的とする。<br>【方法】運動療法の基礎知識を教科書に沿って理解を深め、理解度を確認するために間に確認試験を設ける。必要に応じて実技も行いながら講義を進める。<br>本科目は主として、「関節」、「運動の様式」、「筋力増強運動」などについて講義する。 |              |
|                                      | 臨床運動学      | 【目的】臨床運動学は、臨床症例における身体運動を分析する際の基本的知識、技術、思考過程を習得する目的で行う。<br>【方法】様々な疾患における特徴的な動作について、画像や映像などを使用し、観察や評価を通して運動学的な分析を行う過程を学習する。                                                                                                                                                     | 旧科目「臨床運動学Ⅰ」・「臨床運動学ⅡⅡ」を「臨床運動学」に統合し、名称変更。時間数変更（15時間より30時間に）、内容変更あり。              |                                      | 臨床運動学Ⅰ     | 【目的】臨床運動学は、臨床症例における身体運動を分析する際の基本的知識、技術、思考過程を習得する目的で行う。<br>【方法】様々な疾患の中から特徴的「動き」について、画像や映像などを使用し、観察や評価を通して運動学的な分析を行う過程を学習する。<br>本科目は主として「基礎運動学の確認」、「身体運動の基礎」、「姿勢と動作」などについて講義する。                                                                                                 | 「臨床運動学」に統合   |
| 理<br>学<br>療<br>法<br>管<br>理<br>学      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                | 理<br>学<br>療<br>法<br>管<br>理<br>学      | 臨床運動学Ⅱ     | 【目的】臨床運動学は、臨床症例における身体運動を分析する際の基本的知識、技術、思考過程を習得する目的で行う。<br>【方法】様々な疾患の中から特徴的「動き」について、画像や映像などを使用し、観察や評価を通して運動学的な分析を行う過程を学習する。<br>本科目は主として、「歩行」、「臨床動作分析：ケーススタディ」などについて講義する。                                                                                                       | 「臨床運動学」に統合   |
|                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                |                                      | 理学療法見学実習   | 【目的】理学療法見学実習は、近隣の医療施設または老人保健施設等理学療法士が所属している施設に赴き、理学療法士の職場環境、他の医療関係者との関わりについて学び、自ら進む理学療法士像のイメージを創ることを目的とする。<br>【方法】少人数（3～4名）のグループを構成し、1週間の日程とする。1週間のうち3日間は医療施設または老人保健施設等理学療法士が所属している施設に赴き、前後1日は学内にて専任教員のもとセミナーを実施する。                                                           | 「理学療法概論」に統合  |
|                                      | 職場管理学      | 【目的】リハビリテーション医療の組織体において、理学療法部門の管理・運営（マネジメント）が円滑に実施されることの必要性について認識し、そのために必要な知識、技術等について学修することを目的とする。技術運用の基本としては、関連法規・制度等の知識について、また、部門運営のための人事に関する運用等について理解すると共に医療提供者としての高い倫理的意識を涵養する機会とする。<br>【方法】教科書と必要に応じて資料配付により講義およびグループワークを交えて行う。                                          | 新設科目、新指定規則の要件を満たすため、理学療法管理学の分野を新設し、新指定規則の要件を満たすため、「職場管理」に対して、本科目で対応する。         | 理<br>学<br>療<br>法<br>管<br>理<br>学      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                               |              |
|                                      | 職業倫理       | 【目的】医療技術が進歩し、価値観の多様化が進行する社会の中で、改めて個人の人權の尊重とは何か、人として守るべき秩序とは何かを学ぶ。医療従事者として、理学療法士としての社会的な役割や責任を果たすために職業人としての行動を律する基準、規範を理解し、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。<br>【方法】配布資料、参考書を用いての講義及びグループワークを交えて行う。                                                                           | 新設科目、新指定規則の要件を満たすため、理学療法管理学の分野を新設し、新指定規則の要件を満たすため、「理学療法教育及び職業倫理」に対して、本科目で対応する。 |                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                               |              |
|                                      | 理学療法評価学    | 【目的】対象者の身体状況を把握するための「理学療法評価」。まずはその種類や目的を学ぶ。また、「評価」以前の医療面接（問診）や医療人として備えておかなければならない人間性、社会性について学ぶ。<br>【方法】教授資料：指定教科書およびスライドを使用する。学修形式は座学および実技であるが、全講義時間の半分以上は実技とする。主として、理学療法評価の紹介後、グループに分かれて実技を行う。                                                                               | 旧科目「理学療法評価学Ⅰ」・「理学療法評価学Ⅱ」を「理学療法評価学」に統合し、名称変更。2単位、30時間とする。内容変更あり。                | 理<br>学<br>療<br>法<br>評<br>価<br>学      | 理学療法評価学Ⅰ   | 【目的】対象者の身体状況を把握するための「評価」。まずはその種類や目的を学ぶ。また、「評価」以前の問診方法、医療人として備えておかなければならないことを学ぶ。<br>【方法】教授資料：指定教科書及びスライドを使用。学修形式は座学及び実技。本科目は主として、「理学療法評価の紹介」、「問診の目的とやり方」、「反射、感覚テストの目的とやり方」などについて講義する。                                                                                          | 「理学療法評価学」に統合 |
|                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                                |                                      | 理学療法評価学Ⅱ   | 【目的】理学療法評価学Ⅰで学んだ内容を定着させるため座学と実技を組み合わせ学修する。また複数人によるグループを形成し、グループ評価、発表を行う。<br>【方法】教授資料：指定教科書及びスライドを使用。学修形式は座学及び実技。本科目は主として、「関節可動域検査の目的とやり方」、「徒手筋力検査の目的とやり方」、「その他の評価の目的とやり方」などについて講義する。                                                                                          | 「理学療法評価学」に統合 |
|                                      | 理学療法評価学実習Ⅰ | 【目的】臨床で必要とされる基本的な理学療法評価法に関する知識、技術を習得する。<br>【方法】デモンストレーションや画像などをもとに、理学療法に関する評価技術を学び、実践する。また、評価方法の項目ごとに確認試験を実施し、技術向上を図る。本科目は主として、「理学療法評価概説」、「触診・バイタルサイン評価」、「姿勢評価、形態計測、脳神経検査、感覚検査、反射検査、片麻痺機能検査、高次脳検査」などについて実習する。                                                                 | 内容の変更あり。                                                                       |                                      | 理学療法評価学実習Ⅰ | 【目的】臨床で必要とされる基本的な理学療法評価法に関する知識、技術を習得する。<br>【方法】デモンストレーションや画像などをもとに、理学療法に関する評価技術を学び、実践する。また、評価方法の項目ごとに確認試験を実施し、技術向上を図る。本科目は主として、「理学療法評価概説」、「触診・バイタルサイン評価」、「姿勢評価、形態計測、脳神経検査、感覚検査、反射検査、片麻痺機能検査・ROM検査」などについて実習する。                                                                 |              |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                              | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                                          |                             |
|--------------------------------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 備考                                                                           | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                   | 備考                          |
|                                      | 理学療法評価学実習Ⅱ | 【目的】臨床で必要とされる基本的な理学療法評価法に関する知識、技術を得得する。<br>【方法】デモンストレーションや画像などをもとに、理学療法に関する評価技術を学び、実践する。また、評価方法の項目ごとに確認試験を実施し、技術向上を図る。本科目は主として、「関節可動域検査」、「徒手筋力検査」などについて実習する。実際に身に付けた技術に対して客観的臨床能力を評価する。                                                                                                               | 内容の変更あり。                                                                     |                                      | 理学療法評価学実習Ⅱ | 【目的】臨床で必要とされる基本的な理学療法評価法に関する知識、技術を得得する。<br>【方法】デモンストレーションや画像などをもとに、理学療法に関する評価技術を学び、実践する。また、評価方法の項目ごとに確認試験を実施し、技術向上を図る。本科目は主として、「関節可動域検査」、「徒手筋力検査」などについて実習する。                                                                                                             |                             |
|                                      | 理学療法評価学演習  | 【目的】症例に対して、その病態像を把握し、症例に即した適切な理学療法評価を選択でき、実施できるようにすることを目的とする。さらに、評価実習に必要な知識を修得することを目的とする。<br>【方法】事例を提示し、理学療法評価に関する実技を実施する。また、個別学習、グループワークを通じて基礎分野（解剖学・生理学・運動学）、理学療法評価学に関する演習を行う。                                                                                                                      | 時間数変更（15時間より30時間に）、内容変更あり。                                                   |                                      | 理学療法評価学演習  | 【目的】症例に対して、その病態像を把握し、症例に即した適切な理学療法評価を選択でき、実施できるようにすること、また症例の評価結果より症例に即した問題点を抽出し、統合と解釈を述べることができるようになることを目的とする。さらに、臨床評価実習に必要な知識を修得することを目的とする。<br>【方法】1. 事例を提示し、評価の実施と症例レポートを作成する。<br>2. 国家試験に準じた基礎（解剖学・生理学・運動学）と理学療法評価学の試験を実施する。                                           |                             |
|                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                              |                                      | 触診学Ⅰ       | 【目的】理学療法に必要な運動器の異常を触診により検出する能力を高める。同時に体表解剖学を学ぶことにより、どのような組織に異常があるかを同定することができる。病的部位の種類や損傷の程度により、理学療法法の適応か否か、またどのような理学療法をすることが適切かを判断できるようになることを目的とする。<br>【方法】体表のランドマークになる部位、筋や靭帯の場所を触診により同定できるように実技を行う。<br>本科目は主として、「触診の基礎」、「ランドマークの触診」、「体幹筋の触診」などについて講義する。                | 理学療法治療学分野に移動し、「触察技術学」に名称変更。 |
|                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                              |                                      | 触診学Ⅱ       | 【目的】理学療法に必要な運動器の異常を触診により検出する能力を高める。同時に体表解剖学を学ぶことにより、どのような組織に異常があるかを同定することができる。病的部位の種類や損傷の程度により、理学療法法の適応か否か、またどのような理学療法をすることが適切かを判断できるようになることを目的とする。<br>【方法】体表のランドマークになる部位、筋や靭帯の場所を触診により同定できるように実技を行う。<br>本科目は主として、「上肢筋の触診」、「骨盤帯周囲筋の触診」、「下腿周囲筋の触診」などについて講義する。             | 理学療法治療学分野に移動し、「触察技術学」に名称変更。 |
|                                      | 理学療法画像評価学  | 【目的】脳画像から病変を読み取り、予測される症状に対して、理学療法治療プログラム立案ができることを目的とする。<br>【方法】症例を提示しながら、グループワークや実技を中心に講義を進める。                                                                                                                                                                                                        | 時間数変更（15時間より30時間に）、内容の変更なし。新指定規則の要件を満たすため、「医用画像の評価」に対して、本科目で対応する。            |                                      | 理学療法画像診断学  | 【目的】脳画像から病変を読み取り、予測される症状に対して、理学療法治療プログラム立案ができることを目的とする。<br>【方法】症例を提示しながら、グループワークや実技を中心に講義を進める。                                                                                                                                                                           |                             |
| 理学療法治療学                              | 物理療法学      | 【目的】この科目は、各種の物理療法的作用機序を生理学的に解説すると共に、機器の操作方法、適応疾患、禁忌について学修する。<br>【方法】本科目は主として、「物理療法概要と定義」、「痛みのメカニズムと物理療法による抑制」、「ホットパック療法」、「光線療法」、「寒冷療法」、「牽引療法」などについて講義する。                                                                                                                                              | 旧科目「物理療法学Ⅰ」・「物理療法学Ⅱ」を「物理療法Ⅰ」に統合し、名称変更。<br>時間数変更（15時間より30時間に）、内容の変更あり。        | 理学療法治療学                              | 物理療法学Ⅰ     | 【目的】この科目は、各種の物理療法的作用機序を生理学的に解説すると共に、機器の操作方法、適応疾患、禁忌について学修する。<br>【方法】本科目は主として、「物理療法概要と定義」、「痛みのメカニズムと物理療法による抑制」、「ホットパック療法」などについて講義する。                                                                                                                                      | 「物理療法学」に統合                  |
|                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                              |                                      | 物理療法学Ⅱ     | 【目的】この科目は、各種の物理療法的作用機序を生理学的に解説すると共に、機器の操作方法、適応疾患、禁忌について学修する。<br>【方法】本科目は主として、「光線療法」、「寒冷療法」、「牽引療法」などについて講義する。                                                                                                                                                             | 「物理療法学」に統合                  |
|                                      | 物理療法学実習    | 【目的】物理療法学を踏まえて各種の物理療法を学生相互で体験し、その適切な使用法を学修することを目的とする。また、各種物理療法が生体に与える影響についても実技を通して確認し、物理療法機器の危険性と安全性の理解を図ると同時に、物理療法効果を確認する。<br>【方法】専任教員の指導を仰ぎながら各種の物理療法を学生間で実施する実習中心とした授業形態とする。                                                                                                                       | 時間数変更（30時間を45時間に）、内容の変更なし。                                                   |                                      | 物理療法学実習    | 【目的】物理療法学Ⅰ・Ⅱを踏まえて各種の物理療法を学生相互で体験し、その適切な使用法を学修することを目的とする。また、各種物理療法が生体に与える影響についても実技を通して確認し、物理療法機器の危険性と安全性の理解を図ると同時に、物理療法効果を確認する。<br>【方法】専任教員の指導を仰ぎながら各種の物理療法を学生間で実施する実習中心とした授業形態とする。                                                                                       |                             |
|                                      | 日常生活活動学    | 【目的】理学療法の対象となる多様な障害に対する日常生活活動・動作を分析し、適切な理学療法の方法や計画を立案するまでの過程を学修する。また、単なる評価だけではなく、それぞれの障害に即して生じる活動制限を改善するための指導方法の原則の概略を学修することを目的とする。<br>【方法】教科書を用い、各評価項目、障害との関連性について講義を行い、それぞれの活動・動作について実技を交えた講義を行う。<br>本科目は主として、「日常生活活動（ADL）の総論」、「日常生活活動と国際生活分類（ICF）」、「ADL評価」、「基本動作と介助手技」、「障害別日常生活活動訓練の実践」などについて講義する。 | 旧科目「日常生活活動学Ⅰ」・「日常生活活動学Ⅱ」を「日常生活活動学Ⅰ」に統合し、名称変更。<br>時間数変更（15時間より30時間に）、内容の変更あり。 |                                      | 日常生活活動学Ⅰ   | 【目的】理学療法の対象となる多様な障害に対する日常生活活動・動作を分析し、適切な理学療法の方法や計画を立案するまでの過程を学修する。また、単なる評価だけではなく、それぞれの障害に即して生じる活動制限を改善するための指導方法の原則の概略を学修することを目的とする。<br>【方法】教科書を用い、各評価項目、障害との関連性について講義を行い、それぞれの活動・動作について実技を交えた講義を行う。<br>本科目は主として、「日常生活活動（ADL）の総論」、「日常生活活動と国際生活分類（ICF）」、「ADL評価」などについて講義する。 | 「日常生活活動学」に統合                |
|                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                              |                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                          |                             |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |               |                                                                                                                                                                                                                                        |                            | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻) |               |                                                                                                                                                                                                                                                                          |              |
|--------------------------------------|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|--------------------------------------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称       | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                 | 備考                         | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称       | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                   | 備考           |
|                                      |               |                                                                                                                                                                                                                                        |                            |                                      | 日常生活活動学Ⅱ      | <p>【目的】 理学療法の対象となる多様な障害に対する日常生活活動・動作を分析し、適切な理学療法の方法や計画を立案するまでの過程を学修する。また、単なる評価だけではなく、それぞれの障害に即して生じる活動制限を改善するための指導方法の原則の概略を学修することを目的とする。</p> <p>【方法】 教科書を用い、各評価項目、障害との関連性について講義を行い、それぞれの活動・動作について実技を交えた講義を行う。</p> <p>本科目は主として、「基本動作と介助手技」、「障害別日常生活活動訓練の実践」などについて講義する。</p> | 「日常生活活動学」に統合 |
|                                      | 日常生活活動学実習     | <p>【目的】 日常生活活動学で学んだ多様な障害に対する評価方法、基本動作や日常生活活動・動作の指導方法の原理を用いて、疾病や障害に即した日常生活へのアプローチ方法について実技を通して学修する。また疾病や障害における日常生活上の禁忌事項や注意事項について理解することを目的とする。</p> <p>【方法】 専任教員の指導を仰ぎながら実技を中心とした授業形態で行う。</p>                                             | 内容変更あり。                    |                                      | 日常生活活動学実習     | <p>【目的】 日常生活活動学Ⅰ・Ⅱで学んだ多様な障害に対する評価方法、日常生活活動・動作の指導方法の原理を用いて、疾病や障害に即した日常生活へのアプローチ方法について実技を通して学修する。また疾病や障害における日常生活上の禁忌事項や注意事項について理解することを目的とする。</p> <p>【方法】 専任教員の指導を仰ぎながら実技を中心とした授業形態で行う。</p>                                                                                 |              |
|                                      | 運動器疾患理学療法学Ⅰ   | <p>【目的】 多くの運動器疾患に共通する基本とすべき基本知識や、運動療法を実施する上で必要な知識を学ぶ。</p> <p>【方法】 教授資料：指定教科書およびスライド配布資料。学修形式は座学であるが、全学修時間の半分近くをグループワーク形式とする。なお、本科目は運動器疾患理学療法学Ⅱおよび運動器疾患理学療法学実習の基盤的位置付けとする。</p>                                                          | 内容変更あり。                    |                                      | 運動器疾患理学療法学Ⅰ   | <p>【目的】 腰痛疾患、股関節疾患、膝関節疾患の病態、評価方法、理学療法を学ぶ。</p> <p>【方法】 教授資料：指定教科書及びスライドを使用。学修形式は座学及び実技。本科目は主として、「運動器疾患の概論」、「腰痛疾患」、「股関節疾患」などについて講義する。</p>                                                                                                                                  |              |
|                                      | 運動器疾患理学療法学Ⅱ   | <p>【目的】 運動器疾患理学療法学Ⅰで学修した内容を基盤とし、運動器疾患に対する評価や治療、病態について学ぶ。</p> <p>【方法】 教授資料：指定教科書およびスライド配布資料。学修形式は座学であるが、全学修時間の半分近くをグループワーク形式とする。なお、本科目は運動器疾患理学療法学Ⅰとともに、運動器疾患理学療法学実習の基盤的位置付けとする。</p>                                                     | 内容変更あり。                    |                                      | 運動器疾患理学療法学Ⅱ   | <p>【目的】 足関節疾患、肩関節疾患、肘関節疾患の病態、評価方法、理学療法を学ぶ。また、症例検討会を行い、理学療法推論の実践を学ぶ。</p> <p>【方法】 教授資料：指定教科書及びスライドを使用。学修形式は座学及び実技。本科目は主として、「膝関節疾患」、「足関節疾患」、「肩関節疾患」などについて講義する。</p>                                                                                                          |              |
|                                      | 運動器疾患理学療法学実習  | <p>【目的】 運動器疾患理学療法学ⅠおよびⅡで学修した内容について、実技を通して評価方法手技および治療手技を学修する。</p> <p>【方法】 実技。実際の臨床場面を想定した評価方法および治療法の選択。最終的には実技試験を行い、技術習得の達成を評価する。</p>                                                                                                   | 内容変更あり。                    |                                      | 運動器疾患理学療法学実習  | <p>【目的】 運動器疾患理学療法学Ⅰ・Ⅱで学んだ、腰痛疾患、股関節疾患、膝関節疾患、足関節疾患、肩関節疾患、肘関節疾患の評価方法及び理学療法を実技を通して学ぶ。</p> <p>【方法】 実技。</p>                                                                                                                                                                    |              |
|                                      | 中枢神経疾患理学療法学Ⅰ  | <p>【目的】 脊髄損傷などの中枢神経障害の原因、症状、合併症、及びそれらに対する対応、理学療法について理解する。中枢神経系を損傷すると人体にどのような影響が起こるのかを知ること、人体はどのような機能が必要かを理解することができる。</p> <p>【方法】 資料を配布する。実技も行う。また必要に応じて課題を与える。本科目は主として、「対麻痺の理学療法」「四肢麻痺の理学療法」、「呼吸障害に対する肺理学療法」などについて講義する。</p>            | 変更なし。                      |                                      | 中枢神経疾患理学療法学Ⅰ  | <p>【目的】 脊髄損傷などの中枢神経障害の原因、症状、合併症、及びそれらに対する対応、理学療法について理解する。中枢神経系を損傷すると人体にどのような影響が起こるのかを知ること、人体はどのような機能が必要かを理解することができる。</p> <p>【方法】 資料を配布する。実技も行う。また必要に応じて課題を与える。本科目は主として、「対麻痺の理学療法」「四肢麻痺の理学療法」、「呼吸障害に対する肺理学療法」などについて講義する。</p>                                              |              |
|                                      | 中枢神経疾患理学療法学Ⅱ  | <p>【目的】 脊髄損傷などの中枢神経障害の原因、症状、合併症、及びそれらに対する対応、理学療法について理解する。中枢神経系を損傷すると人体にどのような影響が起こるのかを知ること、人体はどのような機能が必要かを理解することができる。</p> <p>【方法】 資料を配布する。実技も行う。また必要に応じて課題を与える。本科目は「中枢神経疾患理学療法学」の後半を講義し評価を実施する。</p>                                     | 時間数変更（15時間より30時間に）、内容変更なし。 |                                      | 中枢神経疾患理学療法学Ⅱ  | <p>【目的】 脊髄損傷などの中枢神経障害の原因、症状、合併症、及びそれらに対する対応、理学療法について理解する。中枢神経系を損傷すると人体にどのような影響が起こるのかを知ること、人体はどのような機能が必要かを理解することができる。</p> <p>【方法】 資料を配布する。実技も行う。また必要に応じて課題を与える。本科目は「中枢神経疾患理学療法学」の後半を講義し評価を実施する。</p>                                                                       |              |
|                                      | 中枢神経疾患理学療法学実習 | <p>【目的】 理学療法の対象疾患として最も多い中枢神経疾患の理学療法を実施できるようにするために、基礎的な知識と一般的な運動療法について学ぶ。そして評価から治療までの一連の流れを理解することを目的とする。</p> <p>【方法】 配布資料を使用して講義を行う。講義形式としては、講義と実習または演習を繰り返しながら進める。</p>                                                                 | 変更なし。                      |                                      | 中枢神経疾患理学療法学実習 | <p>【目的】 理学療法の対象疾患として最も多い中枢神経疾患の理学療法を実施できるようにするために、基礎的な知識と一般的な運動療法について学ぶ。そして評価から治療までの一連の流れを理解することを目的とする。</p> <p>【方法】 配布資料を使用して講義を行う。講義形式としては、講義と実習または演習を繰り返しながら進める。</p>                                                                                                   |              |
|                                      | 神経・筋疾患理学療法学   | <p>【目的】 いわゆる「神経性難病」（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など）や進行性筋ジストロフィーについて、疾患の基礎知識、理学療法評価、理学療法プログラム、リスク管理を理解する。また、生活を支援する立ちから疾患の進行に合わせた身体的・社会的・心理的な面から疾患の進行に合わせた身体的・社会的・心理的な面から生活を支える視点についても学修することを目的とする。</p> <p>【方法】 教科書や配布資料、動画を使用した講義を行う。</p> | 時間数変更（15時間より30時間に）、内容変更あり。 |                                      | 神経・筋疾患理学療法学   | <p>【目的】 神経性難病（脊髄小脳変性症など）や進行性筋ジストロフィーなどの筋疾患について、病態像を理解したうえで運動療法を中心とした理学療法を理解するとともに、各疾患の進行に合わせて身体的・社会的・心理的な面から生活を支える視点についても学修することを目的とする。</p> <p>【方法】 教科書や配布資料、DVDを使用し、神経・筋疾患の理解を深め、理学療法の適応について講義を中心に行う。</p>                                                                |              |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |           |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                               | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |             |                                                                                                                                                                                                                                                       |                |
|-------------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称   | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                        | 備考                                                                            | 科目<br>区分                            | 授業科目の名称     | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                | 備考             |
|                                     | 発達障害理学療法  | <p>【目的】発達障害に対する理学療法は成長・発達の要因が重要であり、これらを含めた適切な理学療法を選択する能力が必要となる。脳性麻痺をはじめ小児疾病、とりわけその運動機能障害についての評価、治療法について学修することを目的とする。</p> <p>【方法】教科書や配布資料にそって発達障害に対する運動療法を中心に講義する。本科目は主として、正常発達、各種発達評価法、発達障害理学療法学総論、重症心身障害児の理学療法、脳性まひ児の評価と治療などについて講義、演習をする</p> | 旧科目「発達障害理学療法Ⅰ」・「発達障害理学療法Ⅱ」を「発達障害理学療法」に統合し、名称変更。<br>時間数変更（15時間より30時間に）、内容変更あり。 |                                     | 発達障害理学療法Ⅰ   | <p>【目的】発達障害に対する理学療法は成長・発達の要因が重要であり、これらを含めた適切な理学療法を選択する能力が必要となる。また、脳性麻痺をはじめ小児疾病、とりわけ運動機能障害が生活活動を制限し、成長・発達の障害につながる恐れがあることを学修することを目的とする。</p> <p>【方法】教科書や配布資料にそって発達障害に対する運動療法を中心に講義する。本科目は主として、「正常発達」、「各種発達評価法」、「発達・評価法 まとめ」などについて講義する。</p>               |                |
|                                     |           |                                                                                                                                                                                                                                               |                                                                               |                                     | 発達障害理学療法Ⅱ   | <p>【目的】発達障害に対する理学療法は成長・発達の要因が重要であり、これらを含めた適切な理学療法を選択する能力が必要となる。また、脳性麻痺をはじめ小児疾病、とりわけ運動機能障害が生活活動を制限し、成長・発達の障害につながる可能性があることを学修することを目的とする。</p> <p>【方法】教科書や配布資料にそって発達障害に対する運動療法を中心に講義する。本科目は主として、「発達障害理学療法学総論」、「重症心身障害児の理学療法」、「脳性まひ児の評価と治療」などについて講義する。</p> | 「発達障害理学療法学」に統合 |
|                                     | 循環器疾患理学療法 | <p>【目的】代表的な死因として挙げられる心疾患に対して、理学療法の介入の効果が好影響があるとされている。また心疾患術後の理学療法の効果も検証されつつある。本講義では循環器疾患で挙げられる代表的な症状【不整脈、心筋梗塞など】と運動療法の実際、適応と禁忌について学修することを目的とする。</p> <p>【方法】代表的な循環器疾患について教科書や配布資料を用いて理解を深め、各疾病に対する理学療法の基礎を講義する。</p>                            | 変更なし。                                                                         |                                     | 循環器疾患理学療法   | <p>【目的】代表的な死因として挙げられる心疾患に対して、理学療法の介入の効果が好影響があるとされている。また心疾患術後の理学療法の効果も検証されつつある。本講義では循環器疾患で挙げられる代表的な症状【不整脈、心筋梗塞など】と運動療法の実際、適応と禁忌について学修することを目的とする。</p> <p>【方法】代表的な循環器疾患について教科書や配布資料を用いて理解を深め、各疾病に対する理学療法の基礎を講義する。</p>                                    |                |
|                                     | 代謝系疾患理学療法 | <p>【目的】糖尿病の病態、合併症、理学療法について講義する。運動の人体に及ぼす影響、運動の適応と効果、チェックを講義する。運動を行い、その前後の血糖値を測定する。</p> <p>【方法】糖・脂肪・骨代謝について理解を行う。糖尿病やメタボリックシンドロームについて学習を行う。糖尿病に対する検査・評価方法を理解し、糖尿病患者に対する指導について教授する。配布資料、教科書を参考すること。</p>                                         | 変更なし。                                                                         |                                     | 代謝系疾患理学療法   | <p>【目的】糖尿病の病態、合併症、理学療法について講義する。運動の人体に及ぼす影響、運動の適応と効果、チェックを講義する。運動を行い、その前後の血糖値を測定する。</p> <p>【方法】糖・脂肪・骨代謝について理解を行う。糖尿病やメタボリックシンドロームについて学習を行う。糖尿病に対する検査・評価方法を理解し、糖尿病患者に対する指導について教授する。配布資料、教科書を参考すること。</p>                                                 |                |
|                                     | 呼吸理学療法Ⅰ   | <p>【目的】呼吸機能の低下によって活動・参加が制限されることがある。呼吸機能・呼吸器疾患の理解を深める事で、リハビリテーションの現場におけるリスク管理を図る事ができる。</p> <p>【方法】呼吸器の解剖と生理について復習を行い、呼吸器疾患について理解を深める。喀痰等の吸引の手法についての講義と実技を行う。</p>                                                                               | 旧科目「呼吸理学療法Ⅰ」を「呼吸理学療法Ⅰ」・「呼吸理学療法Ⅱ」に分割し、名称変更。内容変更あり。                             |                                     | 呼吸理学療法      | <p>【目的】呼吸機能の低下によって活動・参加が制限されることがある。呼吸機能・呼吸器疾患の理解を深める事で、リハビリテーションの現場におけるリスク管理を図る事ができる。</p> <p>【方法】呼吸器の解剖と生理について復習を行い、呼吸器疾患について理解を深める。呼吸に対する一般的な検査・評価の学習を行い、呼吸訓練と排たん法の実技を行う。</p>                                                                        |                |
|                                     | 呼吸理学療法Ⅱ   | <p>【目的】呼吸機能・呼吸器疾患の理解を深める事で、リハビリテーションの現場におけるリスク管理を図る事ができる。呼吸理学療法に必要な知識や実技を学ぶ。</p> <p>【方法】呼吸に対する一般的な検査・評価の学習を行い、呼吸訓練と排たん法の実技を行う。</p> <p>呼吸理学療法Ⅰを履修後に本講を履修する。</p>                                                                                | 旧科目「呼吸理学療法Ⅰ」を「呼吸理学療法Ⅰ」・「呼吸理学療法Ⅱ」に分割し、名称変更。                                    |                                     |             |                                                                                                                                                                                                                                                       |                |
|                                     | スポーツ理学療法Ⅰ | <p>【目的】スポーツ現場で生じる外傷・障害の原因を理解し、受傷後の処置や治療、再発予防等の理学療法アプローチを学習する。</p> <p>【方法】具体的な疾患例をもとに、様々なスポーツに関する理学療法評価の方法やアプローチなどについて、グループディスカッションや実技練習を行う。</p>                                                                                               | 旧科目「スポーツ障害理学療法Ⅰ」を「スポーツ理学療法Ⅰ」に名称変更。内容の変更あり。                                    |                                     | スポーツ障害理学療法Ⅰ | <p>【目的】スポーツ現場で生じる外傷・障害の原因を理解し、処置や治療、再発予防等に向けた理学療法アプローチを学習する。</p> <p>【方法】理学療法評価の方法や基本的治療アプローチなどについて、具体的な疾患例をもとに、グループディスカッションや実技練習を行う。本科目は主として、「スポーツ障害概説」、「評価方法」などについて講義する。</p>                                                                         |                |
|                                     | スポーツ理学療法Ⅱ | <p>【目的】スポーツ現場で生じる外傷・障害の原因を理解し、受傷後の処置や治療、再発予防等の理学療法アプローチを学習する。さらに障がい者のスポーツを理解し、障がい者の健康維持・増進に関する知識、技術を学ぶ。</p> <p>【方法】具体的な疾患例をもとに、様々なスポーツに関する理学療法評価の方法やアプローチなどについて、グループディスカッションや実技練習を行う。</p>                                                     | 旧科目「スポーツ障害理学療法Ⅱ」を「スポーツ理学療法Ⅱ」に名称変更。内容の変更あり。                                    |                                     | スポーツ障害理学療法Ⅱ | <p>【目的】スポーツ現場で生じる外傷・障害の原因を理解し、処置や治療、再発予防等に向けた理学療法アプローチを学習する。</p> <p>【方法】理学療法評価の方法や基本的治療アプローチなどについて、具体的な疾患例をもとに、グループディスカッションや実技練習を行う。本科目は主として、「評価・治療の実際」、「まとめ」などについて講義する。</p>                                                                          |                |
|                                     | 老年期理学療法   | <p>【目的】老年期での疾病や障害の発症は寝たきりになる要因となり、理学療法の介入による寝たきりを予防は必要不可欠である。老年期理学療法では、老化や老年期についての理解、老年症候群、フレイル、ロコモティブ症候群、サルコペニア、転倒予防、介護予防について理学療法の立場から学習する。また心理・認知機能の要因、社会的要因についても触れる。</p> <p>【方法】配布資料、動画を利用した講義を行う。</p>                                     | 内容変更あり。                                                                       |                                     | 老年期理学療法     | <p>【目的】老年期での疾病や障害の発症は寝たきりになる要因となり、理学療法の介入は寝たきりを予防するためにも必要不可欠である。老年期理学療法では老化に伴ってみられる身体的変化や精神的変化についての理解を深め、老年期に頻発する特有な疾病や障害（パーキンソン病、骨折など）に対する理学療法の介入方法について学修することを目的とする。</p> <p>【方法】老年期に頻発する疾患について理解を含め、理学療法の介入方法について講義を行う。</p>                          |                |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                          | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |    |
|-------------------------------------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称       | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 備考                                                                                       | 科目<br>区分                            | 授業科目の名称       | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 備考 |
|                                     | 触察技術学         | <p>【目的】 理学療法に必要な触察技術の能力を高めることを目的とする。同時に体表解剖学を学ぶことにより、どのような組織に異常があるかを特定することができ、病的部位の種類や損傷の程度により、理学療法の適応が否か、またどのような理学療法をすることが適切かを判断できるようになることを目的とする。</p> <p>【方法】 体表のランドマークになる部位、筋や靭帯の場所を触察により同定できるように実技を行う。</p> <p>本科目は主として、「触察の基礎」、「ランドマークの触察」、「上・下肢・体幹筋の触察」などについて講義する。</p>                                                   | <p>理学療法評価学分野より移行し、旧科目「触診学Ⅰ」「触診学Ⅱ」を「触察技術学」に統合・名称変更。</p> <p>時間数変更（15時間より30時間に）、内容変更あり。</p> |                                     |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |    |
|                                     | 義肢・装具学Ⅰ       | <p>【目的】 本講義では、切断者の身体状況に適した義肢のあり方を学ぶとともに、切断者がその義肢を有効に操作できるよう、筋力トレーニング、断端管理などを中心に学修することを目的とする。</p> <p>【方法】 義肢の実際について、モデルを使用しながらわかりやすく解説するとともに、PT視点から見た装具について講義を中心に行う。</p>                                                                                                                                                      | 変更なし。                                                                                    |                                     | 義肢・装具学Ⅰ       | <p>【目的】 本講義では、切断者の身体状況に適した義肢のあり方を学ぶとともに、切断者がその義肢を有効に操作できるよう、筋力トレーニング、断端管理などを中心に学修することを目的とする。</p> <p>【方法】 義肢の実際について、モデルを使用しながらわかりやすく解説し、また教科書に沿って基礎的知識について講義を中心に行う。</p>                                                                                                                                                                  |    |
|                                     | 義肢・装具学Ⅱ       | <p>【目的】 本講義では、四肢・体幹の機能障害の軽減を目的に使用する装具の基本的知識、適応と理論および適合判定について学修することを目的とする。</p> <p>【方法】 装具の実際について、モデルを使用しながらわかりやすく解説するとともに、PT視点から見た装具について説明する。また教科書に沿って基礎的知識について講義を中心に行う。</p>                                                                                                                                                  | 変更なし。                                                                                    |                                     | 義肢・装具学Ⅱ       | <p>【目的】 本講義では、四肢・体幹の機能障害の軽減を目的に使用する装具の基本的知識、適応と理論および適合判定について学修することを目的とする。</p> <p>【方法】 装具の実際について、モデルを使用しながらわかりやすく解説するとともに、PT視点から見た装具について説明する。また教科書に沿って基礎的知識について講義を中心に行う。</p>                                                                                                                                                             |    |
| 地域<br>理<br>学<br>療<br>法<br>学         | 生活環境論Ⅰ        | <p>【目的】 在宅障害者や高齢者が、より豊かに自立した生活を送るために必要となる住宅改修や福祉用具について、その方法、その種類や特性を学び、生活範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学修する。また、住宅改修や福祉用具を活用するために必要となる、医療・福祉制度についても学修する。</p> <p>【方法】 福祉用具の基礎を講義で行い、福祉用具の使用法等について具体的な実践例の紹介からグループワークを交えたディスカッションを行い、理解を深める。また、高齢者体験グッズや車椅子等の体験を行い、福祉用具の必要性について学修する。本科目は主として、「住環境整備」、「福祉用具総論」、「福祉用具の適応」などについて講義する。</p> | 内容変更あり。                                                                                  | 地域<br>理<br>学<br>療<br>法<br>学         | 生活環境論Ⅰ        | <p>【目的】 在宅障害者や高齢者が、より豊かに自立した生活を送るために必要となる住宅改修や福祉用具について、その方法、その種類や特性を学び、生活範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学修する。また、住宅改修や福祉用具を活用するために必要となる、医療・福祉制度についても学修する。</p> <p>【方法】 住宅改修、福祉用具の基礎を講義で行い、具体的な実践例の紹介からグループワークを交えたディスカッションを行い、理解を深める。また、福祉用具の理解を深めるため、福祉用具の展示場を見学し、実際に疑似体験も行う。</p> <p>本科目は主として、「住環境整備」、「福祉用具総論」、「福祉用具の適応」などについて講義する。</p>           |    |
|                                     | 生活環境論Ⅱ        | <p>【目的】 在宅障害者や高齢者が、より豊かに自立した生活を送るために必要となる住宅改修や福祉用具について、その方法、その種類や特性を学び、生活範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学修する。また、住宅改修や福祉用具を活用するために必要となる、医療・福祉制度についても学修する。</p> <p>【方法】 福祉用具の基礎を講義で行い、具体的な実践例の紹介からグループワークを交えたディスカッションを行い、理解を深める。また、福祉用具の理解を深めるため、福祉用具の展示場を見学し、実際に疑似体験も行う。</p> <p>本科目は主として、「住環境整備」、「福祉用具の適応」などについて講義する。</p>              | 内容変更あり。                                                                                  |                                     | 生活環境論Ⅱ        | <p>【目的】 在宅障害者や高齢者が、より豊かに自立した生活を送るために必要となる住宅改修や福祉用具について、その方法、その種類や特性を学び、生活範囲の拡大を目指した関わりができることを目的に学修する。また、住宅改修や福祉用具を活用するために必要となる、医療・福祉制度についても学修する。</p> <p>【方法】 住宅改修、福祉用具の基礎を講義で行い、具体的な実践例の紹介からグループワークを交えたディスカッションを行い、理解を深める。また、福祉用具の理解を深めるため、福祉用具の展示場を見学し、実際に疑似体験も行う。</p> <p>本科目は主として、「疾患別の福祉用具利用例」、「高齢者体験キットを用いて環境整備の重要性」などについて講義する。</p> |    |
|                                     |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                          |                                     | 予防理学療法Ⅰ       | <p>【目的】 高齢社会が進む日本において、理学療法を用いた予防は今後さらに必要とされる。本講義においては、高齢社会にむけて必要とされる予防理学療法目的・役割について講義をし、その実践例を紹介しながら、自ら計画・実践できるようになることを目的とする。</p> <p>【方法】 予防に関する日本の社会的情勢や国際的動向について、講義にて紹介し予防理学療法目的や方法を理解できるようにする。</p>                                                                                                                                   | 廃止 |
|                                     |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                          |                                     | 予防理学療法Ⅱ       | <p>【目的】 高齢社会が進む日本において、理学療法を用いた予防は今後さらに必要とされる。本講義においては、高齢社会にむけて必要とされる予防理学療法目的・役割について講義をし、その実践例を紹介しながら、自ら計画・実践できるようになることを目的とする。</p> <p>【方法】 「予防理学療法Ⅰ」での内容をふまえて、実践方法についてグループワークを交えながら検討する。</p>                                                                                                                                             | 廃止 |
|                                     | 地域リハビリテーション論Ⅰ | <p>【目的】 障害者が地域社会の中で共生と共同を以って積極的な社会参加を通して、生きがいを感じながら自らの人生を主体的に生きることが支援するために、保健・医療・福祉の動向を踏まえて、障害者のQOLに視点を当てた生活を重視した包括的援助体系について多面的な学修をすることを目的とする。</p> <p>【方法】 グループワークを交えた講義を中心に行う。本科目は主として、「地域リハビリテーション・地域理学療法」の概念、「関連法規と社会資源」、「介護保険について」などについて講義する。</p>                                                                        | 変更なし。                                                                                    |                                     | 地域リハビリテーション論Ⅰ | <p>【目的】 障害者が地域社会の中で共生と共同を以って積極的な社会参加を通して、生きがいを感じながら自らの人生を主体的に生きることが支援するために、保健・医療・福祉の動向を踏まえて、障害者のQOLに視点を当てた生活を重視した包括的援助体系について多面的な学修をすることを目的とする。</p> <p>【方法】 グループワークを交えた講義を中心に行う。本科目は主として、「地域リハビリテーション・地域理学療法」の概念、「関連法規と社会資源」、「介護保険について」などについて講義する。</p>                                                                                   |    |
|                                     | 地域リハビリテーション論Ⅱ | <p>【目的】 障害者が地域社会の中で共生と共同を以って積極的な社会参加を通して、生きがいを感じながら自らの人生を主体的に生きることが支援するために、保健・医療・福祉の動向を踏まえて、障害者のQOLに視点を当てた生活を重視した包括的援助体系について多面的な学修をすることを目的とする。</p> <p>【方法】 グループワークを交えた講義を中心に行う。本科目は主として、「地域リハビリテーション・地域理学療法」の概念、「関連法規と社会資源」、「介護保険について」などについて講義する。</p>                                                                        | 変更なし。                                                                                    |                                     | 地域リハビリテーション論Ⅱ | <p>【目的】 障害者が地域社会の中で共生と共同を以って積極的な社会参加を通して、生きがいを感じながら自らの人生を主体的に生きることが支援するために、保健・医療・福祉の動向を踏まえて、障害者のQOLに視点を当てた生活を重視した包括的援助体系について多面的な学修をすることを目的とする。</p> <p>【方法】 グループワークを交えた講義を中心に行う。本科目は主として、「ベッドサイドでの介助法」、「疾患別リハビリテーション」などについて講義する。</p>                                                                                                     |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                        |      | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                        |  |             |
|-------------------------------------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|-------------|
| 科目区分                                | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                             | 備考                                                                                                                                                                     | 科目区分 | 授業科目の名称                             | 講義等の内容                                                                                                                                                            | 備考                                                                                                                                                                     |  |             |
|                                     | 臨床実習       | 見学実習                                                                                                                                                                                                               | 旧科目「理学療法基礎実習」を「見学実習」に名称変更。4単位、180時間とする。内容変更あり。<br>※新指定規則の要件を満たすため、「通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習」を実施する。                                                               |      | 臨床実習                                | 理学療法基礎実習                                                                                                                                                          | 旧科目「理学療法基礎実習」を「見学実習」に名称変更。4単位、180時間とする。内容変更あり。<br>※新指定規則の要件を満たすため、「通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習」を実施する。                                                               |  |             |
|                                     |            | 評価実習Ⅰ                                                                                                                                                                                                              | 旧科目「臨床総評価実習」を「臨床評価実習Ⅰ」「臨床評価実習Ⅱ」に分割し、名称変更。5単位、225時間とする。内容変更あり。<br>※新指定規則の要件を満たすため、「診療参加型実習」ならびに「通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習」を実施する。「臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価」に対して、本科目で対応する。 |      |                                     | 臨床評価実習                                                                                                                                                            | 旧科目「臨床総評価実習」を「臨床評価実習Ⅰ」「臨床評価実習Ⅱ」に分割し、名称変更。5単位、225時間とする。内容変更あり。<br>※新指定規則の要件を満たすため、「診療参加型実習」ならびに「通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習」を実施する。「臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価」に対して、本科目で対応する。 |  |             |
|                                     |            | 評価実習Ⅱ                                                                                                                                                                                                              | 旧科目「臨床総評価実習」を「臨床評価実習Ⅰ」「臨床評価実習Ⅱ」に分割し、名称変更。5単位、225時間とする。内容変更あり。<br>※新指定規則の要件を満たすため、「診療参加型実習」ならびに「通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習」を実施する。「臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価」に対して、本科目で対応する。 |      |                                     |                                                                                                                                                                   |                                                                                                                                                                        |  |             |
|                                     |            | 総合臨床実習                                                                                                                                                                                                             | 旧科目「臨床総合実習Ⅰ」・「臨床総合実習Ⅱ」を統合し「臨床総合実習」に名称変更。10単位、450時間とする。内容変更あり。<br>※新指定規則の要件を満たすため、「診療参加型実習」ならびに「通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習」を実施する。「臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価」に対して、本科目で対応する。 |      |                                     | 臨床総合実習Ⅰ                                                                                                                                                           | 旧科目「臨床総合実習Ⅰ」・「臨床総合実習Ⅱ」を統合し「臨床総合実習」に名称変更。10単位、450時間とする。内容変更あり。<br>※新指定規則の要件を満たすため、「診療参加型実習」ならびに「通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習」を実施する。「臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価」に対して、本科目で対応する。 |  | 「総合臨床実習」に統合 |
|                                     |            |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                        |      |                                     | 臨床総合実習Ⅱ                                                                                                                                                           | 旧科目「臨床総合実習Ⅰ」・「臨床総合実習Ⅱ」を統合し「臨床総合実習」に名称変更。10単位、450時間とする。内容変更あり。<br>※新指定規則の要件を満たすため、「診療参加型実習」ならびに「通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習」を実施する。「臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価」に対して、本科目で対応する。 |  | 「総合臨床実習」に統合 |
| 特論                                  | 理学療法トピックスⅠ | 【目的】高齢社会が進む日本において、理学療法を用いた健康増進・介護予防は今後さらに必要とされる。本講義においては、高齢社会にむけて必要とされる健康増進・予防理学療法のための実践について最新のトピックスを含めて講義をし、その実践例を紹介しながら、自ら計画・実践できるようにすることを目的とする。<br>【方法】健康増進・予防に関する日本の社会的情勢や国際的動向について、講義にて紹介しその目的や方法を理解できるようにする。 | 内容変更あり。                                                                                                                                                                | 特論   | 理学療法トピックスⅠ                          | 【目的】最近の理学療法学の進歩をいち早く知るとためトピックスとなる治療手法や理論を紹介する。この科目では運動器疾患の理学療法を扱う。<br>【方法】治療法の基礎的理論を紹介するとともに、実習を通して臨床への活用を学ぶ。本科目は主として、「骨関節障害」、「特殊テクニック」、「リハビリテーション機器」などのトピックスを扱う。 | 内容変更あり。                                                                                                                                                                |  |             |
|                                     | 理学療法トピックスⅡ | 【目的】最近の理学療法学の進歩をいち早く知るとためトピックスとなる治療手法や理論を紹介する。この科目では運動器疾患の理学療法を扱う。<br>【方法】治療法の基礎的理論を紹介するとともに、実習を通して臨床への活用を学ぶ。本科目は主として、「骨関節障害」、「特殊テクニック」、「リハビリテーション機器」などのトピックスを扱う。                                                  | 内容変更あり。                                                                                                                                                                |      | 理学療法トピックスⅡ                          | 【目的】最近の理学療法学の進歩をいち早く知るとためトピックスとなる治療手法や理論を紹介する。この科目では運動器疾患の理学療法を扱う。<br>【方法】治療法の基礎的理論を紹介するとともに、実習を通して臨床への活用を学ぶ。本科目は主として、「骨関節障害」、「特殊テクニック」、「リハビリテーション機器」などのトピックスを扱う。 | 内容変更あり。                                                                                                                                                                |  |             |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                             | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 理学療法専攻) |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |    |
|-------------------------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------|-------------------------------------|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称   | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 備考                          | 科目<br>区分                            | 授業科目の名称   | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 備考 |
|                                     | 理学療法卒業研究Ⅰ | <p>【目的】修学期間の大成であり、卒業年度に開講する。これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して医学的な結論を導き出すとともに、多様な領域を考慮して論理的な考察から結論を導き出すことを目的とする。</p> <p>【方法】リハビリテーション分野や医学・福祉関係の研究に対して、専任教員が指導に当たる。卒業研究内容は、あるテーマに対して多面的に調査を行い報告する研究報告や、臨床実習で得た特異症例の症例報告、自助具や装具等の製作発表などを行う。少人数のゼミ形式で行い、専任教員が研究方法、研究論文の作成等について指導する。「理学療法卒業研究Ⅰ」は研究倫理審査申請の書類作成とパイロットスタディを実施する。</p> | 時間数変更（15時間より30時間に）、内容変更なし。  |                                     | 理学療法卒業研究Ⅰ | <p>【目的】修学期間の大成であり、卒業年度に開講する。これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して医学的な結論を導き出すとともに、多様な領域を考慮して論理的な考察から結論を導き出すことを目的とする。</p> <p>【方法】リハビリテーション分野や医学・福祉関係の研究に対して、専任教員が指導に当たる。卒業研究内容は、あるテーマに対して多面的に調査を行い報告する研究報告や、臨床実習で得た特異症例の症例報告、自助具や装具等の製作発表などを行う。少人数のゼミ形式で行い、専任教員が研究方法、研究論文の作成等について指導する。「理学療法卒業研究Ⅰ」は研究倫理審査申請の書類作成とパイロットスタディを実施する。</p> |    |
|                                     | 理学療法卒業研究Ⅱ | <p>【目的】修学期間の大成であり、卒業年度に開講する。これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して医学的な結論を導き出すとともに、多様な領域を考慮して論理的な考察から結論を導き出すことを目的とする。</p> <p>【方法】リハビリテーション分野や医学・福祉関係の研究に対して、専任教員が指導に当たる。卒業研究内容は、あるテーマに対して多面的に調査を行い報告する研究報告や、臨床実習で得た特異症例の症例報告、自助具や装具等の製作発表などを行う。実施形態は少人数のゼミ形式で行い、専任教員が研究方法、研究論文の作成等について指導する。「理学療法卒業研究Ⅱ」では実験・調査を実施し中間発表を行う。</p>       | 変更なし。                       |                                     | 理学療法卒業研究Ⅱ | <p>【目的】修学期間の大成であり、卒業年度に開講する。これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して医学的な結論を導き出すとともに、多様な領域を考慮して論理的な考察から結論を導き出すことを目的とする。</p> <p>【方法】リハビリテーション分野や医学・福祉関係の研究に対して、専任教員が指導に当たる。卒業研究内容は、あるテーマに対して多面的に調査を行い報告する研究報告や、臨床実習で得た特異症例の症例報告、自助具や装具等の製作発表などを行う。実施形態は少人数のゼミ形式で行い、専任教員が研究方法、研究論文の作成等について指導する。「理学療法卒業研究Ⅱ」では実験・調査を実施し中間発表を行う。</p>       |    |
|                                     | 理学療法卒業研究Ⅲ | <p>【目的】修学期間の大成であり、卒業年度に開講する。これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して医学的な結論を導き出すとともに、多様な領域を考慮して論理的な考察から結論を導き出すことを目的とする。</p> <p>【方法】リハビリテーション分野や医学・福祉関係の研究に対して、専任教員が指導に当たる。卒業研究内容は、あるテーマに対して多面的に調査を行い報告する研究報告や、臨床実習で得た特異症例の症例報告、自助具や装具等の製作発表などを行う。実施形態は少人数のゼミ形式で行い、専任教員が研究方法、研究論文の作成等について指導する。「理学療法卒業研究Ⅲ」では論文の作成と最終発表を行う。</p>          | 変更なし。                       |                                     | 理学療法卒業研究Ⅲ | <p>【目的】修学期間の大成であり、卒業年度に開講する。これまでに修得した演習・実習・学習の中で生じた疑問点や問題点に対して医学的な結論を導き出すとともに、多様な領域を考慮して論理的な考察から結論を導き出すことを目的とする。</p> <p>【方法】リハビリテーション分野や医学・福祉関係の研究に対して、専任教員が指導に当たる。卒業研究内容は、あるテーマに対して多面的に調査を行い報告する研究報告や、臨床実習で得た特異症例の症例報告、自助具や装具等の製作発表などを行う。実施形態は少人数のゼミ形式で行い、専任教員が研究方法、研究論文の作成等について指導する。「理学療法卒業研究Ⅲ」では論文の作成と最終発表を行う。</p>          |    |
|                                     | 理学療法応用ゼミⅠ | <p>【目的】臨床評価実習に向けた基礎知識・技術の習得と、理学療法士国家試験に備え1～3年次で履修した主要な教養科目、基礎専門科目、専門科目の復習を行い知識を定着させる。</p> <p>【方法】前期は臨床評価実習に向けて、教員が設定した課題を実施し、後半は基礎医学（解剖学・生理学・運動学）を中心とした国家試験問題に準じた課題をグループワーク等を通して学習する。また年数回学内模試と学外模試を実施する。</p>                                                                                                                  | 時間数変更（15時間より30時間に）、内容の変更あり。 |                                     | 理学療法応用ゼミⅠ | <p>【目的】理学療法士国家試験に備え1～3年次で履修した主要な教養科目、基礎専門科目、専門科目の復習を行い知識を定着させる。</p> <p>【方法】<br/>・年数回の学内模試と学外模試を行う。<br/>・ゼミ単位でグループ学習を行う。</p>                                                                                                                                                                                                    |    |
|                                     | 理学療法応用ゼミⅡ | <p>【目的】理学療法士国家試験に備え1～4年次で履修した主要な教養科目、基礎専門科目、専門科目の復習を行い知識を定着させる。</p> <p>【方法】年数回の学内模試と、指定した学外模試を行う。国家試験関連科目について教員等による講義を行う。</p>                                                                                                                                                                                                  | 時間数変更（15時間より30時間に）、内容変更あり。  |                                     | 理学療法応用ゼミⅡ | <p>【目的】理学療法士国家試験に備え1～4年次で履修した主要な教養科目、基礎専門科目、専門科目の復習を行い知識を定着させる。</p> <p>【方法】年数回の学内模試と、2回の学外模試を行う。国家試験関連科目について学内教員による講義を行う</p>                                                                                                                                                                                                   |    |
|                                     |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                             |                                     | 理学療法応用ゼミⅢ | <p>【目的】理学療法士国家試験に備え1～4年次で履修した主要な教養科目、基礎専門科目、専門科目の復習を行い知識を定着させる。</p> <p>【方法】本科目は主として、「分野別セミナー」と「模擬試験」、「グループ学習」などを実施する。</p>                                                                                                                                                                                                      | 廃止 |
|                                     |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                             |                                     | 連携総合ゼミ    | <p>【目的】対象者のQOLを高めるためには異なる専門職との密接な連携が必要であることを理解するとともに、地域における社会資源や専門職、及び専門機関（医療、福祉、保健など）のネットワークの重要性を理解し、将来の実践の基礎的能力・態度を身につける。</p> <p>【方法】QOLサポーターとしての専門職への円滑な導入を図るために、異なる学科の学生とお互いの専門性・志向性を考慮しながら連携・協働し、対象者の真のニーズを把握して支援策を企画・立案する。</p>                                                                                           | 廃止 |

作業療法学専攻 講義科目の概要 新旧対照表

| 新                                    |         |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                    | 旧                                    |         |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
|--------------------------------------|---------|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|--------------------------------------|---------|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 別記様式第2号（その3）<br>（用紙 日本工業規格A 4縦型）     |         |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                    | 別記様式第2号（その3）<br>（用紙 日本工業規格A 4縦型）     |         |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
| 授業科目の概要<br>（医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻） |         |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                    | 授業科目の概要<br>（医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻） |         |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                    | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称 | 講義等の内容 | 備考                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |  |
| 教養分野                                 | 導入教育    | 基礎ゼミⅠ  | 【目的】大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習熟化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。<br>【方法】本科目は主として「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義する。                                                                                                                                  | 時間数変更(15時間より30時間に) | 教養分野                                 | 導入教育    | 基礎ゼミⅠ  | 【目的】大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習熟化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。<br>【方法】本科目は主として「大学生・医療人としての心構え」、「大学生としてのマナーの基本」、「図書館の利用と文献検索の仕方」などを講義する。                                                                                                              |  |
|                                      |         | 基礎ゼミⅡ  | 【目的】大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習熟化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。<br>【方法】少人数に分かれグループとして「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験し、地域の課題解決に向けて結果をまとめて発表する。                                                                                                                   | 時間数変更(15時間より30時間に) |                                      |         | 基礎ゼミⅡ  | 【目的】大学教育のはじめにあたり、これからの生活や学習への心構え、学習環境の理解や利用方法、健康的な生活のための知識を学習する。また、臨床実習や就職後の職場環境に柔軟に対応・適応すべく、社会人・職業人としての心構えや行動様式を理解し、実践、習熟化できるようにする。また地域社会への参加などを通じて社会人としての基礎を養う。<br>【方法】少人数に分かれグループとして「地域に関わる演習」を実施する。内容は地域イベント・ボランティアなどへの参加を体験し、地域の課題解決に向けて結果をまとめて発表する。                                                                                               |  |
|                                      |         | 基礎ゼミⅢ  | 【目的】将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。<br>【方法】専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わりを通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「文献研究」、「調査・研究計画」、「医療倫理(e-learning)」などについてゼミ活動をおこなう。また、専攻毎のホームルーム活動などで討議、演習を行う。 | 時間数変更(15時間より30時間に) |                                      |         | 基礎ゼミⅢ  | 【目的】将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。<br>【方法】このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わりを通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「文献研究」、「調査・研究計画」、「医療倫理(e-learning)」などについてゼミ活動をおこなう。 |  |
|                                      |         | 基礎ゼミⅣ  | 【目的】将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。<br>【方法】専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わりを通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「調査・データ収集」、「データ整理」、「発表」などについてゼミ活動をおこなう。また、専攻毎のホームルーム活動などで討議、演習を行う。             | 時間数変更(15時間より30時間に) |                                      |         | 基礎ゼミⅣ  | 【目的】将来の福祉・医療現場では、日々他者と接触しながら、多くの人間関係の中で仕事を行っている。その場合、基礎学力や専門知識・技術は云うに及ばず、他者とのコミュニケーション能力、及び迅速かつ適切な実行力が求められる。このゼミでは、いわゆる「社会人としての基礎力」、「課題解決していく能力」を身につけることを目的とする。<br>【方法】このゼミでは、専攻に関わらず、全学生を少人数グループに分けて実施する。各グループ毎に学生自らが地域に係るテーマ、医療・科学に係るテーマを設定し、調査活動やボランティア活動を実施し、多様な他者との関わりを通して協同・協力について学ぶ。本科目では主として「調査・データ収集」、「データ整理」、「発表」などについてゼミ活動をおこなう。             |  |
| 高年次教養教育                              |         | 基礎ゼミⅤ  | 【目的】3年次は、卒業後の就職に向け自己を認識し、就職活動への意識を高めることを目的とする。また3年次後期からは、専攻によっては就職活動が開始可能となるような力を養成することをも目的とする。<br>【方法】就職に関する個別相談や指導を行う他、これからの就職活動に向けた自己理解セミナーを実施する。就職ガイダンスや各種キャリア講座、履歴書作成や面接マナーなどを実施する。                                                                                                                                                                                    | 新設科目               |                                      |         |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
|                                      |         | 基礎ゼミⅥ  | 【目的】4年次は、就職先を決める学年であり、3年次で取り組んできた就職活動を実践できる能力を身につけることを目的とする。<br>【方法】より具体的な就職先を検討しながら、個別に就職試験に向けた相談・指導を行う。その他、個別に履歴書の作成や面接試験の方法について指導を行う。                                                                                                                                                                                                                                    | 新設科目               |                                      |         |        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
| 人文科学                                 |         | 臨床倫理学  | 【目的】医療従事者には、一般の人よりも多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事が多々ある。臨床現場から外れた行動をしないよう自己啓発に向け修養する。<br>【方法】教科書を中心に講義を行い、様々な視点から「真の医療」ということについて学修する。                                                                                                                                                                                                                                             | 変更なし。              |                                      | 人文科学    | 臨床倫理学  | 【目的】医療従事者には、一般の人よりも多くの「医の倫理」として守らなければならない約束事が多々ある。臨床現場から外れた行動をしないよう自己啓発に向け修養する。<br>【方法】教科書を中心に講義を行い、様々な視点から「真の医療」ということについて学修する。                                                                                                                                                                                                                         |  |
|                                      |         | 地域文化論  | 【目的】本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に、伝統文化がもつ諸問題点を考えてみる。<br>【方法】本学の所在地である新潟県上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。                                                                                                                                                                                                                             | 変更なし。              |                                      |         | 地域文化論  | 【目的】本講義では、地域の様々な社会的事象が歴史の中で変容し、伝統と呼ばれる「文化」を形成してきたことを確認すると同時に、伝統文化がもつ諸問題点を考えてみる。<br>【方法】本学の所在地である新潟県上市の歴史と文化を主として取り上げ、さらに日本の文化や社会の知識や理解をより深めていく。                                                                                                                                                                                                         |  |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |         |                                                                                                                                                                                                                                                                     |       | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |         |                                                                                                                                                                                                                                                                     |    |
|--------------------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称 | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                              | 備考    | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称 | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                              | 備考 |
|                                      | 日本語表現法  | 【目的】 レポートや報告書、論文等を書く際に必要な、基本的な日本語に関する文法や表現法を学ぶ。文脈の整合性や、正しい敬語の使い方、口語体や文語体の違い、正しい助詞や助動詞の使い方、正しい単語や漢字の使い方等を学習する。<br>【方法】 基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文等を題材にして、より正しい日本語を学習する。                                                                                        | 変更なし。 |                                      | 日本語表現法  | 【目的】 レポートや報告書、論文等を書く際に必要な、基本的な日本語に関する文法や表現法を学ぶ。文脈の整合性や、正しい敬語の使い方、口語体や文語体の違い、正しい助詞や助動詞の使い方、正しい単語や漢字の使い方等を学習する。<br>【方法】 基本的な日本語のルールや使い方を学習し、単文やレポート、学術論文等を題材にして、より正しい日本語を学習する。                                                                                        |    |
|                                      | 心理学概論Ⅰ  | 【目的】 心理学における代表的分野についての基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができる。<br>【方法】 Power Point スライドを使用した講義が中心となる。内容は、原則指定教科書に準ずる。本科目は主として、「知覚」「学習」、「記憶」、「動機づけ」、「感情」について講義する。                                                                           | 変更なし。 |                                      | 心理学概論Ⅰ  | 【目的】 心理学における代表的分野についての基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができる。<br>【方法】 Power Point スライドを使用した講義が中心となる。内容は、原則指定教科書に準ずる。本科目は主として、「知覚」「学習」、「記憶」、「動機づけ」、「感情」について講義する。                                                                           |    |
|                                      | 心理学概論Ⅱ  | 【目的】 心理学における代表的分野についての基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができる。<br>【方法】 Power Point スライドを使用した講義が中心となる。内容は、原則指定教科書に準ずる。本科目は主として、「精神的健康」、「パーソナリティ」、「知能」について講義する。                                                                              | 変更なし。 |                                      | 心理学概論Ⅱ  | 【目的】 心理学における代表的分野についての基礎知識を学び、人間の行動についての理解を深める。医療、保健、福祉等の臨床現場で、対象者の“こころ”を推察し、適切な配慮ができる。<br>【方法】 Power Point スライドを使用した講義が中心となる。内容は、原則指定教科書に準ずる。本科目は主として、「精神的健康」、「パーソナリティ」、「知能」について講義する。                                                                              |    |
|                                      | 医療行動科学Ⅰ | 【目的】 人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。<br>【方法】 行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえて、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動理解のポイントを理解する。本科目は主として「行動科学と医療」の白紙・課題・方法」「自己と他者の理解・役割」、「医療者としての適性」などを講義する。 | 変更なし。 |                                      | 医療行動科学Ⅰ | 【目的】 人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。<br>【方法】 行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえて、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動理解のポイントを理解する。本科目は主として「行動科学と医療」の白紙・課題・方法」「自己と他者の理解・役割」、「医療者としての適性」などを講義する。 |    |
|                                      | 医療行動科学Ⅱ | 【目的】 人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。<br>【方法】 行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえて、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動理解のポイントを理解する。本科目は主として、「医療者のストレス」、「医療者の教育」、「患者とのコミュニケーション」などを講義する。         | 変更なし。 |                                      | 医療行動科学Ⅱ | 【目的】 人間の行動の背景にあるさまざまな法則を科学的に理解する「行動科学」の基礎を身につける。とりわけ、健康を増進し、疾病からの回復を目的とする医療における患者や家族・医療従事者の人間行動特性を多角的に考察し、医療の行動目的の促進を目指す。<br>【方法】 行動科学は学際性の高い学問であることを踏まえて、基礎・臨床の心理学、精神医学、社会学などにおける個人や集団の行動理解のポイントを理解する。本科目は主として、「医療者のストレス」、「医療者の教育」、「患者とのコミュニケーション」などを講義する。         |    |
| 社会<br>科学                             | 社会と健康Ⅰ  | 【目的】 人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要因が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。<br>【方法】 社会の仕組みと健康との関わり合いと自分の所属する専攻領域以外にも関心をもてるように、他専攻の教員から座学、演習（実技・学外研修も含む）を交えて学ぶ。                                     | 変更あり。 | 社会<br>科学                             | 社会と健康Ⅰ  | 【目的】 人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要因が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。<br>【方法】 社会の仕組みと健康との関わり合いを歴史的に考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。本科目は主として、「社会学とは何か」、「家族の問題」、「再生可能な社会とは何か」などを講義する。                |    |
|                                      | 社会と健康Ⅱ  | 【目的】 人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要因が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。<br>【方法】 社会の仕組みと健康との関わり合いと自分の所属する専攻領域以外にも関心をもてるように、他専攻の教員から座学、演習（実技・学外研修も含む）を交えて学ぶ。                                     | 変更あり。 |                                      | 社会と健康Ⅱ  | 【目的】 人びとの健康や病気が、社会的、経済的、政治的、環境的な条件に影響を受けることが広く認められるようになり、その研究が進んでいる。いくつかの保健機関は、健康の社会的要因が集団や個人の快適な暮らしに大きな影響をもたらすことを表明しており、本科目では社会と健康の関係を学習する。<br>【方法】 社会の仕組みと健康との関わり合いを歴史的に考察し、健康に影響する社会的要因を挙げ考察してゆく。本科目は主として、「社会制度と健康」、「食料生産と健康」、「健康のインフラとしての社会」などを講義する。            |    |
|                                      | 法律と医療Ⅰ  | 【目的】 医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。<br>【方法】 授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に教材配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。本科目は主として、「法律と医療倫理」、「憲法と医療」などを講義する。                                       | 変更なし。 |                                      | 法律と医療Ⅰ  | 【目的】 医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。<br>【方法】 授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に教材配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。本科目は主として、「法律と医療倫理」、「憲法と医療」などを講義する。                                       |    |
|                                      | 法律と医療Ⅱ  | 【目的】 医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。<br>【方法】 授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に教材配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。本科目は主として、「民法と医療」、「刑法と医療」などを講義する。                                         | 変更なし。 |                                      | 法律と医療Ⅱ  | 【目的】 医学が進歩し、医療技術が発達し、社会が変わることで、様々な法的・倫理的問題が生じている。本科目では、主に憲法、民法、刑法の基礎知識とそれに関連する医療上の問題を学ぶことで、医療上の法的・倫理的問題に対応できる知識を習得することを目的とする。<br>【方法】 授業は PowerPoint スライドを用いた説明を中心に教材配布資料を補助的に用いる。黒板は使用しない。本科目は主として、「民法と医療」、「刑法と医療」などを講義する。                                         |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                           |  | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |    |  |
|--------------------------------------|---------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|--|--------------------------------------|---------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--|
| 科目区分                                 | 授業科目の名称       | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 備考                                        |  | 科目区分                                 | 授業科目の名称       | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 備考 |  |
| 自然科学                                 | コミュニケーション心理学Ⅰ | 【目的】人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。<br>【方法】言語的・非言語的になされる自己の開示や呈示、他者の理解や説得、欺きや情報操作、集団力動のはたらきや影響などを、実例を踏まえながら理解する。本科目は主として、「対人コミュニケーションの社会心理学」、「非言語的コミュニケーション」、「自己呈示」などを講義する。                                                                                          | 変更なし。                                     |  | 自然科学                                 | コミュニケーション心理学Ⅰ | 【目的】人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。<br>【方法】言語的・非言語的になされる自己の開示や呈示、他者の理解や説得、欺きや情報操作、集団力動のはたらきや影響などを、実例を踏まえながら理解する。本科目は主として、「対人コミュニケーションの社会心理学」、「非言語的コミュニケーション」、「自己呈示」などを講義する。                                                                   |    |  |
|                                      | コミュニケーション心理学Ⅱ | 【目的】人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。<br>【方法】言語的・非言語的になされる自己の開示や呈示、他者の理解や説得、欺きや情報操作、集団力動のはたらきや影響などを、実例を踏まえながら理解する。本科目は主として、「命令・強制」、「他者を欺くコミュニケーション」、「集団・社会・文化とコミュニケーション」などを講義する。                                                                                       | 変更なし。                                     |  |                                      | コミュニケーション心理学Ⅱ | 【目的】人間の社会生活の基礎をなすコミュニケーションについて、そのさまざまな特徴や理論を心理学視点で理解する。コミュニケーション自体は日常の一コマであるが、それらを学問的に整理し、本学生として医療での対人関係やその研究の切り口を身につける。<br>【方法】言語的・非言語的になされる自己の開示や呈示、他者の理解や説得、欺きや情報操作、集団力動のはたらきや影響などを、実例を踏まえながら理解する。本科目は主として、「命令・強制」、「他者を欺くコミュニケーション」、「集団・社会・文化とコミュニケーション」などを講義する。                                                                |    |  |
|                                      | 統計学Ⅰ          | 【目的】リハビリテーション・心理学的介入の有用性を判断する上で、統計学の知識は必要不可欠である。この講義では、統計学の始まりから現在までを概括し、統計に関する基礎的な知識、およびリハビリテーション学・心理学における統計で用いられる独特の用語や定義に基づく基本的分析方法を学ぶと共に、各分析方法の意味と実用に即したデータ処理について理解できるようにする。<br>【方法】統計学の網羅的な体系、統計学の基礎的な考え方、標本と母集団との関係、およびデータの種類と表現形式について学ぶ。また、よく用いられる統計的な検定方法を学修し、その実際的な適用の仕方について学ぶ。本科目は主として、「統計的な考え方」、「代表値とバラツキ」、「確率」、「ベイズの定理」、「正規分布」、「仮説検定」などを講義する。 | 時間数変更(15時間より30時間に)、内容変更あり(統計学の基礎理論を講義する。) |  |                                      | 統計学Ⅰ          | 【目的】リハビリテーション・心理学的介入の有用性を判断する上で、統計学の知識は必要不可欠である。この講義では、統計学の始まりから現在までを概括し、統計に関する基礎的な知識、およびリハビリテーション学・心理学における統計で用いられる独特の用語や定義に基づく基本的分析方法を学ぶと共に、各分析方法の意味と実用に即したデータ処理について理解できるようにする。<br>【方法】統計学の網羅的な体系、統計学の基礎的な考え方、標本と母集団との関係、およびデータの種類と表現形式について学ぶ。また、よく用いられる統計的な検定方法を学修し、その実際的な適用の仕方について学ぶ。本科目は主として、「統計的な考え方」、「代表値とバラツキ」、「確率」などを講義する。 |    |  |
|                                      | 統計学Ⅱ          | 【目的】現在多くの仕事の領域でデータを読み解く能力が求められている。これは専門職・事務職の区別を問わない。この講義では、入門程度の統計の知識を持つものが、実際にデータを操作して初歩的な統計分析を実施するための技能を修得することを目的としている。自分でデータを分析できるようにすると、新聞やテレビ、学術論文で公表された数値をより正確に理解できるようになる。<br>【方法】統計ソフトのRを使用して、データの集約法(記述統計)と基礎的な統計的検定(推測統計)を自分でデータを操作しながら学習する。統計ソフトに関する予備知識は必要ない。エクセルを少し使えらと役に立つ。                                                                 | 内容変更あり。(統計ソフトの基本的使用方法を講義する。)              |  |                                      | 統計学Ⅱ          | 【目的】リハビリテーション・心理学的介入の有用性を判断する上で、統計学の知識は必要不可欠である。この講義では、統計学の始まりから現在までを概括し、統計に関する基礎的な知識、およびリハビリテーション学・心理学における統計で用いられる独特の用語や定義に基づく基本的分析方法を学ぶと共に、各分析方法の意味と実用に即したデータ処理について理解できるようにする。<br>【方法】統計学の網羅的な体系、統計学の基礎的な考え方、標本と母集団との関係、およびデータの種類と表現形式について学ぶ。また、よく用いられる統計的な検定方法を学修し、その実際的な適用の仕方について学ぶ。本科目は主として、「ベイズの定理」、「正規分布」、「仮説検定」などを講義する。    |    |  |
|                                      | 基礎生命科学        | 【目的】本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物科学の履修に向けて必要となる基礎知識の修得を目的とする。<br>【方法】高等学校にて「生物」を履修しなかった学生も対象に、医生物科学を学ぶにあたって必要な学習事項を中心に概説する。                                                                                                                                                                                                                               | 変更なし。                                     |  |                                      | 基礎生命科学        | 【目的】本講義は基礎生物学に関する導入講義であり、医療学部の医生物科学の履修に向けて必要となる基礎知識の修得を目的とする。<br>【方法】高等学校にて「生物」を履修しなかった学生も対象に、医生物科学を学ぶにあたって必要な学習事項を中心に概説する。                                                                                                                                                                                                        |    |  |
|                                      | 医生物科学Ⅰ        | 【目的】リハビリテーションという現実直面する人の内体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。<br>【方法】生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物(学)の世界」「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義する。                                                                                                                                                 | 変更なし。                                     |  |                                      | 医生物科学Ⅰ        | 【目的】リハビリテーションという現実直面する人の内体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。<br>【方法】生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「生物(学)の世界」「生物と環境の変化」、「万能細胞～ヒトのiPS細胞～」などを講義する。                                                                                                                          |    |  |
|                                      | 医生物科学Ⅱ        | 【目的】リハビリテーションという現実直面する人の内体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。<br>【方法】生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「感性～音と絵の世界」、「死とは」、「人間・からだのたたかひ」などを講義する。                                                                                                                                                       | 変更なし。                                     |  |                                      | 医生物科学Ⅱ        | 【目的】リハビリテーションという現実直面する人の内体と心の関係を知る基礎を学ぶ。生命科学から見た人について考えるきっかけを得る。<br>【方法】生命現象を呈する生物の姿かたち、生活の在り方を考えながら、生物体の基本単位である細胞、細菌学、その中で特に医療分野で必要な感染症についても学んでいく。本科目は主として、「感性～音と絵の世界」、「死とは」、「人間・からだのたたかひ」などを講義する。                                                                                                                                |    |  |
|                                      | 人間支援科学Ⅰ       | 【目的】人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ講義です。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることを目的とする。<br>【方法】自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法(人から人、物を使用)を演習を踏まえて講義する。                                                                                                                                                                                             | 内容の変更あり。                                  |  |                                      | 人間支援科学Ⅰ       | 【目的】人間の感覚器や効果器の諸特性、高次な認知過程の特質などについて把握し、人間の特性に合ったより使いやすしい機器の開発を目指すための知識を身につける。<br>【方法】当講義では主に人間工学に基づく基礎知識を具体例を通して学ぶ。本科目は主として、「人間支援科学とは」、「人間支援科学のキーワード」、「電磁石とその使い方」などを講義する。                                                                                                                                                          |    |  |
|                                      | 人間支援科学Ⅱ       | 【目的】人と人の支援方法だけでなく、ことばやモノを使った支援を体験して学ぶ講義です。多職種からの考え方を学びながら人を支えられることを目的とする。<br>【方法】自身の所属する専門領域以外にも関心を持つことができるように、各専門領域の教員から人を支えるための支援方法(人から人、物を使用)を演習を踏まえて講義する。                                                                                                                                                                                             | 内容の変更あり。                                  |  |                                      | 人間支援科学Ⅱ       | 【目的】人間の感覚器や効果器の諸特性、高次な認知過程の特質などについて把握し、人間の特性に合ったより使いやすしい機器の開発を目指すための知識を身につける。<br>【方法】当講義では主に人間工学に基づく基礎知識を具体例を通して学ぶ。本科目は主として、「電磁石とモーターの基本」、「半導体デバイスの基本構造」、「人間の感覚器と半導体センサー」などを講義する。                                                                                                                                                  |    |  |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法専攻) |               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                           |  | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法専攻) |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |  |
|-------------------------------------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|--|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--|
| 科目<br>区分                            | 授業科目の名称       | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 備考                                        |  | 科目<br>区分                            | 授業科目の名称                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 備考 |  |
|                                     | 物理学Ⅰ          | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は、主として、「物理学を学ぶのに必要な数学」、「テコの原理」、「輪じく・滑車・歯車」などを学修する。                                                                                                                         | 内容の変更あり。                                  |  | 物理学Ⅰ                                | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は主として、「なぜ物理が必要か」、「テコの原理」、「生体の中のテコ」などを講義する。                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |  |
|                                     |               | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は、主として、「生体の中のテコ」、「作用・反作用」、「力の分解」などを学修する。                                                                                                                                   | 内容の変更あり。                                  |  |                                     | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は主として、「作用・反作用」、「力の分解」、「振り子」などを講義する。                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |  |
|                                     | 物理学Ⅱ          | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は、主として、「生体の中のテコ」、「作用・反作用」、「力の分解」などを学修する。                                                                                                                                   | 内容の変更あり。                                  |  | 物理学Ⅱ                                | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は主として、「作用・反作用」、「力の分解」、「振り子」などを講義する。                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |  |
|                                     |               | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は、主として、「生体の中のテコ」、「作用・反作用」、「力の分解」などを学修する。                                                                                                                                   | 内容の変更あり。                                  |  |                                     | 【目的】リハビリテーションに関連する物理学を学ぶことを目的にする。高校で物理学を学ぶ機会がなかった学生や苦手だった学生が、リハビリテーションに必要な物理学の基礎を学ぶ。<br>【方法】教科書と配布資料などによる講義と演習を行う。本科目は主として、「作用・反作用」、「力の分解」、「振り子」などを講義する。                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |  |
|                                     | レクリエーション      | 【目的】レクリエーションは小児の場合は運動発達を促し、高齢者の場合は活動性をあげるなど、年令別にさまざまな目的がある。また、目的や対象者によって、的確なレクリエーションを選択する必要がある。楽しむだけでなくレクリエーションの理論を学ぶ。<br>【方法】座学の講義以外にレクリエーションを実際に行い、司会役や患者役などに分かれ、より良いレクリエーションを提供できる能力を学び、近隣施設へ赴き実践的能力も身につける。                                                                                  | 変更なし。                                     |  | レクリエーション                            | 【目的】レクリエーションは小児の場合は運動発達を促し、高齢者の場合は活動性をあげるなど、年令別にさまざまな目的がある。また、目的や対象者によって、的確なレクリエーションを選択する必要がある。楽しむだけでなくレクリエーションの理論を学ぶ。<br>【方法】座学の講義以外にレクリエーションを実際に行い、司会役や患者役などに分かれ、より良いレクリエーションを提供できる能力を学び、近隣施設へ赴き実践的能力も身につける。                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |  |
|                                     |               | 【目的】様々な運動やスポーツを経験し、健康に関する知識や相互理解を深める。<br>【方法】各種体育・スポーツ種目を実践するとともに、健康や障害について考える。                                                                                                                                                                                                                 | 変更なし。                                     |  |                                     | 【目的】様々な運動やスポーツを経験し、健康に関する知識や相互理解を深める。<br>【方法】各種体育・スポーツ種目を実践するとともに、健康や障害について考える。                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |  |
| 情報                                  | 情報処理技法Ⅰ       | 【目的】情報処理技法Ⅰでは、基本的なパソコン 操作と情報スキルについて学習し、今後の臨床実習、サークル活動やボランティア活動にも必要となるスキルを身につける。<br>【方法】情報スキルの基礎知識について講義を通し学び、実習を行うことにより具体的方法を学習する。                                                                                                                                                              | 時間数変更(15時間より30時間に)、内容変更あり(基礎的情報処理について学ぶ)。 |  | 情報処理技法Ⅰ                             | 【目的】情報処理技法では、基本的なPC 操作について学習をし、今後の臨床実習、サークル活動やボランティア活動にも必要となるスキルを身につける。特に大学生活や病院や施設等で使用頻度が高いMicrosoft office を使用して実践的な能力を学修する。<br>【方法】「Word」「Excel」「PowerPoint」を中心に実践的に、ビジネス文書作成、表計算、プレゼンテーション技術、情報発信方法、ネットワークの基礎、セキュリティなどについて学ぶ。さらに各ソフト間のデータの連携や共有方法なども合わせて学ぶ。その他、ポスターやチラシの作成なども行う。本科目は主として、「コンピュータの基本操作」、「Word」などを講義・実習する。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |  |
|                                     |               | 【目的】情報処理技法Ⅱでは、応用的なPC 操作と情報スキルについて学習し、今後の授業や臨床実習でのレポート作成・発表資料の作成にも必要となる技能を身につける。<br>【方法】情報スキルの基礎知識について講義を通し学び、実習を行うことにより具体的方法を学習する。                                                                                                                                                              | 内容変更あり(応用的情報処理について学ぶ)。                    |  |                                     | 【目的】情報処理技法では、基本的なPC 操作について学習をし、今後の臨床実習、サークル活動やボランティア活動にも必要となるスキルを身につける。特に大学生活や病院や施設等で使用頻度が高いMicrosoft office を使用して実践的な能力を学修する。<br>【方法】「Word」「Excel」「PowerPoint」を中心に実践的に、ビジネス文書作成、表計算、プレゼンテーション技術、情報発信方法、ネットワークの基礎、セキュリティなどについて学ぶ。さらに各ソフト間のデータの連携や共有方法なども合わせて学ぶ。その他、ポスターやチラシの作成なども行う。本科目は主として、「Excel」、「PowerPoint」などを講義・実習する。 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |  |
|                                     | コンピュータと人間の接点Ⅰ | 【目的】人間とコンピュータとの関係がどうあるべきかについて学ぶことにより、技術をどのように活かすべきかを考え、それを具体的なインタフェースとして設計する考え方を身につける。リハビリテーション工学の基礎となる考え方を学ぶ。<br>【方法】インタフェースという基本概念を、次いで人間について身体・生理的特性、認知的特性を学ぶ。さらに、インタフェース設計のための人間中心設計という考え方を、またここ30 年程の間に開発されてきた様々な技術について学ぶ。本科目は主として、「コンピュータの構成と利用」、「情報社会と情報システム」、「システム開発の基礎」などを講義する。        | 変更なし。                                     |  | コンピュータと人間の接点Ⅰ                       | 【目的】人間とコンピュータとの関係がどうあるべきかについて学ぶことにより、技術をどのように活かすべきかを考え、それを具体的なインタフェースとして設計する考え方を身につける。リハビリテーション工学の基礎となる考え方を学ぶ。<br>【方法】インタフェースという基本概念を、次いで人間について身体・生理的特性、認知的特性を学ぶ。さらに、インタフェース設計のための人間中心設計という考え方を、またここ30 年程の間に開発されてきた様々な技術について学ぶ。本科目は主として、「コンピュータの構成と利用」、「情報社会と情報システム」、「システム開発の基礎」などを講義する。                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |  |
|                                     |               | 【目的】人間とコンピュータとの関係がどうあるべきかについて学ぶことにより、技術をどのように活かすべきかを考え、それを具体的なインタフェースとして設計する考え方を身につける。リハビリテーション工学の基礎となる考え方を学ぶ。<br>【方法】インタフェースという基本概念を、次いで人間について身体・生理的特性、認知的特性を学ぶ。さらに、インタフェース設計のための人間中心設計という考え方を、またここ30 年程の間に開発されてきた様々な技術について学ぶ。本科目は主として、「企業内における情報活用」、「インターネットの仕組み」、「情報化におけるリスクマネジメント」などを講義する。  | 変更なし。                                     |  |                                     | 【目的】人間とコンピュータとの関係がどうあるべきかについて学ぶことにより、技術をどのように活かすべきかを考え、それを具体的なインタフェースとして設計する考え方を身につける。リハビリテーション工学の基礎となる考え方を学ぶ。<br>【方法】インタフェースという基本概念を、次いで人間について身体・生理的特性、認知的特性を学ぶ。さらに、インタフェース設計のための人間中心設計という考え方を、またここ30 年程の間に開発されてきた様々な技術について学ぶ。本科目は主として、「企業内における情報活用」、「インターネットの仕組み」、「情報化におけるリスクマネジメント」などを講義する。                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |  |
| 外国語                                 | 医療英語ベーシック     | 【目的】医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4 級合格を目標とする。医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようにする。検定合格に必要な基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージを読解し、実用的な英文が書けるようになる。この授業は検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。<br>【方法】専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため「書く」「読む」の演習で使っていく。テキストの会話を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。 | 旧科目「医療英語Ⅰ・初級」、「医療英語Ⅱ・初級」を統合し名称変更、内容変更あり。  |  | 外国語                                 | 医療英語Ⅰ・初級                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 【目的】医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4 級合格を目標とする。医療現場における基礎的な言い回しを理解できるようにする。検定合格に必要な基礎文法力を高める。導入した基礎専門語彙や文法を使用し日常的な医療現場において想定されるパッセージを読解し、実用的な英文が書けるようになる。この授業は検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。<br>【方法】専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため「書く」「読む」の演習で使っていく。テキストの会話を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。 |    |  |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                            | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                 |
|--------------------------------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|--------------------------------------|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 備考                                         | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 備考              |
|                                      | 医療英語アドバンス  | 【目的】医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格を目標とする。医療現場における言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要な文法力を高める。導入した専門語彙や文法を使用し医療関係を内容とした英文パラグラフを読解できるようになる。またその内容を問う英語質問文を理解できるようになる。短いパラグラフが書けるようになる。この授業は検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。<br>【方法】専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』『話す』の演習で使っていく。テキストのパラグラフを読解すると同時にターゲット文法の解説及び演習を行う。 | 旧科目「医療英語Ⅰ・中級」、「医療英語Ⅱ・中級」を統合し名称変更、内容変更あり。   |                                      | 医療英語Ⅰ・中級   | 【目的】医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格を目標とする。医療現場における言い回しを理解できるようになる。検定合格に必要な文法力を高める。導入した専門語彙や文法を使用し医療関係を内容とした英文パラグラフを読解できるようになる。またその内容を問う英語質問文を理解できるようになる。短いパラグラフが書けるようになる。この授業は検定合格だけでなく医療現場における基礎英語運用能力向上も目的とする。<br>【方法】専門用語集を使用し基礎語彙を導入し、定着化のため『書く』『読む』『話す』の演習で使っていく。テキストのパラグラフを読解すると同時にターゲット文法の解説及び演習を行う。                                     |                 |
|                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                            |                                      | 医療英語Ⅱ・初級   | 【目的】医療英語Ⅰ・初級で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足している力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級合格を目指す。医療分野の初歩的な知識を学び英文読解力を高める。検定の勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。<br>【方法】医療英語Ⅰ・初級に引き続き専門用語集を使用し基礎語彙及び文法を更に導入し、『書く』『読む』『話す』の演習で定着化させていく。会話文を読解すると同時にターゲット基礎文法の解説及び演習を行う。例文を参考にセンテンスを書く演習を行う。同時に多くの検定試験練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練をする。                         | 「医療英語ベーシック」に統合  |
|                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                            |                                      | 医療英語Ⅱ・中級   | 【目的】医療英語Ⅰ・中級で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足している力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格を目指す。医療分野の知識を身に付け英文読解力を高め、その内容を問う英語質問文を即座に理解できるようになる。検定の勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。<br>【目的】医療英語Ⅰ・中級に引き続き専門用語集を使用し語彙及び文法を更に導入し、『書く』『読む』『話す』の演習で定着化させていく。テキストのパラグラフを読解すると同時にターゲット文法の解説及び演習を行う。また短いパラグラフを書く演習を行う。更に多くの検定試験練習問題を解くことにより得点に結びつくような実戦的な訓練をする。 | 「医療英語アドバンス」に統合  |
|                                      | 医療英会話ベーシック | 【目的】様々な日常医療現場における簡単な内容の会話を聴き理解できるようになる。また同現場での基礎的な対話ができるようになる。福祉英語検定4級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。<br>【方法】検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。簡単な医療現場での会話をモデルに、自分で会話文が作れるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。                                                        | 旧科目「医療英会話Ⅰ・初級」、「医療英会話Ⅱ・初級」を統合し名称変更、内容変更あり。 |                                      | 医療英会話Ⅰ・初級  | 【目的】様々な日常医療現場における簡単な内容の会話を聴き理解できるようになる。また同現場での基礎的な対話ができるようになる。福祉英語検定4級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。<br>【方法】検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。簡単な医療現場での会話をモデルに、自分で会話文が作れるようにする。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。                                                                                            |                 |
|                                      | 医療英会話アドバンス | 【目的】医療現場における様々な領域の知識を身に付ける。基礎英会話力をもとにそれを医療現場において応用できるようになる。また同場面でのコミュニケーションを無理なく継続できるようになる。福祉英語検定3級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。<br>【方法】検定協会の教材で導入した3級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。医療現場での会話をモデルにした演習を繰り返し行い、英語による会話継続力を身に付ける。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。                | 旧科目「医療英会話Ⅰ・中級」、「医療英会話Ⅱ・中級」を統合し名称変更、内容変更あり。 |                                      | 医療英会話Ⅰ・中級  | 【目的】医療現場における様々な領域の知識を身に付ける。基礎英会話力をもとにそれを医療現場において応用できるようになる。また同場面でのコミュニケーションを無理なく継続できるようになる。福祉英語検定3級のリスニングセクションにおいて高得点をとる。<br>【方法】検定協会の教材で導入した3級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。ディクテーション演習により正しい発音及び聞き取り能力を向上させる。医療現場での会話をモデルにした演習を繰り返し行い、英語による会話継続力を身に付ける。擬似環境における対話練習により英語を聴く・話すことに慣れる。                                                    |                 |
|                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                            |                                      | 医療英会話Ⅱ・初級  | 【目的】医療英会話Ⅰ・初級で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足しているリスニング力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定4級合格を目指す。検定のリスニングセクション勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。医療分野の初歩的な知識を身に付け、日常医療現場における会話力を高める。<br>【目的】医療英会話Ⅰ・初級に引き続き検定協会の教材で導入した基礎専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。4級検定試験において取り上げられる医療現場設定を中心に対話練習を繰り返し行う。同時に多くの検定試験リスニング練習問題を解くことにより得点に結びつくよう実戦的な訓練をする。              | 「医療英会話ベーシック」に統合 |
|                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                            |                                      | 医療英会話Ⅱ・中級  | 【目的】医療英会話Ⅰ・中級で学んだ内容を強化・補強し、学外検定試験合格のために不足しているリスニング力を補い、医療・福祉英語検定協会主催、福祉英語検定3級合格を目指す。検定3級のリスニングセクション勉強方法を学ぶとともにその問題形式に慣れ、効果的な攻略法を身に付ける。医療分野の知識を身に付け、医療現場における会話継続力を高める。<br>【方法】医療英会話Ⅰ・中級に引き続き検定協会の教材で導入した3級程度専門用語・表現の対話内での使用を促し、その定着を図る。3級検定試験において取り上げられる医療現場設定を中心に対話練習を繰り返し行う。同時に多くの検定試験リスニング練習問題を解くことにより得点に結びつくよう実戦的な訓練をする。              | 「医療英会話アドバンス」に統合 |
|                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                            |                                      | 総合医療英語Ⅰ・上級 | 【目的】医療分野における英語でのディスカッションなどができる会話力を身に付けると共に、効果的に情報提示するプレゼンテーションができるようになる。また、科学的根拠に基づいた理論的な英文エッセイの作成法を身に付ける。<br>【方法】自分でまとめた英文エッセイを明確な発音や適切なリズムでプレゼンテーションで効果的に発表できるように実践的演習を行う。医療分野において学生が興味のあるトピックを選びディスカッションに必要な表現の導入や練習をし、情報交換型から問題解決型グループディスカッションへと段階的に指導を行う。                                                                           | 「医療英語アドバンス」に統合  |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                |
|--------------------------------------|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--------------------------------------|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称  | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 備考    | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 備考             |
|                                      |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       |                                      | 総合医療英語Ⅱ・上級 | 【目的】医療に関連するテーマに自分の主張を英語でディベートできるようにする。その主張をエッセイとして理論的にまとめ、それを発表できるようにする。<br>【方法】自分でまとめた英文エッセイを明確な発音や適切なリズム・イントネーションで効果的にプレゼンテーションを行う実践的演習を行う。医療分野において学生が興味のあるトピックを選びディベートに必要な表現等の導入、即効的なスピーキングそしてディベートへと段階的に指導を行う。                                                                                                 | 「医療英語アドバンス」に統合 |
|                                      | 中国語      | 【目的】中国語は中国本土のほか、香港、台湾、シンガポール、マレーシアなどで広く使われています。同じ漢字圏に身を置く日本人学生に日中文化の比較を念頭に置かせて、中国語の深い文化的背景を理解しながら、中国語のローマ字表記法（ピンイン）と声調（四声）、基礎的な文法の学習をはじめ、日常会話に対応できる能力を身につけることを目指す。<br>【方法】特に中国語学習において難点とされる「ピンイン・声調」を確実に習得し、美しい発音を身につける。また中国語の語順や否定文、疑問文など基礎的な文法を学んで、自己紹介や家族紹介など日常会話をできるようにする。授業中にペアワーク、グループワークなども盛り込みながら、みずからの力で「読み」「書き」「話す」ために必要な知識や能力を養う。 | 新設科目  |                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                |
|                                      | 医療英文抄読法Ⅰ | 【目的】英語で書かれた学術論文に慣れ親しみ、将来、英語文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけ、その形式を理解し論文を読むポイントが分かるようになる。<br>【方法】基礎医学用語、医療現場でよく用いられる専門用語、疾患名、医療関係者が用いる略語、薬剤名や検査法、英語で記載されたカルテや報告書に触れる機会を多数設ける。また、学術雑誌に掲載される症例報告や研究論文（臨床研究および基礎研究）を個々の学生の興味や専門分野に合わせて選択し、グループ作業も含めて読みこなし練習をする。                                                                             | 変更なし。 |                                      | 医療英文抄読法Ⅰ   | 【目的】英語で書かれた学術論文に慣れ親しみ、将来、英語文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけ、その形式を理解し論文を読むポイントが分かるようになる。<br>【方法】基礎医学用語、医療現場でよく用いられる専門用語、疾患名、医療関係者が用いる略語、薬剤名や検査法、英語で記載されたカルテや報告書に触れる機会を多数設ける。また、学術雑誌に掲載される症例報告や研究論文（臨床研究および基礎研究）を個々の学生の興味や専門分野に合わせて選択し、グループ作業も含めて読みこなし練習をする。                                                   |                |
|                                      | 医療英文抄読法Ⅱ | 【目的】英語で書かれた学術論文に慣れ親しみ、将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけ、その論文を読むポイントが分かるようになる。文献リストの意義を理解し、その書き方を学ぶ。更にリストに記載されている文献から新しい必要資料を探し出せるようになる。<br>【方法】基礎医学用語、医療現場でよく用いられる専門用語、疾患名、医療関係者が用いる略語、薬剤名や検査法、英語で記載されたカルテや報告書に触れる機会を多数設ける。また、参考文献リストから必要な学術雑誌に掲載される症例報告や研究論文（臨床研究および基礎研究）を探し、グループ作業も含めて読みこなし練習をする。                           | 変更なし。 |                                      | 医療英文抄読法Ⅱ   | 【目的】英語で書かれた学術論文に慣れ親しみ、将来、英語で書かれた文献を苦手意識なしに読むことができる基盤を身につける。必要な学術文献を見つけ、その論文を読むポイントが分かるようになる。文献リストの意義を理解し、その書き方を学ぶ。更にリストに記載されている文献から新しい必要資料を探し出せるようになる。<br>【方法】基礎医学用語、医療現場でよく用いられる専門用語、疾患名、医療関係者が用いる略語、薬剤名や検査法、英語で記載されたカルテや報告書に触れる機会を多数設ける。また、参考文献リストから必要な学術雑誌に掲載される症例報告や研究論文（臨床研究および基礎研究）を探し、グループ作業も含めて読みこなし練習をする。 |                |
|                                      | 国際理解演習Ⅰ  | 【目的】諸外国のリハビリテーション医療の状況や医療従事者の教育について知識を深めるにとにより、それぞれの国の社会状況や文化がどのように影響しているかを学修する。<br>【方法】国際理解演習Ⅰでは、各国のリハビリテーション医療・教育、国際的医療支援について講義形式で学ぶ。また教材として英文の資料を用いて学修する。                                                                                                                                                                                 | 変更なし。 |                                      | 国際理解演習Ⅰ    | 【目的】諸外国のリハビリテーション医療の状況や医療従事者の教育について知識を深めるにとにより、それぞれの国の社会状況や文化がどのように影響しているかを学修する。<br>【方法】国際理解演習Ⅰでは、各国のリハビリテーション医療・教育、国際的医療支援について講義形式で学ぶ。また教材として英文の資料を用いて学修する。                                                                                                                                                       |                |
|                                      | 国際理解演習Ⅱ  | 【目的】諸外国のリハビリテーション医療の状況や医療従事者の教育について知識を深めるにとにより、それぞれの国の社会状況や文化がどのように影響しているかを学修する。<br>【方法】実際に短期間の海外でのリハビリテーション施設や大学を見学することにより日本でのリハビリテーション医療・教育との違いを学ぶ。                                                                                                                                                                                        | 変更なし。 |                                      | 国際理解演習Ⅱ    | 【目的】諸外国のリハビリテーション医療の状況や医療従事者の教育について知識を深めるにとにより、それぞれの国の社会状況や文化がどのように影響しているかを学修する。<br>【方法】実際に短期間の海外でのリハビリテーション施設や大学を見学することにより日本でのリハビリテーション医療・教育との違いを学ぶ。                                                                                                                                                              |                |
| 専門<br>基礎<br>分野                       | 基礎医学     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |       | 専門<br>基礎<br>分野                       | 基礎医学       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                |
|                                      | 解剖学・総論Ⅰ  | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「解剖学総論」、「人体構造の基本」、「体幹の解剖」などを講義する。                                                                             | 変更なし。 |                                      | 解剖学・総論Ⅰ    | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習、ならびに問題の論議による演習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「解剖学総論」、「人体構造の基本」、「体幹の解剖」などを講義する。                                    |                |
|                                      | 解剖学・総論Ⅱ  | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「上肢の解剖」を講義する。                                                                                                 | 変更なし。 |                                      | 解剖学・総論Ⅱ    | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習、ならびに問題の論議による演習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「上肢の解剖」を講義する。                                                        |                |
|                                      | 解剖学・総論Ⅲ  | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「下肢の解剖」、「上肢と下肢の比較」などを講義する。                                                                                    | 変更なし。 |                                      | 解剖学・総論Ⅲ    | 【目的】医学、医療について学ぶための基礎として解剖学、形態学の基礎知識について科学的に学ぶ。さらに比較解剖学、発生学を通して、ヒトの特徴を理解する。生と死を通して、生命の尊厳、医の倫理を学ぶ。これらにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】教科書、図譜を通しての講義だけでなく、標本、模型などによる実習、ならびに問題の論議による演習を組み合わせて学修する。骨、筋肉、神経、脈管などを総合的に、局所解剖学的に考察し、説明ができるようにする。<br>本科目は主として、「下肢の解剖」、「上肢と下肢の比較」などを講義する。                                           |                |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                            | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |    |
|--------------------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|--------------------------------------|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称 | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 備考                                                         | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称 | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 備考 |
|                                      | 解剖学・各論Ⅰ | 【目的】人体を骨、筋、神経、尿管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）→（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】教科書、図譜のみでなく、標本、模型に加えて生体観察も活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。<br>本科目は主として、「循環器」、「内臓学・組織学」、「呼吸器」などを講義する。                                                                                                                                | 変更なし。                                                      |                                      | 解剖学・各論Ⅰ | 【目的】人体を骨、筋、神経、尿管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）→（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】教科書、図譜のみでなく、標本、模型に加えて生体観察も活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。<br>本科目は主として、「循環器」、「内臓学・組織学」、「呼吸器」などを講義する。                                                                                                                                |    |
|                                      | 解剖学・各論Ⅱ | 【目的】人体を骨、筋、神経、尿管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）→（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】教科書、図譜のみでなく、標本、模型に加えて生体観察も活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。<br>本科目は主として、「消化器」、「泌尿器」、「内臓の神経と尿管学」などを講義する。                                                                                                                              | 変更なし。                                                      |                                      | 解剖学・各論Ⅱ | 【目的】人体を骨、筋、神経、尿管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）→（頭部と内臓）に、またマクロからミクロまでを統合して考察、理解する。これにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】教科書、図譜のみでなく、標本、模型に加えて生体観察も活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。<br>本科目は主として、「消化器」、「泌尿器」、「内臓の神経と尿管学」などを講義する。                                                                                                                              |    |
|                                      | 解剖学実習   | 【目的】解剖学実習は、脳科学なかならず中枢神経の解剖学を学習することを通して、解剖学・総論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、解剖学・各論Ⅰ、Ⅱで学習した知識を、心身機能と身体構造の統合へと理解を深めることが目的である。中枢神経系の理解により、脳や脊髄の障害が身体各部へどのように影響を与えるかを、局所解剖学的にとらえて、理解、説明できるようにすることも重要な目標の一つである。<br>【方法】医学の大学で人体解剖の見学・実習を行う。献体されたご遺体から、生と死、生命の尊厳、医の倫理を実体験として感じ、学ぶことができる。生体で体表から同定しうる構造についての触診、体表への投影などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することによって理解を深める。                                                  | 旧科目「解剖学・演習Ⅰ」、「解剖学・演習Ⅱ」を統合し「解剖学実習」に名称変更。1単位、45時間とする。内容変更あり。 |                                      | 解剖学・演習Ⅰ | 【目的】解剖学演習は解剖学・総論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、解剖学・各論Ⅰ、Ⅱで学修した知識を、標本もしくは人体で確認し、構造的、機能的に結合した理解を得ることが目的である。局所臨床解剖学的にとらえて、理解し、説明することも重要。これにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】医学、歯学の大学で人体解剖学の見学・演習・実習を行う。生体で体表から同定しうる構造についての触診、体表への投影、画像の解析などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することで理解を深める。<br>本科目は主として、「中枢神経系：総論」、「髄膜と脳脊髄液」、「脳・脳幹・小脳」などを講義・演習・実習する。                                                                          |    |
|                                      |         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                            |                                      | 解剖学・演習Ⅱ | 【目的】解剖学演習は解剖学・総論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、解剖学・各論Ⅰ、Ⅱで学修した知識を、標本もしくは人体で確認し、構造的、機能的に結合した理解を得ることが目的である。局所臨床解剖学的にとらえて、理解し、説明することも重要。これにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】医学、歯学の大学で人体解剖学の見学・演習・実習を行う。生体で体表から同定しうる構造についての触診、体表への投影、画像の解析などについても学ぶ。リハビリテーションの現場のように、他人に説明することで理解を深める。<br>本科目は主として、「骨学実習」、「関節・終脳」、「脳神経」などを講義・演習・実習する。                                                                                    |    |
|                                      | 生理学Ⅰ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「生理学概説」、「血液の成分とその働き」、「心臓循環系」などを講義する。                                                                                   | 変更なし。                                                      |                                      | 生理学Ⅰ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「生理学概説」、「血液の成分とその働き」、「心臓循環系」などを講義する。                                                                                   |    |
|                                      | 生理学Ⅱ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。                                                                        | 変更なし。                                                      |                                      | 生理学Ⅱ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「内分泌器官とホルモンの作用」、「筋肉とその収縮機構」などを講義する。                                                                        |    |
|                                      | 生理学Ⅲ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「呼吸機能」、「自律神経系と内臓神経系」、「消化と吸収」などを講義する。                                                                                   | 変更なし。                                                      |                                      | 生理学Ⅲ    | 【目的】生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで発現するかを考えるのが生理学である。正常な生体機能を維持するための、呼吸機能、循環機能、消化吸収機能、排泄機能、生殖機能、これらを調節する自律神経系と内分泌系の働きを学修する。さらに、感覚機能、運動機能、それらを統合する神経系の働きの基本的知識を修得する。これにより、心身機能と身体構造を理解する。<br>【方法】時間ごとに「身近に起こる生理的事象がなぜ生じるのか」を提示して、学生に考えさせ、発言を求めながら授業を展開する。<br>本科目は主として、「呼吸機能」、「自律神経系と内臓神経系」、「消化と吸収」などを講義する。                                                                                   |    |
|                                      | 生理学実習   | 【目的】生理学実習では生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび神経生理学Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深めることを目標とする。生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を修得する。これにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】皮膚感覚や味覚などの実習は各自が体験し確認する。また、筋電図や心電図などの記録と解析を行う。                                                                                                                                 | 時間数変更(30時間より45時間)                                          |                                      | 生理学実習   | 【目的】生理学実習では生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲおよび神経生理学Ⅰ、Ⅱで学んだ知識を実習によって体験し、人体の多様な機能と調節機構について理解を深めることを目標とする。生体機能を科学的視点で捉える能力を高めるために、生理学の講義で習得した知識と実際に生体で起こる現象を包括的に融合させる。また、基本的な臨床検査の解釈に必要な基礎的知識を修得する。これにより、心身機能と身体構造の理解を深める。<br>【方法】皮膚感覚や味覚などの実習は各自が体験し確認する。また、筋電図や心電図などの記録と解析を行う。                                                                                                                                 |    |
|                                      | 神経生理学Ⅰ  | 【目的】生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で神経生理学は特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の機能から始まり、情報伝達のKey Playerである活動電位の発生メカニズムを理解し、情報の伝達手法また体性感覚・特殊感覚系などにおける情報伝達の入り口における基本的事項を理解する。また、学習・記憶・意識・情動などの高次脳機能について学ぶ。<br>【方法】生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。<br>本科目は主として、「細胞の構造と基本機能」、「活動電位の発生」、「情報伝達機構」などを講義する。 | 変更なし。                                                      |                                      | 神経生理学Ⅰ  | 【目的】生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で神経生理学は特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の機能から始まり、情報伝達のKey Playerである活動電位の発生メカニズムを理解し、情報の伝達手法また体性感覚・特殊感覚系などにおける情報伝達の入り口における基本的事項を理解する。また、学習・記憶・意識・情動などの高次脳機能について学ぶ。<br>【方法】生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。<br>本科目は主として、「細胞の構造と基本機能」、「活動電位の発生」、「情報伝達機構」などを講義する。 |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |       |  | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |    |  |
|--------------------------------------|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|--|--------------------------------------|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称  | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 備考    |  | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称  | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 備考 |  |
|                                      | 神経生理学Ⅱ   | <p>【目的】生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で神経生理学は特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の機能から始まり、情報伝達のkey Playerである活動電位の発生メカニズムを理解し、情報の伝達手法また体性感覚・特殊感覚などにおける情報伝達の入り口における基本的事項を理解する。また、学習・記憶・意識・情動などの高次脳機能について学ぶ。</p> <p>【方法】生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。本科目は主として、「感覚総論」、「特殊感覚受容機構」、「体性感覚受容機構」、「脳幹・小脳・大脳基底核の運動制御機構」などを講義する。</p> | 変更なし。 |  |                                      | 神経生理学Ⅱ   | <p>【目的】生理学は生命現象のメカニズムを解明する学問であり、その中で神経生理学は特に神経系が関与する生体機能について学習する。講義では、細胞の機能から始まり、情報伝達のkey Playerである活動電位の発生メカニズムを理解し、情報の伝達手法また体性感覚・特殊感覚などにおける情報伝達の入り口における基本的事項を理解する。また、学習・記憶・意識・情動などの高次脳機能について学ぶ。</p> <p>【方法】生体機能の円滑な遂行の基本となる神経機構の存在と背景にある細胞環境を中心としてパソコンを用いたプレゼンテーションと動画などを交えて授業を展開する。受講者には、能動的な講義参加を促すように講義プリントを配布し、プリントに必要な項目や図を記入させる。本科目は主として、「感覚総論」、「特殊感覚受容機構」、「体性感覚受容機構」、「脳幹・小脳・大脳基底核の運動制御機構」などを講義する。</p> |    |  |
|                                      | 病理学概論    | <p>【目的】医療では予防、診断、治療、リハビリテーションが重要であるが、病気の原因は診断に不可欠である。この診断に欠かせないのが病理学であり、細胞をつないでいる組織を診断する組織診および細胞診、病理解剖から成り立っている。したがって、病理学は、体内の異常を調べ、病気の原因および病気になる機序を研究する学問であり、これらを概論的に学ぶ。</p> <p>【方法】教科書を使用し、特にリハビリテーションの対象となる疾患については踏み込んで学修する。</p>                                                                                                                                                                           | 変更なし。 |  |                                      | 病理学概論    | <p>【目的】医療では予防、診断、治療、リハビリテーションが重要であるが、病気の原因は診断に不可欠である。この診断に欠かせないのが病理学であり、細胞をつないでいる組織を診断する組織診および細胞診、病理解剖から成り立っている。したがって、病理学は、体内の異常を調べ、病気の原因および病気になる機序を研究する学問であり、これらを概論的に学ぶ。</p> <p>【方法】教科書を使用し、特にリハビリテーションの対象となる疾患については踏み込んで学修する。</p>                                                                                                                                                                           |    |  |
|                                      | 医学概論     | <p>【目的】リハビリテーション分野だけでなく、医学及び医療に携わる専門職人として、医の本質や医の倫理について理解を深め、幅広い視野をもった医療従事者としての基礎知識や倫理観を身につける。</p> <p>【方法】健康の概念や、疾病・障害の概念を中心に、医学の発展や将来などについて、講義を行う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       | 変更なし。 |  |                                      | 医学概論     | <p>【目的】リハビリテーション分野だけでなく、医学及び医療に携わる専門職人として、医の本質や医の倫理について理解を深め、幅広い視野をもった医療従事者としての基礎知識や倫理観を身につける。</p> <p>【方法】健康の概念や、疾病・障害の概念を中心に、医学の発展や将来などについて、講義を行う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                       |    |  |
| 臨床<br>医学                             | 公衆衛生学Ⅰ   | <p>【目的】公衆衛生学とは、人の集団を対象として、疾病を予防し、生命を延長し、身体的精神的能率を増進させる技術及び科学である。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや、具体的な健康の保持増進と疾病の予防方法を学習する。</p> <p>【方法】公衆衛生学の基礎となる集団の健康水準の測定や評価の方法、疾病の危険因子を解明する方法、多様な危険因子に対する予防対策の方法等を学ぶ。</p> <p>本科目は主として、「衛生学と公衆衛生学」、「健康問題の変遷」、「保健統計」などを講義する。</p>                                                                                                                                  | 変更なし。 |  | 臨床<br>医学                             | 公衆衛生学Ⅰ   | <p>【目的】公衆衛生学とは、人の集団を対象として、疾病を予防し、生命を延長し、身体的精神的能率を増進させる技術及び科学である。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや、具体的な健康の保持増進と疾病の予防方法を学習する。</p> <p>【方法】公衆衛生学の基礎となる集団の健康水準の測定や評価の方法、疾病の危険因子を解明する方法、多様な危険因子に対する予防対策の方法等を学ぶ。</p> <p>本科目は主として、「衛生学と公衆衛生学」、「健康問題の変遷」、「保健統計」などを講義する。</p>                                                                                                                                  |    |  |
|                                      | 公衆衛生学Ⅱ   | <p>【目的】公衆衛生学とは、人の集団を対象として、疾病を予防し、生命を延長し、身体的精神的能率を増進させる技術及び科学である。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや、具体的な健康の保持増進と疾病の予防方法を学習する。</p> <p>【方法】公衆衛生学の基礎となる集団の健康水準の測定や評価の方法、疾病の危険因子を解明する方法、多様な危険因子に対する予防対策の方法等を学ぶ。</p> <p>本科目は主として、「疫学」、「疾病予防」、「健康管理」などを講義する。</p>                                                                                                                                            | 変更なし。 |  |                                      | 公衆衛生学Ⅱ   | <p>【目的】公衆衛生学とは、人の集団を対象として、疾病を予防し、生命を延長し、身体的精神的能率を増進させる技術及び科学である。公衆衛生学を学ぶことで、社会医学の考え方を学び、社会現象としての健康や疾病の成り立ちや、具体的な健康の保持増進と疾病の予防方法を学習する。</p> <p>【方法】公衆衛生学の基礎となる集団の健康水準の測定や評価の方法、疾病の危険因子を解明する方法、多様な危険因子に対する予防対策の方法等を学ぶ。</p> <p>本科目は主として、「疫学」、「疾病予防」、「健康管理」などを講義する。</p>                                                                                                                                            |    |  |
|                                      | 臨床心理学概論Ⅰ | <p>【目的】臨床心理学に関する基礎的な概念として、①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論などを理解し、患者がおかれた心理・精神面の特徴と心理的支援のありかたを学修する。</p> <p>【方法】心理・精神面に影響する典型的な問題を取り上げ、その臨床心理学的評価や介入方法に触れる。将来のリハビリテーション現場では、心理的な問題を抱える患者に関わることも多いはずである。その際、患者の心理状態を適切に評価し心理的に援助するための知識を習得する。本科目は主として、「臨床心理学とは何か」、「精神疾患との関連と支援」などを講義する。</p>                                                                                                                             | 変更なし。 |  |                                      | 臨床心理学概論Ⅰ | <p>【目的】臨床心理学に関する基礎的な概念として、①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論などを理解し、患者がおかれた心理・精神面の特徴と心理的支援のありかたを学修する。</p> <p>【方法】心理・精神面に影響する典型的な問題を取り上げ、その臨床心理学的評価や介入方法に触れる。将来のリハビリテーション現場では、心理的な問題を抱える患者に関わることも多いはずである。その際、患者の心理状態を適切に評価し心理的に援助するための知識を習得する。本科目は主として、「臨床心理学とは何か」、「精神疾患との関連と支援」などを講義する。</p>                                                                                                                             |    |  |
|                                      | 臨床心理学概論Ⅱ | <p>【目的】臨床心理学に関する基礎的な概念として、①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論などを理解し、患者がおかれた心理・精神面の特徴と心理的支援のありかたを学修する。</p> <p>【方法】心理・精神面に影響する典型的な問題を取り上げ、その臨床心理学的評価や介入方法に触れる。将来のリハビリテーション現場では、心理的な問題を抱える患者に関わることも多いはずである。その際、患者の心理状態を適切に評価し心理的に援助するための知識を習得する。本科目は主として、「臨床心理学的リハビリテーション」、「臨床心理学的アセスメント」、「臨床心理学的介入」などを講義する。</p>                                                                                                           | 変更なし。 |  |                                      | 臨床心理学概論Ⅱ | <p>【目的】臨床心理学に関する基礎的な概念として、①臨床心理学の成り立ち、②臨床心理学の代表的な理論などを理解し、患者がおかれた心理・精神面の特徴と心理的支援のありかたを学修する。</p> <p>【方法】心理・精神面に影響する典型的な問題を取り上げ、その臨床心理学的評価や介入方法に触れる。将来のリハビリテーション現場では、心理的な問題を抱える患者に関わることも多いはずである。その際、患者の心理状態を適切に評価し心理的に援助するための知識を習得する。本科目は主として、「臨床心理学的リハビリテーション」、「臨床心理学的アセスメント」、「臨床心理学的介入」などを講義する。</p>                                                                                                           |    |  |
|                                      | 発達心理学Ⅰ   | <p>【目的】近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因（生物・心理的要因）と外的要因（社会・文化的要因）について考察し、適切な対処法を習得する。本科目は主として、「生涯発達心理学の基礎」、「胎児期・乳児期～青年期中期」などを講義する。</p>                                                       | 変更なし。 |  |                                      | 発達心理学Ⅰ   | <p>【目的】近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因（生物・心理的要因）と外的要因（社会・文化的要因）について考察し、適切な対処法を習得する。本科目は主として、「発達心理学の基礎」、「胎児期・乳児期～青年期中期」などを講義する。</p>                                                         |    |  |
|                                      | 発達心理学Ⅱ   | <p>【目的】近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因（生物・心理的要因）と外的要因（社会・文化的要因）について考察し、適切な対処法を習得する。本科目は主として、「青年期後期～成人後期後期」を講義する。</p>                                                                       | 変更なし。 |  |                                      | 発達心理学Ⅱ   | <p>【目的】近年、年齢を積み重ねることの重要性が、多くの領域で科学的に明らかにされている。本講義では、①認知機能の発達及び社会性の発達、②自己と他者の関係の在り方と心理的発達、③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達、④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方、⑤高齢者の心理などについて、心理学の知見に基づいた発達の過程を学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】講義が中心である。誕生から死に至るまでの各過程で発生しやすい心理的危機や障害に触れ、それらに影響する内的要因（生物・心理的要因）と外的要因（社会・文化的要因）について考察し、適切な対処法を習得する。本科目は主として、「青年期後期～成人後期後期」を講義する。</p>                                                                       |    |  |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                       | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |    |
|--------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------|-------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称     | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 備考                                    | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称     | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 備考 |
|                                      | 内科学Ⅰ        | <p>【目的】基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。これらにより、心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害を理解する。また、がんや難病など、リハビリテーションや心理面への支援が必要な疾病について理解する。</p> <p>【方法】各疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎・泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に関与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。</p> <p>本科目は主として、「循環系の疾患」、「呼吸系の疾患」、「消化系の疾患」などについて講義する。</p>                                         | 変更なし。                                 |                                      | 内科学Ⅰ        | <p>【目的】基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。これらにより、心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害を理解する。また、がんや難病など、リハビリテーションや心理面への支援が必要な疾病について理解する。</p> <p>【方法】各疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎・泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に関与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。</p> <p>本科目は主として、「循環系の疾患」、「呼吸系の疾患」、「消化系の疾患」などについて講義する。</p>                            |    |
|                                      | 内科学Ⅱ        | <p>【目的】基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。これらにより、心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害を理解する。また、がんや難病など、リハビリテーションや心理面への支援が必要な疾病について理解する。</p> <p>【方法】各疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎・泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に関与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。</p> <p>本科目は主として、「出血と止血」、「糖尿病」、「腎炎」などについて講義する。</p>                                                 | 変更なし。                                 |                                      | 内科学Ⅱ        | <p>【目的】基本的な内科学を講義する。総論として疾病の概念、診断学の基礎、加齢により生ずる変化の理解を目的とする。これらにより、心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害を理解する。また、がんや難病など、リハビリテーションや心理面への支援が必要な疾病について理解する。</p> <p>【方法】各疾患の病態、診断法、治療法の概略の理解なども加味して行う。リハビリテーション医療では、循環器、呼吸器、代謝、内分泌、神経、血液、腎・泌尿器、老年期疾患などが直接的あるいは間接的に運動障害に関与する場合も多く、これらの病因や病態、治療や予後について学修する。</p> <p>本科目は主として、「出血と止血」、「糖尿病」、「腎炎」などについて講義する。</p>                                    |    |
|                                      | 整形外科Ⅰ       | <p>【目的】整形外科領域における病態、臨床症状、診断、治療などについて学修することを目的とする。</p> <p>【方法】身体の姿勢および運動器に関する臨床医学であり、小児整形外科、脊椎・脊髄外科、関節外科、骨折・外傷の外科、手の外科、骨・軟部腫瘍学といった各分野の中で、リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について講義を行う。</p> <p>本科目は主として、「整形外科の基礎科学」、「整形外科診断総論」などを講義する。</p>                                                                                                                                                             | 変更なし。                                 |                                      | 整形外科Ⅰ       | <p>【目的】整形外科領域における病態、臨床症状、診断、治療などについて学修することを目的とする。</p> <p>【方法】身体の姿勢および運動器に関する臨床医学であり、小児整形外科、脊椎・脊髄外科、関節外科、骨折・外傷の外科、手の外科、骨・軟部腫瘍学といった各分野の中で、リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について講義を行う。</p> <p>本科目は主として、「整形外科の基礎科学」、「整形外科診断総論」などを講義する。</p>                                                                                                                                                |    |
|                                      | 整形外科Ⅱ       | <p>【目的】整形外科領域における病態、臨床症状、診断、治療などについて学修することを目的とする。</p> <p>【方法】身体の姿勢および運動器に関する臨床医学であり、小児整形外科、脊椎・脊髄外科、関節外科、骨折・外傷の外科、手の外科、骨・軟部腫瘍学といった各分野の中で、リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について講義を行う。</p> <p>本科目は主として、「先天性骨系統疾患」、「整形外科疾患各論」、「整形外科外傷学」、「スポーツと整形外科」などを講義する。<b>「医用画像の基礎」</b>の内容を含む。</p>                                                                                                                 | 内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため「医用画像の基礎」の内容を含む。 |                                      | 整形外科Ⅱ       | <p>【目的】整形外科領域における病態、臨床症状、診断、治療などについて学修することを目的とする。</p> <p>【方法】身体の姿勢および運動器に関する臨床医学であり、小児整形外科、脊椎・脊髄外科、関節外科、骨折・外傷の外科、手の外科、骨・軟部腫瘍学といった各分野の中で、リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について講義を行う。</p> <p>本科目は主として、「先天性骨系統疾患」、「整形外科疾患各論」、「整形外科外傷学」、「スポーツと整形外科」などを講義する。</p>                                                                                                                           |    |
|                                      | 臨床神経学Ⅰ      | <p>【目的】リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる。その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠である。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】神経内科や脳神経外科で扱われる神経疾患を中心に、その病態について学習し、疾患理解を深める。有病率が高い神経疾患（脳血管障害、脳外傷、脳腫瘍、神経変性疾患、てんかん・頭痛などの機能性疾患、認知症、筋疾患、末梢神経疾患）、などについて重点的に講義する。理解に必要な神経解剖、神経生理や検査法については各疾患毎に補足する。</p> <p>本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「脳動脈と脳血管障害」、「脳卒中急性期と後遺症」などを講義する。</p>              | 変更なし。                                 |                                      | 臨床神経学Ⅰ      | <p>【目的】リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる。その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠である。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】神経内科や脳神経外科で扱われる神経疾患を中心に、その病態について学習し、疾患理解を深める。有病率が高い神経疾患（脳血管障害、脳外傷、脳腫瘍、神経変性疾患、てんかん・頭痛などの機能性疾患、認知症、筋疾患、末梢神経疾患）、などについて重点的に講義する。理解に必要な神経解剖、神経生理や検査法については各疾患毎に補足する。</p> <p>本科目は主として、「神経系の構造と機能」、「脳動脈と脳血管障害」、「脳卒中急性期と後遺症」などを講義する。</p> |    |
|                                      | 臨床神経学Ⅱ      | <p>【目的】リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる。その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠である。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】神経内科や脳神経外科で扱われる神経疾患を中心に、その病態について学習し、疾患理解を深める。有病率が高い神経疾患（脳血管障害、脳外傷、脳腫瘍、神経変性疾患、てんかん・頭痛などの機能性疾患、認知症、筋疾患、末梢神経疾患）、などについて重点的に講義する。理解に必要な神経解剖、神経生理や検査法については各疾患毎に補足する。</p> <p>本科目は主として、「神経変性疾患」、「認知症」、「頭部外傷と意識障害」などを講義する。<b>「医用画像の基礎」</b>の内容を含む。</p> | 内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため「医用画像の基礎」の内容を含む。 |                                      | 臨床神経学Ⅱ      | <p>【目的】リハビリテーションの対象となる疾患の中には神経系の疾患が多く含まれる。その障害を理解し適切に対処するためには臨床神経学の基礎知識は不可欠である。各神経疾患の病態生理、各種検査所見、治療、予後などの臨床神経学の視点から学ぶことを目的とする。</p> <p>【方法】神経内科や脳神経外科で扱われる神経疾患を中心に、その病態について学習し、疾患理解を深める。有病率が高い神経疾患（脳血管障害、脳外傷、脳腫瘍、神経変性疾患、てんかん・頭痛などの機能性疾患、認知症、筋疾患、末梢神経疾患）、などについて重点的に講義する。理解に必要な神経解剖、神経生理や検査法については各疾患毎に補足する。</p> <p>本科目は主として、「神経変性疾患」、「認知症」、「頭部外傷と意識障害」などを講義する。</p>           |    |
|                                      | 小児科学        | <p>【目的】小児と関わるためには「子どもは絶えず成長するという特性を持つ」ということ、その成長の途中で起きる問題に対して、生活の質を考慮しながら成長を援助していく」という視点が重要である。正常児の発育・発達を基礎として、小児の疾患や障害、難病、心の問題や母子保健・教育に至るまで、多角的に考える知識と技術を習得することを目的とする。</p> <p>【方法】正常児の発育・発達について基礎知識を事例や実演を交えながら学ぶ。小児の疾患や障害を系統的に学び、幅広い基礎的知識を得る。また、子ども特有の精神・社会・保健等の視点を学ぶ。</p>                                                                                                           | 変更なし。                                 |                                      | 小児科学        | <p>【目的】小児と関わるためには「子どもは絶えず成長するという特性を持つ」ということ、その成長の途中で起きる問題に対して、生活の質を考慮しながら成長を援助していく」という視点が重要である。正常児の発育・発達を基礎として、小児の疾患や障害、難病、心の問題や母子保健・教育に至るまで、多角的に考える知識と技術を習得することを目的とする。</p> <p>【方法】正常児の発育・発達について基礎知識を事例や実演を交えながら学ぶ。小児の疾患や障害を系統的に学び、幅広い基礎的知識を得る。また、子ども特有の精神・社会・保健等の視点を学ぶ。</p>                                                                                              |    |
|                                      | 精神疾患とその治療   | <p>【目的】①精神疾患総論として代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援、②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、③医療機関との連携などについて学修する。さらには、リエゾン等を含み広くリハビリテーション分野での精神医学的アプローチを実践的に学ぶ。</p> <p>【方法】疾患別の講義のほか、社会・司法に関する事例も豊富に取り上げることにより、自己を分析し、客観的に深く物事を捉えることのできる能力を鍛え、治療者としての技術の向上を目指す。また治療における、精神分析や芸術療法などの技法も修得する。</p>                                                                                                    | 変更なし。                                 |                                      | 精神疾患とその治療   | <p>【目的】①精神疾患総論として代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援、②向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化、③医療機関との連携などについて学修する。さらには、リエゾン等を含み広くリハビリテーション分野での精神医学的アプローチを実践的に学ぶ。</p> <p>【方法】疾患別の講義のほか、社会・司法に関する事例も豊富に取り上げることにより、自己を分析し、客観的に深く物事を捉えることのできる能力を鍛え、治療者としての技術の向上を目指す。また治療における、精神分析や芸術療法などの技法も修得する。</p>                                                                                       |    |
|                                      | リハビリテーション工学 | <p>【目的】リハビリテーションでは日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、リハビリテーション医療を提供していく必要がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。</p> <p>【方法】介護の実践、福祉機器について紹介を行いつつ、工学の視点から理学療法・作業療法について理解を深める講義を行う。</p>                                                                                                                                                          | 変更なし。                                 |                                      | リハビリテーション工学 | <p>【目的】リハビリテーションでは日常生活における患者の姿勢や安全性、効率の良い運動を考慮し、リハビリテーション医療を提供していく必要がある。リハビリテーション工学では人の姿勢や運動を理解し、介護技術や福祉機器の原理、使用方法を修得し、さらに工学の視点で評価・分析する方法を学修することを目的とする。</p> <p>【方法】介護の実践、福祉機器について紹介を行いつつ、工学の視点から理学療法・作業療法について理解を深める講義を行う。</p>                                                                                                                                             |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                                                                                            | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |    |
|--------------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称      | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 備考                                                                                                         | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称      | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 備考 |
|                                      | リハビリテーション医学  | 【目的】リハビリテーション医学が対象とする疾患として、脳血管障害、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についてそれらを理解し、リハビリテーション治療技術を体得し実践できるようになることを目標とする。<br>【方法】脳血管障害、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についての講義を通してリハビリテーション専門職として必要なリハビリテーション医学の基礎知識を学ぶ。また治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、診断、治療等を学ぶ。                                                                                   | 変更なし。                                                                                                      |                                      | リハビリテーション医学  | 【目的】リハビリテーション医学が対象とする疾患として、脳血管障害、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についてそれらを理解し、リハビリテーション治療技術を体得し実践できるようになることを目標とする。<br>【方法】脳血管障害、頭部外傷、脊髄損傷、脳性麻痺、変性疾患、切断等についての講義を通してリハビリテーション専門職として必要なリハビリテーション医学の基礎知識を学ぶ。また治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学的な考え方、診断、治療等を学ぶ。                                                                                   |    |
|                                      | 救急救命医学       | 【目的】この科目では救急救命医学の基礎知識を学ぶことを目的とする。リハビリテーションでは、心疾患患者など生命にかかわるようなリスクを抱えながら進めることになる。また、脳血管リハビリテーションでは脳卒中等の急性期管理などの危険を伴う。医療事故の発生防止対策及び医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につける。<br>【方法】緊急時の場合にはどうすれば安全に援助できるかを事例に基づいてその概念を習得して事故防止に努めるとともに、実際に救急時の対応方法を習得できるように進める。                                                      | 旧科目「医療安全管理学」より名称変更。内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため「救急救命の基礎」に対して、本科目で対応する。                                            |                                      | 医療安全管理学      | 【目的】リハビリテーションでは、心疾患患者など生命にかかわるようなリスクを抱えながら進めることになる。また、脳血管リハビリテーションでは脳卒中等の急性期管理などの危険を伴う。医療事故の発生防止対策及び医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につける。<br>【方法】緊急時の場合にはどうすれば安全に援助できるかを事例に基づいてその概念を習得して事故防止に努めるとともに、実際に救急時の対応方法を習得できるように進める。                                                                                   |    |
|                                      | 薬理学          | 【目的】リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。<br>【方法】教科書を中心に、リハビリテーションに関わる内容を中心に講義を行う。                                                                                                 | リハビリテーション関連分野より移行(新指定規則では「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」に分類されるため臨床医学へ移行)・内容変更なし。新指定規則の要件を満たすため、「薬理の基礎」に対して、本科目で対応する。 |                                      |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |    |
|                                      | 栄養学          | 【目的】従来、栄養学では食品を対象として、その栄養素及び物性等が、どのように体内で消化・吸収されているのかが研究されてきた。しかし、近年、食品を摂取する生体の機能面からも盛んに研究されている。本講義を通じて、栄養摂取は単に生命維持のためではなく、QOLに大きな影響を及ぼしていることを理解することを目的とする。<br>【方法】講義が中心となる。栄養を食品面と生体面の双方から概観する。特に、医療及びリハビリテーションに関連して、栄養管理法も学んでいく。経口摂取による良好な栄養状態が、リハビリテーション効果を促進させる等の実例に触れながら、口から栄養がとれなくなった場合の基本的対処法も習得していく。              | リハビリテーション関連分野より移行(新指定規則では「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」に分類されるため臨床医学へ移行)・内容変更なし。新指定規則の要件を満たすため、「栄養の基礎」に対して、本科目で対応する。 |                                      |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |    |
|                                      | 感染症学         | 【目的】数々の抗生物質やワクチンの登場以来、「感染症」は終わったとの見方が医療関係者や研究者の間で大勢を占めつつあった。そんな時に病原大腸菌O-157 が襲ってきた。忘れつつあった細菌の襲来である。感染症、それはヒトが生きている限り、他の生物との関わりの世界で、避けられない環境の中で起こる1つの現象である。学問としての内容は古典的な面は多くあるが、忘れてはいけない微生物科学の一分野である。そのため、感染予防策を伝染病という観点からも眺める。<br>【方法】本講座においては、他の生物との兼ね合いを考えながら、解剖生理学、免疫学、疫学等を背景にし、広い視点から学習をすすめ、リハビリテーション現場での具体的な問題を考察する。 | 変更なし。                                                                                                      |                                      | 感染症学         | 【目的】数々の抗生物質やワクチンの登場以来、「感染症」は終わったとの見方が医療関係者や研究者の間で大勢を占めつつあった。そんな時に病原大腸菌O-157 が襲ってきた。忘れつつあった細菌の襲来である。感染症、それはヒトが生きている限り、他の生物との関わりの世界で、避けられない環境の中で起こる1つの現象である。学問としての内容は古典的な面は多くあるが、忘れてはいけない微生物科学の一分野である。そのため、感染予防策を伝染病という観点からも眺める。<br>【方法】本講座においては、他の生物との兼ね合いを考えながら、解剖生理学、免疫学、疫学等を背景にし、広い視点から学習をすすめ、リハビリテーション現場での具体的な問題を考察する。 |    |
| 社会福祉                                 | リハビリテーション概論  | 【目的】保健・医療・福祉を中心に、今日のリハビリテーションに関わるさまざまな問題を体系的に学べるように進めて行き、介護保険法の一部改正、障害者自立支援法の成立、就労支援・学校教育法の改正など包括的に理解することを目的とする。<br>【方法】テキストを用いて、体系的に学ぶよう講義を進める。特に、「リハビリテーションとは何か」その本質にふれ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ってもらうことを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史の変遷、障害がいてと障がいのレベル、機能障害の測定・評価法など実例を提示して進める。                                                | 内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため、「自立支援、就労支援の理解」に対して、本科目で対応する。                                                         | 社会福祉                                 | リハビリテーション概論  | 【目的】保健・医療・福祉を中心に、今日のリハビリテーションに関わるさまざまな問題を体系的に学べるように進めて行き、介護保険法の一部改正、障害者自立支援法の成立、学校教育法の改正など包括的に理解することを目的とする。<br>【方法】テキストを用いて、体系的に学ぶよう講義を進める。特に、「リハビリテーションとは何か」その本質にふれ、現在のリハビリテーションの仕組みを正しく知ってもらうことを第一のテーマとして、リハビリテーションの理念、歴史の変遷、障害者と障害のレベル、機能障害の測定・評価法など実例を提示して進める。                                                        |    |
|                                      | 社会保障論        | 【目的】本邦において社会保障制度は医療制度と並んで一生涯をカバーするセーフティネットの役割を果たしている。社会保障の概念や対象及びその理念等について現代社会の課題と関連させながら理解することを目的とする。<br>【方法】講義を中心とするが、必要に応じて映像資料を併用する。改正案等が出される場合が多いので、新聞記事も併用する。                                                                                                                                                       | 新指定規則の要件を満たすため、「社会保障論の理解」に対して、本科目で対応する。                                                                    |                                      | 社会保障論        | 【目的】本邦において社会保障制度は医療制度と並んで一生涯をカバーするセーフティネットの役割を果たしている。社会保障の概念や対象及びその理念等について現代社会の課題と関連させながら理解することを目的とする。<br>【方法】講義を中心とするが、必要に応じて映像資料を併用する。改正案等が出される場合が多いので、新聞記事も併用する。                                                                                                                                                       |    |
|                                      | 公的扶助論        | 【目的】低所得層の生活実態と社会的背景を学ぶ。また、生活保護制度や関連する他制度を学ぶ。低所得問題を抱える対象者やその社会的原因について考察することを通じて、専門職としての社会的役割や倫理的価値観について理解を深める。<br>【方法】教科書や映像資料を用いた講義を行う。また、映像資料や実践事例等を用いて、個人ワーク・グループワークなどを行う。実際に地域で起こっている事例や各専門職の支援内容について紹介する。                                                                                                             | 変更なし。                                                                                                      |                                      | 公的扶助論        | 【目的】低所得層の生活実態と社会情勢、福祉需要について理解する。生活保護制度や関連する他制度について理解する。<br>【方法】教科書や配付資料を用いた講義を行う。その後、グループワークにて事例を用いて自立支援プログラムを立案する。                                                                                                                                                                                                       |    |
|                                      | 権利擁護と成年後見制度論 | 【目的】地域を基盤として行われる権利擁護の基本的視座を学ぶ。また、成年後見制度の制定背景・理念・仕組みについて学ぶとともに、高齢者虐待防止法等の周辺法律や専門職として知っておきたい権利擁護に関する社会資源について学ぶ。<br>【方法】教科書や映像資料を用いた講義を行う。また、映像資料や実践事例等を用いて、個人ワーク・グループワークなどを行う。実際に地域で起こっている事例や各専門職の支援内容について紹介する。                                                                                                             | 変更なし。                                                                                                      |                                      | 権利擁護と成年後見制度論 | 【目的】地域を基盤として行われる権利擁護の基本的視座を学ぶ。また、成年後見制度の制定背景・理念・仕組みについて学ぶとともに、高齢者虐待防止法等の周辺法律や専門職として知っておきたい権利擁護に関する社会資源について学ぶ。<br>【方法】教科書や映像資料を用いた講義を行う。また、映像資料や実践事例等を用いて、個人ワーク・グループワークなどを行う。実際に地域で起こっている事例や各専門職の支援内容について紹介する。                                                                                                             |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                      | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |    |
|--------------------------------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 備考                                                                   | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 備考 |
| リハ<br>ピリ<br>関<br>連<br>科<br>目         | 地域包括ケア論    | 【目的】地域包括ケアシステムの基礎理論及び地域福祉の実践と運営に必要な知識と方法論について理解することを目的とする。住民と専門職の協働による地域福祉の展開方法、連携の意義、地域包括ケアシステム、介護・医療連携について学ぶ。<br>【方法】教科書、映像資料等を用いて、地域包括ケアシステムの基本的理念や方法について講義を行う。また、地域づくりの実践事例を紹介し、住民・福祉職・医療職が協働して地域づくりを行うことの意義と方法を学ぶ。                                                                                                                         | 旧科目「地域福祉論」より名称変更。内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため、「地域包括ケアシステムの理解」に対して、本科目で対応する。 | リハ<br>ピリ<br>関<br>連<br>科<br>目         | 地域福祉論      | 【目的】地域福祉の基礎理論及び地域福祉の実践と運営に必要な知識と方法論について理解することを目的とする。住民と専門職の協働による地域福祉の展開方法、連携の意義、地域包括ケアシステム、介護・医療連携について学ぶ。<br>【方法】教科書、映像資料等を用いて、地域福祉の基本的理念や方法について講義を行う。また、地域づくりの実践事例を紹介し、住民・福祉職・医療職が協働して地域づくりを行うことの意義と方法を学ぶ。                                                                                                                                     |    |
|                                      | 福祉財政論      | 【目的】福祉財政の基本について学ぶ。国・都道府県・市町村の役割と関係、財源等を学び、社会福祉と財政がどのように関係にあるのかを学ぶとともに、現代日本が抱えている財政的問題について理解を深める。<br>【方法】教科書、配布資料を用いた講義を行う。「財政」は、学生にとって馴染みがない領域である点を踏まえ、基礎的な理解に重点をおいた講義を行う。「福祉」と「お金」の問題について、事例を用いながら説明を行う。                                                                                                                                       | 変更なし。                                                                |                                      | 福祉財政論      | 【目的】福祉財政の基本について学ぶ。国・都道府県・市町村の役割と関係、財源等を学び、社会福祉と財政がどのように関係にあるのかを学ぶとともに、現代日本が抱えている財政的問題について理解を深める。<br>【方法】教科書、配布資料を用いた講義を行う。「財政」は、学生にとって馴染みがない領域である点を踏まえ、基礎的な理解に重点をおいた講義を行う。「福祉」と「お金」の問題について、事例を用いながら説明を行う。                                                                                                                                       |    |
|                                      | 高次脳機能障害学概論 | 【目的】我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのか、などについて学ぶことを目的とする。<br>【方法】上記の高次脳機能およびその臨床像について、座学を中心に講義を進める。その中で、高次脳機能障害の抽出に使用する各種の検査器具等についても紹介する。                                                                                                                              | 内容変更なし。                                                              |                                      | 高次脳機能障害学概論 | 【目的】我々が過ごす日常生活の中で、言語や記憶、行為、認知さらに注意といった様々な高次脳機能が常に介在している。それらの高次脳機能とはどのような機能なのか、またそれらの機能が障害されると、日常生活にどのような影響を受けるのか、などについて学ぶことを目的とする。<br>【方法】上記の高次脳機能およびその臨床像について、座学を中心に講義を進める。その中で、高次脳機能障害の抽出に使用する各種の検査器具等についても紹介する。                                                                                                                              |    |
|                                      | 摂食・嚥下障害学概論 | 【目的】摂食・嚥下機能ととりわけ関係の深い顎口腔系の構造と機能を理解し、また、それらが障害された場合の病態像やリハビリテーションの基礎等を学ぶ。<br>【方法】正常な摂食・嚥下のメカニズムについて、解剖学的・生理学的な知識を身につける。さらに、それらの機能が障害された場合の病態、障害されるメカニズム、リハビリテーションの基礎等を学ぶ。また、摂食・嚥下障害の人たちに対して、リハビリテーションスタッフがどのように関わったらいいかを知る。                                                                                                                      | 変更なし。                                                                |                                      | 摂食・嚥下障害学概論 | 【目的】摂食・嚥下機能ととりわけ関係の深い顎口腔系の構造と機能を理解し、また、それらが障害された場合の病態像やリハビリテーションの基礎等を学ぶ。<br>【方法】正常な摂食・嚥下のメカニズムについて、解剖学的・生理学的な知識を身につける。さらに、それらの機能が障害された場合の病態、障害されるメカニズム、リハビリテーションの基礎等を学ぶ。また、摂食・嚥下障害の人たちに対して、リハビリテーションスタッフがどのように関わったらいいかを知る。                                                                                                                      |    |
|                                      | 基礎運動学Ⅰ     | 【目的】リハビリテーションを実施するために必要な、基本的用語や身体運動に関する分析方法を学ぶ。<br>【方法】グループワークを中心に、解剖学や生理学の知識を統合し、身体の構造や機能について学生相互の説明やデモンストレーションを用い、運動に関する考え方を共有する。                                                                                                                                                                                                             | 旧科目「基礎運動学概論」より名称変更。内容変更なし。                                           |                                      | 基礎運動学概論    | 【目的】リハビリテーションを実施するために必要な、基本的用語や身体運動に関する分析方法を学ぶ。<br>【方法】グループワークを中心に、解剖学や生理学の知識を統合し、身体の構造や機能について学生相互の説明やデモンストレーションを用い、運動に関する考え方を共有する。                                                                                                                                                                                                             |    |
|                                      | 基礎運動学Ⅱ     | 【目的】基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習についての確に説明でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。<br>【方法】教科書、資料を使用し、講義を中心に行う。本科目は主として、「四肢と体幹の運動」、「運動と動作の分析」、「体力と運動処方」などを講義する。                                                                                                                                                                | 旧科目「基礎運動学各論Ⅰ」より名称変更。内容変更なし。                                          |                                      | 基礎運動学各論Ⅰ   | 【目的】基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習についての確に説明でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。<br>【方法】教科書、資料を使用し、講義を中心に行う。本科目は主として、「四肢と体幹の運動」、「運動と動作の分析」、「体力と運動処方」などを講義する。                                                                                                                                                                |    |
|                                      | 基礎運動学Ⅲ     | 【目的】基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習についての確に説明でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。<br>【方法】教科書、資料を使用し、講義を中心に行う。本科目は主として、「姿勢（立位姿勢の異常）」、「歩行（異常歩行）」、「運動発達」などを講義する。                                                                                                                                                                | 旧科目「基礎運動学各論Ⅱ」より名称変更。内容変更なし。                                          |                                      | 基礎運動学各論Ⅱ   | 【目的】基礎運動学概論で習得した知識を、より臨床で活用できるように統合する。身体運動、運動処方、歩行・動作分析、運動発達、運動学習についての確に説明でき、理解を深められるよう学習することを目的とする。<br>【方法】教科書、資料を使用し、講義を中心に行う。本科目は主として、「姿勢（立位姿勢の異常）」、「歩行（異常歩行）」、「運動発達」などを講義する。                                                                                                                                                                |    |
|                                      | チーム医療学Ⅰ    | 【目的】リハビリテーション医療は多くの専門職がかかわるチーム医療であり、中核的技術である理学療法、作業療法、言語聴覚療法の連携の重要性はもろろんのこと、その他の多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要となる。この科目では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解することを目的とする。<br>【方法】実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。また、学生同士の討論、発表を重視する。                                                      | 新指定規則の要件を満たすため、「多職種連携の理解」に対して、本科目で対応する。                              |                                      | チーム医療学Ⅰ    | 【目的】リハビリテーション医療は多くの専門職がかかわるチーム医療であり、中核的技術である理学療法、作業療法、言語聴覚療法の連携の重要性はもろろんのこと、その他の多くの医療専門職との連携が不可欠である。さらに、医療専門職だけでなく、保健・医療・福祉領域の関連職種との連携が重要となる。この科目では、多くの関連専門職とその役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解することを目的とする。<br>【方法】実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義する。また、学生同士の討論、発表を重視する。                                                      |    |
|                                      | チーム医療学Ⅱ    | 【目的】対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもろろんであるが、さらに広く保健・医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。この科目では、「チーム医療学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、実際の事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようにすることを目的とする。<br>【方法】実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義し、それを基に討論する。模擬症例（仮想事例）を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。 | 新指定規則の要件を満たすため、「多職種連携の理解」に対して、本科目で対応する。                              |                                      | チーム医療学Ⅱ    | 【目的】対象者へのリハビリテーション・サービスを効果的に進めていくためには、医療専門職間の連携の重要性はもろろんであるが、さらに広く保健・医療・福祉領域の関連専門職との連携が不可欠である。この科目では、「チーム医療学Ⅰ」で学んだ内容をさらに発展させ、実際の事例を通して専門職間の連携の重要性について理解を深め、今後の臨床活動とのつながりを具体的にイメージできるようにすることを目的とする。<br>【方法】実際の現場でリハビリテーション専門職がどのように働き、どのように連携を取るのか、できるだけ具体的な事例を挙げながら講義し、それを基に討論する。模擬症例（仮想事例）を通して、専攻職業の役割と有効な専門職間連携についての考察を進めるので、学生同士の討論、発表を重視する。 |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |              |                                                                                                                                                                                                                                |                                              | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |           |
|--------------------------------------|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|--------------------------------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称      | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                         | 備考                                           | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称  | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 備考        |
|                                      | 予防リハビリテーション学 | <p>【目的】健康で生き生きとした生活を支援することを目標に、医療従事者が必要とする以下の疾病予防の3層について学ぶ。<br/>①日常生活を送る上で介護が必要な状態に陥ることを予防すること。<br/>②要介護状態にある方の場合には介護状態が重度化していくことを予防すること。<br/>③再び要介護状態に陥ることのないように再発予防を行うこと。</p> <p>【方法】予防リハビリテーションの基礎知識と具体的対処方法を講義を通して学ぶ。。</p> | 新設科目、新指定規則の要件を満たすため、「予防の基礎の必須化」に対し、本科目で対応する。 |                                      |          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |           |
|                                      | 老年心理学        | <p>【目的】一般に老年期は否定的なイメージで理解されるが、人間を生涯発達する存在としたなかでは発達の最終段階に相当する。高齢期りのハビリエーションを促進するため、加齢による身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年期特有の課題や認知症などについて学修する。</p> <p>【方法】加齢による身体・認知機能やパーソナリティー、家族機能などの変化について、正常範囲にあるとされる老化を踏まえた上で疾病や障害を伴う老化を理解する。</p>       | 変更なし。                                        |                                      | 老年心理学    | <p>【目的】一般に老年期は否定的なイメージで理解されるが、人間を生涯発達する存在としたなかでは発達の最終段階に相当する。高齢期りのハビリエーションを促進するため、加齢による身体的・精神的・社会的変化を理解し、老年期特有の課題や認知症などについて学修する。</p> <p>【方法】加齢による身体・認知機能やパーソナリティー、家族機能などの変化について、正常範囲にあるとされる老化を踏まえた上で疾病や障害を伴う老化を理解する。</p>                                                                                                |           |
|                                      | 認知症          | <p>【目的】認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。</p> <p>【方法】座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。</p>                                                        | 変更なし。                                        |                                      | 認知症      | <p>【目的】認知症になる原因や、どのようなタイプの認知症があるのかを学び、さらに中核症状と周辺症状についても把握する。また、認知症者の心の問題や対応方法を学び、認知症に対する理解を深める。</p> <p>【方法】座学が中心であるが、時に映像による認知症の理解や、認知症者とその家族との関係などについても話し合う機会を設ける。</p>                                                                                                                                                 |           |
|                                      |              |                                                                                                                                                                                                                                |                                              |                                      | 薬理学      | <p>【目的】リハビリテーション分野において必要となる様々な病態、および健康状態における薬物作用の基礎知識を習得する。リハビリテーション分野において、必要となる薬理学の概念と知識を習得する。薬物の体内動態、薬物に影響を及ぼしうる要因、さらに薬物の副作用についての知識を習得する。授業内容に準じて知識を習得し、リハビリテーション医療に生かせる能力を身につける。</p> <p>【方法】教科書を中心に、リハビリテーションに関わる内容を中心に講義を行う。</p>                                                                                    | 臨床医学分野に移動 |
|                                      |              |                                                                                                                                                                                                                                |                                              |                                      | 生化学      | <p>【目的】生化学は生命現象を科学的に解釈する学問であり、生理学や分子生理学を含めた他の多くの学問の基礎的立場にあるため、リハビリテーション医療学に必須な生化学の基礎を修得する。</p> <p>【方法】本講義では、細胞とそれを構成する生体物質の構造と機能、生体物質の代謝とその調節、遺伝子の構造と発現調節について解説する。</p>                                                                                                                                                  | 廃止        |
|                                      |              |                                                                                                                                                                                                                                |                                              |                                      | 栄養学      | <p>【目的】従来、栄養学では食品を対象として、その栄養素及び物性等が、どのように体内で消化・吸収されているのかが研究されてきた。しかし、近年、食品を摂取する生体の機能面からも盛んに研究されている。本講義を通じて、栄養摂取は単に生命維持のためではなく、QOLに大きな影響を及ぼしていることを理解することを目的とする。</p> <p>【方法】講義が中心となる。栄養を食品面と生体面の双方から概観する。特に、医療及びリハビリテーションに関連して、栄養管理法も学んでいく。経口摂取による良好な栄養状態が、リハビリテーション効果を促進させる等の実例に触れながら、口から栄養がとれなくなった場合の基本的対処法も習得していく。</p> | 臨床医学分野に移動 |
|                                      |              |                                                                                                                                                                                                                                |                                              |                                      | 健康実践科学Ⅰ  | <p>【目的】生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などについて運動面・生活指導の概要について学ぶ。内容は病院や福祉施設などのメディカルスタッフと連携、メタボリック症候群の予防や生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢化をふまえた介護予防のための運動指導を専門的に学ぶ。</p> <p>【方法】講義を中心として基本的理論を学修する。本科目は主として、「健康づくり施策概論」、「運動生理学」、「栄養摂取と運動」などを講義する。</p>                                                                                               | 廃止        |
|                                      |              |                                                                                                                                                                                                                                |                                              |                                      | 健康実践科学Ⅱ  | <p>【目的】生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などについて運動面・生活指導の概要について学ぶ。内容は病院や福祉施設などのメディカルスタッフと連携、メタボリック症候群の予防や生活習慣病ハイリスク者への運動指導、少子高齢化をふまえた介護予防のための運動指導を専門的に学ぶ。</p> <p>【方法】講義を中心として基本的理論を学修する。本科目は主として、「体力の測定と評価」、「健康づくりと運動プログラム」、「健康づくり運動の実践」などを講義する。</p>                                                                                     | 廃止        |
|                                      |              |                                                                                                                                                                                                                                |                                              |                                      | 健康実践科学実習 | <p>【目的】生活習慣病予防や健康水準の維持・増進などを目的とした実習（健康管理指導、エアロビクスなどの運動プログラム、ストレッチング、体力測定など）を行い内容を理解する。</p> <p>【方法】「健康実践科学Ⅰ・Ⅱ」で学んだ理論を基に各種の運動プログラム・指導を体験し理解する。</p>                                                                                                                                                                        | 廃止        |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                           | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻)                |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                            |                                                                                                                                        |  |
|--------------------------------------|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称             | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 備考                                                                                                                                                        | 科目<br>区分                                            | 授業科目の名称   | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 備考                                                                                                                                         |                                                                                                                                        |  |
|                                      | 心理測定法Ⅰ              | 【目的】特にリハビリテーション臨床において必要となる、認知・情動・人格・各種機能などの測定・評価方法について、正確な測定・評価技術の習得のみでなく、その背後にある概念を理解し、測定の限界や評価が患者に与える影響をも理解し身につける。<br>【方法】認知や人格などを測定し評価する実証的な研究方法を概説するとともに、リハビリテーション臨床において有用な各種検査法を紹介し、可能な限り実際の検査に触れて評価の手順を体得する。検査者としてだけでなく、常に被検者の立場を理解しようとしながら学習する。<br>本科目は主として、「心理測定法とは」、「基礎的な心理統計」、「テスト理論」などを講義する。               | 変更なし。                                                                                                                                                     |                                                     | 心理測定法Ⅰ    | 【目的】特にリハビリテーション臨床において必要となる、認知・情動・人格・各種機能などの測定・評価方法について、正確な測定・評価技術の習得のみでなく、その背後にある概念を理解し、測定の限界や評価が患者に与える影響をも理解し身につける。<br>【方法】認知や人格などを測定し評価する実証的な研究方法を概説するとともに、リハビリテーション臨床において有用な各種検査法を紹介し、可能な限り実際の検査に触れて評価の手順を体得する。検査者としてだけでなく、常に被検者の立場を理解しようとしながら学習する。<br>本科目は主として、「心理測定法とは」、「基礎的な心理統計」、「テスト理論」などを講義する。               |                                                                                                                                            |                                                                                                                                        |  |
|                                      | 心理測定法Ⅱ              | 【目的】特にリハビリテーション臨床において必要となる、認知・情動・人格・各種機能などの測定・評価方法について、正確な測定・評価技術の習得のみでなく、その背後にある概念を理解し、測定の限界や評価が患者に与える影響をも理解し身につける。<br>【方法】認知や人格などを測定し評価する実証的な研究方法を概説するとともに、リハビリテーション臨床において有用な各種検査法を紹介し、可能な限り実際の検査に触れて評価の手順を体得する。検査者としてだけでなく、常に被検者の立場を理解しようとしながら学習する。<br>本科目は主として、「精神物理学的測定法」、「尺度構成法」などを講義する。                        | 変更なし。                                                                                                                                                     |                                                     | 心理測定法Ⅱ    | 【目的】特にリハビリテーション臨床において必要となる、認知・情動・人格・各種機能などの測定・評価方法について、正確な測定・評価技術の習得のみでなく、その背後にある概念を理解し、測定の限界や評価が患者に与える影響をも理解し身につける。<br>【方法】認知や人格などを測定し評価する実証的な研究方法を概説するとともに、リハビリテーション臨床において有用な各種検査法を紹介し、可能な限り実際の検査に触れて評価の手順を体得する。検査者としてだけでなく、常に被検者の立場を理解しようとしながら学習する。<br>本科目は主として、「精神物理学的測定法」、「尺度構成法」などを講義する。                        |                                                                                                                                            |                                                                                                                                        |  |
|                                      | 知覚・認知心理学Ⅰ           | 【目的】人間を一種の情報処理システムとして捉え、①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害などの認知心理学の基礎的知見を理解し修得することを目的とする。<br>【方法】講義では、まず、「視知覚」「記憶」「言語」などの心理学的な実験を通して明らかにされた人間の認知メカニズムについて概説する。さらに、認知の歪みから不適応を引き起こすとはどういうことなのか、記憶障害をもつ人にとってどのような支援ができるか、などのトピックを紹介し、臨床場面における認知心理学的研究の成果についても言及していく。<br>本科目は主として、「感覚」、「知覚・認知」などを講義する。                | 変更なし。                                                                                                                                                     |                                                     | 知覚・認知心理学Ⅰ | 【目的】人間を一種の情報処理システムとして捉え、①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害などの認知心理学の基礎的知見を理解し修得することを目的とする。<br>【方法】講義では、まず、「視知覚」「記憶」「言語」などの心理学的な実験を通して明らかにされた人間の認知メカニズムについて概説する。さらに、認知の歪みから不適応を引き起こすとはどういうことなのか、記憶障害をもつ人にとってどのような支援ができるか、などのトピックを紹介し、臨床場面における認知心理学的研究の成果についても言及していく。<br>本科目は主として、「感覚」、「知覚・認知」などを講義する。                |                                                                                                                                            |                                                                                                                                        |  |
|                                      | 知覚・認知心理学Ⅱ           | 【目的】人間を一種の情報処理システムとして捉え、①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害などの認知心理学の基礎的知見を理解し修得することを目的とする。<br>【方法】講義では、まず、「視知覚」「記憶」「言語」などの心理学的な実験を通して明らかにされた人間の認知メカニズムについて概説する。さらに、認知の歪みから不適応を引き起こすとはどういうことなのか、記憶障害をもつ人にとってどのような支援ができるか、などのトピックを紹介し、臨床場面における認知心理学的研究の成果についても言及していく。<br>本科目は主として、「記憶」、「思考」、「言語」などを講義する。              | 変更なし。                                                                                                                                                     |                                                     | 知覚・認知心理学Ⅱ | 【目的】人間を一種の情報処理システムとして捉え、①人の感覚・知覚等の機序及びその障害、②人の認知・思考等の機序及びその障害などの認知心理学の基礎的知見を理解し修得することを目的とする。<br>【方法】講義では、まず、「視知覚」「記憶」「言語」などの心理学的な実験を通して明らかにされた人間の認知メカニズムについて概説する。さらに、認知の歪みから不適応を引き起こすとはどういうことなのか、記憶障害をもつ人にとってどのような支援ができるか、などのトピックを紹介し、臨床場面における認知心理学的研究の成果についても言及していく。<br>本科目は主として、「記憶」、「思考」、「言語」などを講義する。              |                                                                                                                                            |                                                                                                                                        |  |
|                                      | 学習・言語心理学Ⅰ           | 【目的】人間の生涯において①人の行動が変化する過程、②言語の習得における機序などについて、心理学的な学習研究の基本的理論と基礎的知見について学ぶことを目的とする。<br>【方法】講義が中心となる。内容は、条件づけ、社会的学習、自律的学習、技能学習等である。行動の基盤に「学習」のメカニズムが機能していることを理解し、人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることが説明でき、さらに、将来の臨床現場における多くの問題に対して、学習心理学の理論を応用していくことができるよう、学習の原理を学修する。<br>本科目は主として、「学習とは何か」、「古典的条件づけ」、「オペラント条件づけ」などを講義する。 | 変更なし。                                                                                                                                                     |                                                     | 学習・言語心理学Ⅰ | 【目的】人間の生涯において①人の行動が変化する過程、②言語の習得における機序などについて、心理学的な学習研究の基本的理論と基礎的知見について学ぶことを目的とする。<br>【方法】講義が中心となる。内容は、条件づけ、社会的学習、自律的学習、技能学習等である。行動の基盤に「学習」のメカニズムが機能していることを理解し、人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることが説明でき、さらに、将来の臨床現場における多くの問題に対して、学習心理学の理論を応用していくことができるよう、学習の原理を学修する。<br>本科目は主として、「学習とは何か」、「古典的条件づけ」、「オペラント条件づけ」などを講義する。 |                                                                                                                                            |                                                                                                                                        |  |
|                                      | 学習・言語心理学Ⅱ           | 【目的】人間の生涯において①人の行動が変化する過程、②言語の習得における機序などについて、心理学的な学習研究の基本的理論と基礎的知見について学ぶことを目的とする。<br>【方法】講義が中心となる。内容は、条件づけ、社会的学習、自律的学習、技能学習等である。行動の基盤に「学習」のメカニズムが機能していることを理解し、人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることが説明でき、さらに、将来の臨床現場における多くの問題に対して、学習心理学の理論を応用していくことができるよう、学習の原理を学修する。<br>本科目は主として、「社会的学習」、「技能学習」、「問題解決と推理」などを講義する。       | 変更なし。                                                                                                                                                     |                                                     | 学習・言語心理学Ⅱ | 【目的】人間の生涯において①人の行動が変化する過程、②言語の習得における機序などについて、心理学的な学習研究の基本的理論と基礎的知見について学ぶことを目的とする。<br>【方法】講義が中心となる。内容は、条件づけ、社会的学習、自律的学習、技能学習等である。行動の基盤に「学習」のメカニズムが機能していることを理解し、人間の行動は、ある程度は予測し、コントロールすることも可能であることが説明でき、さらに、将来の臨床現場における多くの問題に対して、学習心理学の理論を応用していくことができるよう、学習の原理を学修する。<br>本科目は主として、「社会的学習」、「技能学習」、「問題解決と推理」などを講義する。       |                                                                                                                                            |                                                                                                                                        |  |
| 専門<br>分野                             | 基礎<br>作業<br>療法<br>学 | 運動学実習                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 【目的】<br>・実習を通して、運動学的基础知識を再確認する。<br>・四肢および頭部体幹の機能構造を理解する。<br>【方法】<br>・運動学に関する実習を中心に、基礎運動学で学んだ内容を確認し、理解を深める。                                                | 変更なし。                                               | 専門<br>分野  | 基礎<br>作業<br>療法<br>学                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 運動学実習                                                                                                                                      | 【目的】<br>・実習を通して、運動学的基础知識を再確認する。<br>・四肢および頭部体幹の機能構造を理解する。<br>【方法】<br>・運動学に関する実習を中心に、基礎運動学で学んだ内容を確認し、理解を深める。                             |  |
|                                      |                     | 作業療法学概論Ⅰ                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 【目的】作業療法の歴史を紐解き、現在の作業療法の礎となった原点を理解することを目的とする。病気やケガにより、それまでの生活が不可能になったときの生活の再構築の仕方作業療法の観点から学修する。<br>【方法】講義を中心とするが、グループディスカッションも交えグループワーク、模擬体験実習等により理解を深める。 | 旧科目「作業療法学概論Ⅰ」1単位、「作業療法学概論Ⅱ」1単位を併せて「作業療法学概論Ⅰ」1単位とする。 |           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 作業療法学概論Ⅰ                                                                                                                                   | 【目的】作業療法の歴史を紐解き、現在の作業療法の礎となった原点を理解することを目的とする。病気やケガにより、それまでの生活が不可能になったときの生活の再構築の仕方作業療法の観点から学修する。<br>【方法】講義を中心とするが、グループディスカッションも交えて実施する。 |  |
|                                      |                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                           |                                                     |           | 作業療法学概論Ⅱ                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 【目的】身体障害、精神障害、発達障害、老年期障害、地域における作業療法の専門的知識と技術の概要及びそれに伴う法律や制度を理解し、作業療法の全体像を学修することを目的とする。<br>【方法】作業療法学概論Ⅰにおける講義をもとに、グループワーク、模擬体験実習等により理解を深める。 |                                                                                                                                        |  |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |              |                                                                                                                                                                                                                     |                                                                             | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |            |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                  |
|--------------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称      | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                              | 備考                                                                          | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                          | 備考                                               |
| 専門分野                                 |              |                                                                                                                                                                                                                     |                                                                             | 専門分野                                 | 作業療法学概論Ⅲ   | <p>【目的】精神機能作業療法に関する歴史や制度、社会資源、実践例について学ぶ。ICF(国際生活機能分類)を用いた障害構造の捉え方を理解する。</p> <p>【方法】教科書と配布資料、視聴教材などにより講義を行う。</p>                                                                                                                                 | 廃止                                               |
|                                      | 作業療法学概論Ⅱ（実習） | <p>【目的】地域における 作業療法士が所属する施設や機関に赴き、臨床場面で作業療法士の実際の業務を直接見聞する。自ら進む作業療法士像のイメージを創り、専門学習に臨む動機を高めることを目的とする。</p> <p>【方法】地域における 作業療法士が所属、活動する施設や機関に赴き臨床場面の見学を行う。見学の前後に学内にて専任教員のもとセミナーを実施する。</p>                                | 旧科目「作業療法実践見学実習」を名称変更し、区分変更する。                                               |                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                  |
|                                      | 基礎作業学        | <p>【目的】人の生活において、作業の意味とその範囲について理解する。また、作業の必要性について学修する。ライフスタイルと作業、健康と作業、文化と作業等についての基礎知識を学び、それらの観点から様々な作業活動の分析方法を学修する。</p> <p>【方法】講義およびグループディスカッションによって実施する。</p>                                                       | 変更なし。                                                                       |                                      | 基礎作業学      | <p>【目的】人の生活において、作業の意味とその範囲について理解する。また、作業の必要性について学修する。ライフスタイルと作業、健康と作業、文化と作業等についての基礎知識を学び、それらの観点から様々な作業活動の分析方法を学修する。</p> <p>【方法】講義およびグループディスカッションによって実施する。</p>                                                                                   |                                                  |
|                                      | 基礎作業学実習Ⅰ     | <p>【目的】治療手段としての作業活動の中から、病院・施設においてよく用いられている創造的、製作的作業を実際に体験し、そのプロセスを分析することにより机上の理論と実習の統合を学修することを目的とする。</p> <p>【方法】タイルモザイク、陶芸、皮革細工、園芸活動などの各種作業活動の製作体験を通して分析し、障害の内容、程度に合わせた指導法を検討する。</p>                                | 旧科目「基礎作業学実習Ⅲ」の内容を「基礎作業学実習Ⅰ」、「基礎作業学実習Ⅱ」に含める。時間数(15時間より30時間に)、内容変更あり。         |                                      | 基礎作業学実習Ⅰ   | <p>【目的】基礎作業学で学んだ作業活動の種類の中から、病院・施設においてよく用いられている創造的、製作的作業を実際に体験し、そのプロセスを分析することにより机上の理論と実習の統合を学修することを目的とする。</p> <p>【方法】製作、陶芸、皮革細工、タイルモザイクなどの各種作業活動を実際の手順に従って製作体験実習する。</p>                                                                          |                                                  |
|                                      | 基礎作業学実習Ⅱ     | <p>【目的】基礎作業学実習Ⅰで体験した作業活動について、疾患、障害に応じてどのようにバリエーションを工夫できるかをグループ討議し、机上の理論と実習の統合を学修することを目的とする。</p> <p>【方法】エコクラフト、織物、木工などの各種作業活動の製作体験を通して分析し、障害の内容、程度に合わせた指導法を検討する。対象者が作業活動をするために必要な自助具等の検討・試作を行う。</p>                  | 旧科目「基礎作業学実習Ⅲ」の内容を「基礎作業学実習Ⅰ」、「基礎作業学実習Ⅱ」に含める。時間数(15時間より30時間に)、内容変更あり。         |                                      | 基礎作業学実習Ⅱ   | <p>【目的】基礎作業学実習Ⅰで体験した作業活動について、疾患、障害に応じてどのようにバリエーションを工夫できるかをグループ討議し、机上の理論と実習の統合を学修することを目的とする。</p> <p>【方法】タイルモザイク、陶芸、皮革細工、園芸活動などの各種作業活動の製作体験を通して分析し、障害の内容、程度に合わせた指導法を検討する。</p>                                                                     |                                                  |
|                                      |              |                                                                                                                                                                                                                     |                                                                             |                                      | 基礎作業学実習Ⅲ   | <p>【目的】基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱで体験した作業活動について、疾患、障害に応じてどのようにバリエーションを工夫できるかをグループ討議し、机上の理論と実習の統合を学修することを目的とする。</p> <p>【方法】エコクラフト、織物、木工などの各種作業活動の製作体験を通して分析し、障害の内容、程度に合わせた指導法を検討する。対象者が作業活動をするために必要な自助具等の試作を行う。</p>                                               | 廃止                                               |
|                                      | 作業療法理論学      | <p>【目的】これまで学んだ作業療法の理論を整理し、さらに作業療法の全体理論を学ぶ。科学的アプローチとシステムアプローチを提示し、作業療法の臨床場面でのような理論を用いているのかを理解することにより、治療技術としての作業療法の理解を深めることを目的とする。</p> <p>【方法】作業療法のいくつかの理論を基にした事例報告を提示し、その問題解決の過程を分析する。</p>                           | 内容変更あり。                                                                     |                                      | 作業療法理論学    | <p>【目的】これまで学んだ作業療法の理論を整理し、さらに作業療法の全体理論を学ぶ。作業療法の臨床場面でのような理論を用いているのかを理解することにより、治療技術としての作業療法の理解を深めることを目的とする。</p> <p>【方法】作業療法のいくつかの理論を基にした事例報告を提示し、その問題解決の過程を分析する。</p>                                                                              |                                                  |
|                                      |              |                                                                                                                                                                                                                     |                                                                             |                                      | 作業療法管理・運営学 | <p>【目的】リハビリテーション医療の組織体において、作業療法部門の管理・運営（マネジメント）が円滑に実施されることの必要性について認識し、そのために必要な知識、技術等について学修することを目的とする。技術運用の基本としては、関連法規・制度等の知識について、また、部門運営のための人事に関する運用等について理解すると共に医療提供者としての高い倫理的意識を涵養する機会とする。</p> <p>【方法】教科書と必要に応じて資料配付により講義およびグループワークを交えて行う。</p> | 科目名称を「職場管理理学」へ変更する。「基礎作業療法学」から「作業療法管理理学」へ区分変更する。 |
|                                      | 作業療法研究法      | <p>【目的】科学的研究の種類、取り組み方、文献検索の方法等の講義を通して、研究に必要な基本的知識と研究者としての態度の習得を図ること、およびこれらをもとに、自身の興味あるテーマに沿った研究計画書を作成し、報告会にて発表できることを目的とする。</p> <p>【方法】教科書や配布資料などによって、作業療法研究に対する講義を行う。これら知識をもとに、担当ゼミ教員の指導のもと、研究計画書を作成し報告会にて発表する。</p> | 旧科目「作業療法研究ゼミⅠ」の内容を併せて内容変更し、時間変更(15時間より30時間に)する。「作業療法治療学」から「基礎作業療法学」へ区分変更する。 |                                      |            |                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                  |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |                 |                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                         | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |                 |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                              |
|--------------------------------------|-----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称         | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                  | 備考                                                                                                      | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称         | 講義等の内容                                                                                                                                                         | 備考                                                                                                                                                                           |
|                                      | 作業療法管理学         | <p>【目的】リハビリテーション医療の組織体において、作業療法部門の管理・運営（マネジメント）が円滑に実施されることの必要性について認識し、そのために必要な知識、技術等について学修することを目的とする。技術運用の基本としては、関連法規・制度等の知識について、また、部門運営のための人事に関する運用等について理解すると共に医療提供者としての高い倫理的意識を涵養する機会とする。【方法】教科書と必要に応じて資料配付により講義およびグループワークを交えて行う。</p> | 旧科目「作業療法管理・運営学」を名称変更し、「基礎作業療法学」から新指定規則の要件を満たすため新設した「作業療法管理学」へ区分変更する。新指定規則の要件を満たすため、「職場管理」に対して、本科目で対応する。 |                                      | 作業療法管理学         |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                              |
|                                      | 職業倫理            | <p>【目的】医療技術が進歩し、価値観の多様化が進行する社会の中で、改めて個人の人權の尊重とは何か、人として守るべき秩序とは何かを学ぶ。医療従事者として、作業療法士としての社会的な役割や責任を果たすために職業人としての行動を律する基準、規範を理解し、作業療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。【方法】配布資料、参考書を用いての講義及びグループワークを交えて行う。</p>                                  | 新設科目。新指定規則の要件を満たすため新設した「作業療法管理学」に配置する。新指定規則の要件を満たすため「作業療法教育及び職業倫理」に対して、本科目で対応する。                        |                                      |                 |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                              |
|                                      | 作業療法評価学         | 作業療法評価学総論                                                                                                                                                                                                                               | 変更なし。                                                                                                   |                                      | 作業療法評価学         | 作業療法評価学総論                                                                                                                                                      | <p>【目的】作業療法評価は、適切な治療方針のために必要不可欠なものである。正確且つ適切な「評価」の視点に立って、作業療法評価学を学ぶが、単に機能形態障害の測定技術を学ぶだけではなく、その障害が生活や健康に及ぼす影響までを含めて学修することを目的とする。【方法】教科書と配布資料などで各疾患の作業療法評価の目的、方法について講義を行う。</p> |
|                                      | 身体機能作業療法評価学（実習） | <p>【目的】脳血管障害や神経変性疾患、整形外科疾患などの身体障害における各種検査の基本的技術とその結果の考え方について学修することを目的とする。【方法】教科書と配布資料などによる身体障害の各種検査の講義及び実技を中心に実施する。</p>                                                                                                                 | 名称変更あり。                                                                                                 |                                      | 身体障害作業療法評価学（実習） | <p>【目的】脳血管障害や神経変性疾患、整形外科疾患などの身体障害における各種検査の基本的技術とその結果の考え方について学修することを目的とする。【方法】教科書と配布資料などによる身体障害の各種検査の講義及び実技を中心に実施する。</p>                                        |                                                                                                                                                                              |
|                                      | 精神疾患作業療法評価学     | <p>【目的】精神機能作業療法に関する歴史や制度、社会資源、実践例について学ぶ。ICF(国際生活機能分類)を用いた障害構造の捉え方を理解する。統合失調症やうつ病といった精神障害における対象者の外観、行動を観察する視点を理解すること、観察の技術や各種検査方法について学修することを目的とする。【方法】教科書及び配布資料、視聴覚教材などによる講義と精神障害作業療法評価の演習等を行う。</p>                                      | 旧科目「作業療法学概論Ⅲ」の内容を含める。時間数(15時間より30時間に)ならびに内容変更あり。名称変更あり。                                                 |                                      | 精神障害作業療法評価学     | <p>【目的】統合失調症やうつ病といった精神障害における対象者の外観、行動を観察する視点を理解すること、観察の技術や各種検査方法について学修することを目的とする。【方法】教科書及び配布資料、視聴覚教材などによる講義と精神障害作業療法評価の演習等を行う。</p>                             |                                                                                                                                                                              |
|                                      | 発達過程作業療法評価学     | <p>【目的】定型発達などの人間発達について理解した上で、脳性麻痺を中心とする肢体不自由児や自閉症スペクトラム障害などの発達障害児の観察技術及び各種検査とその結果の考え方について学修することを目的とする。【方法】教科書や配布資料などによって発達障害に対する導入から評価に至る作業療法過程についての講義を行う。</p>                                                                          | 名称変更あり。                                                                                                 |                                      | 発達障害作業療法評価学     | <p>【目的】定型発達などの人間発達について理解した上で、脳性麻痺を中心とする肢体不自由児や自閉症スペクトラム障害などの発達障害児の観察技術及び各種検査とその結果の考え方について学修することを目的とする。【方法】教科書や配布資料などによって発達障害に対する導入から評価に至る作業療法過程についての講義を行う。</p> |                                                                                                                                                                              |
|                                      | 高次脳機能作業療法評価学    | <p>【目的】失行・失認・失語などの高次脳機能障害の各種検査及び観察の技術とその結果の考え方について学修することを目的とする。【方法】教科書と配布資料などによる高次脳機能障害評価の演習が中心となる。</p>                                                                                                                                 | 名称変更あり。                                                                                                 |                                      | 高次脳機能障害作業療法評価学  | <p>【目的】失行・失認・失語などの高次脳機能障害の各種検査及び観察の技術とその結果の考え方について学修することを目的とする。【方法】教科書と配布資料などによる高次脳機能障害評価の演習が中心となる。</p>                                                        |                                                                                                                                                                              |
|                                      | 高齢期作業療法評価学      | <p>【目的】高齢期の標準的な心身機能の状態を学ぶとともに、高齢期を迎え心身に不調を持った対象者の心身機能の変化を適切に検査・測定する方法について広く学修することを目的とする。【方法】講義および課題の作成と発表を中心とする。</p>                                                                                                                    | 名称変更あり。                                                                                                 |                                      | 老年期障害作業療法評価学    | <p>【目的】高齢期の標準的な心身機能の状態を学ぶとともに、高齢期を迎え心身に不調を持った対象者の心身機能の変化を適切に検査・測定する方法について広く学修することを目的とする。【方法】講義および課題の作成と発表を中心とする。</p>                                           |                                                                                                                                                                              |
|                                      | 作業療法画像評価学       | <p>【目的】作業療法の対象として代表的な中枢神経障害（特に脳血管障害）患者に対するより具体的なアプローチ構築のために、CT・MRI等の診断技術を学修することを目的とする。【方法】実際の画像を使いながら診断の実技を交えた講義を中心とする。</p>                                                                                                             | 旧科目「作業療法技術学Ⅰ（画像診断）」を名称変更し、区分変更する。新指定規則の要件を満たすため、「医用画像の評価」に対して、本科目で対応する。                                 |                                      |                 |                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                              |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |              |                                                                                                                                                                                             |                                   |  | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |                   |                                                                                                                                                                                             |    |  |
|--------------------------------------|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|--|--------------------------------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|--|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称      | 講義等の内容                                                                                                                                                                                      | 備考                                |  | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称           | 講義等の内容                                                                                                                                                                                      | 備考 |  |
|                                      | 中枢神経疾患作業療法学  | 【目的】脳血管疾患、脊髄損傷、神経疾患、神経筋疾患などの中枢神経疾患の臨床像を理解し、その生活機能障害に対して、適切な作業療法が選択できる知識と技能を修得することを目的とする。<br>【方法】配布資料・参考書を用いて、中枢神経疾患に対する評価から治療に至る作業療法過程について講義を行う                                             | 名称変更あり。時間数(15時間より30時間)に並びに内容変更あり。 |  |                                      | 中枢神経疾患作業療法治療学     | 【目的】脳血管障害、神経変性疾患などの中枢神経障害に対して、適切な作業療法が選択できる能力を身に付け、疾病や障害への作業療法効果と作業療法がこれら疾患や障害に及ぼす影響について学修することを目的とする。<br>【方法】教科書及び配布資料などによって中枢神経疾患に対する作業療法についての講義を行う。                                       |    |  |
|                                      | 中枢神経疾患作業療法学習 | 【目的】脳血管障害、脊髄損傷などの中枢神経障害に対する適切な作業療法技術の習熟を目的とする。<br>【方法】専任教員の指導を仰ぎながら、中枢神経疾患に対する作業療法技術の演習を行う。                                                                                                 | 名称変更あり。時間数(15時間より30時間)に並びに内容変更あり。 |  |                                      | 中枢神経疾患作業療法治療学演習   | 【目的】脳血管障害、神経変性疾患などの中枢神経障害に対する適切な作業療法技術の習熟を目的とする。<br>【方法】専任教員の指導のもとに中枢神経疾患に対する作業療法技術の演習を行う。                                                                                                  |    |  |
|                                      | 運動器疾患作業療法学   | 【目的】整形外科領域の様々な疾病や障害(脊髄損傷、骨折、膝損傷など)に対して、筋力トレーニングや関節可動域訓練などの運動療法とそれに伴う作業療法を選択できる能力を身に付け、疾病や障害への作業療法効果と作業療法がこれら疾患や障害に及ぼす影響について学修することを目的とする。<br>【方法】教科書、配布資料などに沿って各疾病や障害に対する運動療法や作業療法について講義を行う。 | 時間数(15時間より30時間)並びに名称変更あり。         |  |                                      | 運動器疾患作業療法治療学      | 【目的】整形外科領域の様々な疾病や障害(脊髄損傷、骨折、膝損傷など)に対して、筋力トレーニングや関節可動域訓練などの運動療法とそれに伴う作業療法を選択できる能力を身に付け、疾病や障害への作業療法効果と作業療法がこれら疾患や障害に及ぼす影響について学修することを目的とする。<br>【方法】教科書、配布資料などに沿って各疾病や障害に対する運動療法や作業療法について講義を行う。 |    |  |
|                                      | 作業療法学内実習Ⅰ    | 【目的】クライアントとの信頼関係構築のためのコミュニケーションや面接に必要とされるスキルを学び臨床能力の向上を目的とする。<br>【方法】教科書と配布資料などを用いてコミュニケーションや面接についての実習が中心となる。                                                                               | 名称変更あり。                           |  |                                      | 作業療法治療学実習Ⅰ(OSCE等) | 【目的】クライアントとの信頼関係構築のためのコミュニケーションや面接に必要とされるスキルを学び臨床能力の向上を目的とする。<br>【方法】教科書と配布資料などを用いてコミュニケーションや面接についての実習が中心となる。                                                                               |    |  |
|                                      | 作業療法学内実習Ⅱ    | 【目的】学生自身が評価技能の到達水準を客観的に知り、不足している技能の学習を進めることで臨床能力の向上を図ることを目的とする。<br>【方法】模擬症例を通して、学生のコミュニケーション能力、検査・測定技術の評価する。OSCE受験後に学生は評価者からフィードバックを受ける。                                                    | 名称変更あり。                           |  |                                      | 作業療法治療学実習Ⅱ(OSCE等) | 【目的】学生が自己の評価技能における臨床能力の到達水準を客観的に知り、不足している技能の学習を進めることで臨床能力の向上を目的とする。<br>【方法】学生が模擬患者(S P)に対して検査・測定技術を用いて実技をしている場面を教員(評価者)が評価する。OSCE受験後に学生は評価者およびS Pからフィードバックを受ける。                             |    |  |
|                                      | 作業療法学内実習Ⅲ    | 【目的】学生自身が臨床能力の到達水準を客観的に知り、不足している技能の学習を進めることで臨床能力の向上を図ることを目的とする。<br>【方法】模擬症例を通して、学生のコミュニケーション能力、検査・測定技術の評価する。OSCE受験後に学生は評価者からフィードバックを受ける。                                                    | 名称変更あり。                           |  |                                      | 作業療法治療学実習Ⅲ(OSCE等) | 【目的】学生が自己の臨床能力の到達水準を客観的に知り、不足している技能の学習を進めることで臨床能力の向上を目的とする。<br>【方法】学生が模擬患者(S P)に対して分析・治療技術を用いて実技をしている場面を教員(評価者)が評価する。OSCE受験後に学生は評価者およびS Pからフィードバックを受ける。                                     |    |  |
|                                      | 精神疾患作業療法学Ⅰ   | 【目的】統合失調症やうつ病等の精神障害に対して、適切な作業療法が選択できる能力を身に付け、疾病や障害への作業療法効果と作業療法がこれら疾患や障害に及ぼす影響について学修することを目的とする。<br>【方法】教科書及び配布資料などによって各種精神障害に対する作業療法についての講義を行う。                                             | 名称変更あり。                           |  |                                      | 精神障害作業療法治療学Ⅰ      | 【目的】統合失調症やうつ病等の精神障害に対して、適切な作業療法が選択できる能力を身に付け、疾病や障害への作業療法効果と作業療法がこれら疾患や障害に及ぼす影響について学修することを目的とする。<br>【方法】教科書及び配布資料などによって各種精神障害に対する作業療法についての講義を行う。                                             |    |  |
|                                      | 精神疾患作業療法学Ⅱ   | 【目的】パニック障害、解離性障害、強迫性障害や境界性パーソナリティ障害等の精神障害に対して、適切な作業療法が選択できる能力を身に付け、疾病や障害への作業療法効果と作業療法がこれら疾患や障害に及ぼす影響について学修することを目的とする。<br>【方法】教科書及び配布資料などによって各種精神障害に対する作業療法についての講義を行う。                       | 名称変更あり。                           |  |                                      | 精神障害作業療法治療学Ⅱ      | 【目的】パニック障害、解離性障害、強迫性障害や境界性パーソナリティ障害等の精神障害に対して、適切な作業療法が選択できる能力を身に付け、疾病や障害への作業療法効果と作業療法がこれら疾患や障害に及ぼす影響について学修することを目的とする。<br>【方法】教科書及び配布資料などによって各種精神障害に対する作業療法についての講義を行う。                       |    |  |
|                                      | 精神疾患作業療法学習   | 【目的】統合失調症などの代表的な精神障害に対する、評価から作業療法計画立案に至る考えの道筋について、事例を通して学修することを目的とする。<br>【方法】専任教員の指導のもとにグループディスカッションを行い、精神障害に対する作業療法計画立案に至る考えの道筋について、事例を通して模擬体験する。                                          | 時間数(15時間より30時間)並びに名称変更あり。         |  |                                      | 精神障害作業療法治療学演習     | 【目的】統合失調症などの代表的な精神障害に対する、評価から作業療法計画立案に至る考えの道筋について、事例を通して学修することを目的とする。<br>【方法】専任教員の指導のもとにグループディスカッションを行い、精神障害に対する作業療法計画立案に至る考えの道筋について、事例を通して模擬体験する。                                          |    |  |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |             |                                                                                                                                                                                                                                                            |                       | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |                 |                                                                                                                                                                                                                                                            |    |
|--------------------------------------|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------|--------------------------------------|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称     | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                     | 備考                    | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称         | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                     | 備考 |
|                                      | 精神障害構造論Ⅰ    | 【目的】統合失調症や気分（感情）障害といった精神障害に対する作業療法評価への理解を深める。<br>【方法】配布資料の事例を通し、ICF(国際生活機能分類)を用いて、症例についての障害構造を具体的に考察し、まとめる。個人での課題作成とグループでの討議を行う。                                                                                                                           | 時間数(15時間より30時間)に変更あり。 |                                      | 精神障害構造論Ⅰ        | 【目的】統合失調症や気分（感情）障害といった精神障害に対する作業療法評価への理解を深める。<br>【方法】配布資料の事例を通し、ICF(国際生活機能分類)を用いて、症例についての障害構造を具体的に考察し、まとめる。個人での課題作成とグループでの討議を行う。                                                                                                                           |    |
|                                      | 精神障害構造論Ⅱ    | 【目的】統合失調症や気分（感情）障害といった精神障害に対する作業療法評価と治療・指導・支援内容への理解を深める。<br>【方法】配布資料の事例を通し、ICF(国際生活機能分類)等を用いてまとめた症例について障害構造を基に、治療・指導・支援内容を具体的に考察し、まとめる。個人での課題作成とグループでの討議を行う。                                                                                               | 時間数(15時間より30時間)に変更あり。 |                                      | 精神障害構造論Ⅱ        | 【目的】統合失調症や気分（感情）障害といった精神障害に対する作業療法評価と治療・指導・支援内容への理解を深める。<br>【方法】配布資料の事例を通し、ICF(国際生活機能分類)等を用いてまとめた症例について障害構造を基に、治療・指導・支援内容を具体的に考察し、まとめる。個人での課題作成とグループでの討議を行う。                                                                                               |    |
|                                      | 発達過程作業療法学Ⅰ  | 【目的】発達障害に対する作業療法は成長・発達の要因が重要であり、これらを含めた適切な作業療法を選択する能力が必要となる。また、脳性麻痺を中心とした小児疾患や自閉症スペクトラム障害などの発達障害が生活行為を制限し、成長・発達の障害につながる恐れがあることを理解し、それらに対応するための支援プロセスを学修することを目的とする。（Ⅰでは、支援プロセスの概要を中心に学修する）<br>【方法】教科書や配布資料などによって、発達障害に対する運動療法及び作業療法の講義及び事例検討を用いたグループ演習を実施する | 名称変更あり。               |                                      | 発達障害作業療法治療学Ⅰ    | 【目的】発達障害に対する作業療法は成長・発達の要因が重要であり、これらを含めた適切な作業療法を選択する能力が必要となる。また、脳性麻痺を中心とした小児疾患や自閉症スペクトラム障害などの発達障害が生活行為を制限し、成長・発達の障害につながる恐れがあることを理解し、それらに対応するための支援プロセスを学修することを目的とする。（Ⅰでは、支援プロセスの概要を中心に学修する）<br>【方法】教科書や配布資料などによって、発達障害に対する運動療法及び作業療法の講義及び事例検討を用いたグループ演習を実施する |    |
|                                      | 発達過程作業療法学Ⅱ  | 【目的】発達障害に対する作業療法は成長・発達の要因が重要であり、これらを含めた適切な作業療法を選択する能力が必要となる。また、脳性麻痺を中心とした小児疾患や自閉症スペクトラム障害などの発達障害が生活行為を制限し、成長・発達の障害につながる恐れがあることを理解し、それらに対応するための支援プロセスを学修することを目的とする。（Ⅱでは具体的なプログラムについて演習を行う）<br>【方法】教科書や配布資料などによって、発達障害に対する運動療法及び作業療法の講義及び事例検討を用いたグループ演習を実施する | 名称変更あり。               |                                      | 発達障害作業療法治療学Ⅱ    | 【目的】発達障害に対する作業療法は成長・発達の要因が重要であり、これらを含めた適切な作業療法を選択する能力が必要となる。また、脳性麻痺を中心とした小児疾患や自閉症スペクトラム障害などの発達障害が生活行為を制限し、成長・発達の障害につながる恐れがあることを理解し、それらに対応するための支援プロセスを学修することを目的とする。（Ⅱでは具体的なプログラムについて演習を行う）<br>【方法】教科書や配布資料などによって、発達障害に対する運動療法及び作業療法の講義及び事例検討を用いたグループ演習を実施する |    |
|                                      | 高次脳機能作業療法学Ⅰ | 【目的】失行・失認・失語などの各種高次脳機能障害の評価を踏まえて、作業療法におけるその治療技術について学修することを目的とする。<br>【方法】教科書と配布資料などによる高次脳機能障害治療の講義が中心となる。                                                                                                                                                   | 名称変更あり。               |                                      | 高次脳機能障害作業療法治療学Ⅰ | 【目的】失行・失認・失語などの各種高次脳機能障害の評価を踏まえて、作業療法におけるその治療技術について学修することを目的とする。<br>【方法】教科書と配布資料などによる高次脳機能障害治療の講義が中心となる。                                                                                                                                                   |    |
|                                      | 高次脳機能作業療法学Ⅱ | 【目的】高次脳機能障害作業療法治療学Ⅰにおいて学修した評価や治療技術をもとに、実際場面を想定し評価および介入の方法について学修する。<br>【方法】グループワークを基本とし、課題作成、発表を中心とする。                                                                                                                                                      | 名称変更あり。               |                                      | 高次脳機能障害作業療法治療学Ⅱ | 【目的】高次脳機能障害作業療法治療学Ⅰにおいて学修した評価や治療技術をもとに、実際場面を想定し評価および介入の方法について学修する。<br>【方法】グループワークを基本とし、課題作成、発表を中心とする。                                                                                                                                                      |    |
|                                      | 高齢期作業療法学Ⅰ   | 【目的】老年期障害作業療法評価学で学修した高齢期にある対象者の心身機能の変化を理解し、作業療法の介入方法について広く学修することを目的とする。<br>【方法】講義および課題の作成および発表を中心とする。                                                                                                                                                      | 名称変更あり。               |                                      | 老年期障害作業療法学Ⅰ     | 【目的】老年期障害作業療法評価学で学修した高齢期にある対象者の心身機能の変化を理解し、作業療法の介入方法について広く学修することを目的とする。<br>【方法】講義および課題の作成および発表を中心とする。                                                                                                                                                      |    |
|                                      | 高齢期作業療法学Ⅱ   | 【目的】老年期障害作業療法評価学および老年期障害作業療法学Ⅰにおいて学修した理論および基礎的知識の内容をもとに、実際場面を想定し評価および介入の方法について学修する。<br>【方法】グループワークを基本とし、課題作成、発表を中心とする。                                                                                                                                     | 名称変更あり。               |                                      | 老年期障害作業療法学Ⅱ     | 【目的】老年期障害作業療法評価学および老年期障害作業療法学Ⅰにおいて学修した理論および基礎的知識の内容をもとに、実際場面を想定し評価および介入の方法について学修する。<br>【方法】グループワークを基本とし、課題作成、発表を中心とする。                                                                                                                                     |    |
|                                      | 義肢・装具学（実習）  | 【目的】義肢学は、切断者の身体状況に適した義肢のあり方を学ぶとともに、切断者がその義肢を有効に操作できるよう、筋力トレーニング、断端管理などを学修する。また装具学は、四肢・体幹の機能障害の軽減を目的に使用する装具の基本的知識、適応と理論および適合判定について学修することを目的とする。<br>【方法】義肢や装具の実際について、モデルを使用しながらわかりやすく解説した後に製作実習を行う。                                                          | 変更なし。                 |                                      | 義肢・装具学（実習）      | 【目的】義肢学は、切断者の身体状況に適した義肢のあり方を学ぶとともに、切断者がその義肢を有効に操作できるよう、筋力トレーニング、断端管理などを学修する。また装具学は、四肢・体幹の機能障害の軽減を目的に使用する装具の基本的知識、適応と理論および適合判定について学修することを目的とする。<br>【方法】義肢や装具の実際について、モデルを使用しながらわかりやすく解説した後に製作実習を行う。                                                          |    |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |                   |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                     | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |            |                                                                                                                                                                                                    |                                         |
|--------------------------------------|-------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称           | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                             | 備考                                                                                                  | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称    | 講義等の内容                                                                                                                                                                                             | 備考                                      |
|                                      | 内部障害作業療法学<br>(実習) | 【目的】作業療法の対象として、身体機能系障害、精神心理系の障害に合併して内臓の機能障害（呼吸器、循環器、消化器、泌尿器等）を抱える対象者が増えつつある。内部障害に関する基本的知識と作業療法の技術を学修することを目的とする。<br>【方法】教科書および配付資料に基づいて講義及びグループディスカッション形式を採り入れ行う。呼吸器の解剖と生理について復習を通して呼吸器疾患の理解を深め、吸引の手法についての講義と実技を行う。 | 名称変更、時間数(15時間より30時間に)、内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため、「喀痰等の吸引」に対して、本科目に対応する。                                  |                                      | 内部障害作業療法学  | 【目的】作業療法の対象として、身体機能系障害、精神心理系の障害に合併して内臓の機能障害（呼吸器、循環器、消化器、泌尿器等）を抱える対象者が増えつつある。内部障害に関する基本的知識と作業療法の技術を学修することを目的とする。<br>【方法】教科書および配付資料に基づいて講義及びグループディスカッション形式を採り入れ行う。                                   |                                         |
|                                      |                   |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                     |                                      | 作業療法研究法    | 【目的】科学的研究の種類、取り組み方、文献検索の方法等の講義を通して、研究に必要な基本的知識と研究者としての態度の習得を図る。さらに作業療法における研究の必要性、意義、課題や質的研究と量的研究の違いを知ることを通して作業療法研究に対する基本的知識を学修する。<br>【方法】教科書や配布資料などによって、作業療法研究に対する講義を行う。                           | 「作業療法治療学」から「基礎作業療法学」へ区分変更する。            |
|                                      | 地域作業療法学           | 日常生活適応学Ⅰ                                                                                                                                                                                                           | 旧科目「生活環境論」の内容を「日常生活活動学Ⅰ」、「日常生活活動学Ⅱ」に含め、それぞれ名称を「日常生活適応学Ⅰ」、「日常生活適応学Ⅱ」に変更する。時間数(15時間より30時間)ならびに内容変更あり。 | 地域作業療法学                              | 日常生活活動学Ⅰ   | 【目的】多様な障害に対する評価方法、日常生活活動・動作トレーニングの原理を用いて、疾病や障害に即した日常生活へのアプローチ方法について学修する。さらに疾病や障害における日常生活での禁忌事項や注意事項を学修することを目的とする。<br>【方法】専任教員の指導のもとに学生間でのグループ学習を中心とした授業形態とする。                                      |                                         |
|                                      |                   | 日常生活適応学Ⅱ                                                                                                                                                                                                           | 旧科目「生活環境論」の内容を「日常生活活動学Ⅰ」、「日常生活活動学Ⅱ」に含め、それぞれ名称を「日常生活適応学Ⅰ」、「日常生活適応学Ⅱ」に変更する。時間数(15時間より30時間)ならびに内容変更あり。 |                                      | 日常生活活動学Ⅱ   | 【目的】日常生活活動学Ⅰにおいて学修した評価や支援方法をもとに実際場面を想定し評価および介入の方法について学修する。<br>【方法】グループワークを基本とし、課題作成、発表を中心とする。                                                                                                      |                                         |
|                                      |                   |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                     |                                      | 生活環境論      | 【目的】在宅障害者や高齢者の生活をより豊かにし、自立生活を送るために必要な適切な日常生活活動の方法、在宅障害者や高齢者の特性および家庭改修についての原則と注意点を学修する。対象者の日常生活活動や生活環境を評価し、適切な日常生活活動の方法および生活環境の整備に対する提案が行えるようになる。<br>【方法】講義及び演習等を行う。                                | 廃止                                      |
|                                      |                   | 地域作業療法学                                                                                                                                                                                                            | 内容変更あり。                                                                                             |                                      | 地域作業療法学    | 【目的】障害者が地域社会の中で共生と共同を以て積極的な社会参加を通して、生きがいを感しながら自らの人生を主体的に生きることを支援する。そのための保健・医療・福祉の動向を踏まえた、障害者のQOLに視点を当てた生活を重視した包括的援助体系について、多面的に学修することを目的とする。<br>【方法】グループワークを交えた講義を中心に行う。                            |                                         |
|                                      |                   | 就労支援作業療法学                                                                                                                                                                                                          | 内容変更あり。                                                                                             |                                      | 就労支援作業療法学  | 【目的】身体や精神障害および発達障害に対する就労支援に関連する重要な知識や技能を身につける。<br>【方法】配布資料などによる講義と演習が中心となる。                                                                                                                        |                                         |
|                                      |                   |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                     |                                      | 作業療法実践見学実習 | 【目的】地域における 作業療法士が所属する施設や機関に赴き、臨床場面で作業療法士の実際の業務を直接見聞する。自ら進む作業療法士像のイメージを創り、専門学習に臨む動機を高めることを目的とする。<br>【方法】地域における 作業療法士が所属、活動する施設や機関に赴き臨床場面の見学を行う。見学の前後に学内にて専任教員のもとセミナーを実施する。                          | 新科目「作業療法概論実習」へと名称変更し、「基礎作業療法学」へと区分変更する。 |
|                                      |                   |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                     |                                      |            |                                                                                                                                                                                                    |                                         |
|                                      |                   |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                     |                                      |            |                                                                                                                                                                                                    |                                         |
|                                      |                   |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                     |                                      |            |                                                                                                                                                                                                    |                                         |
|                                      |                   |                                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                     |                                      |            |                                                                                                                                                                                                    |                                         |
| 専門分野                                 | 臨床実習              | 見学実習                                                                                                                                                                                                               | 旧科目「臨床実習Ⅰ（見学・体験実習）」から「見学実習」へ名称変更し、内容変更あり。                                                           | 専門分野                                 | 臨床実習       | 【目的】作業療法士が所属する施設において対象者と直接し、コミュニケーション方法、医療事故対策、感染対策、個人情報の保護の実践について学修する。また臨床評価実習に向けて、作業療法評価法の具体的な実践、デシリノート等の記録方法についても学修することを目的とする。<br>【方法】2週間を学外実習として医療施設または老人保健施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。実習後にセミナーを行う。 |                                         |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |                   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                               | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |                  |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                           |
|--------------------------------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 科目<br>区分                             | 授業科目の名称           | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 備考                                                                                            | 科目<br>区分                             | 授業科目の名称          | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                                                                        | 備考                                        |
|                                      | 評価実習              | 【目的】学生毎に1施設に赴き、臨床実習指導者のもと、症例に即した評価方法の選択、評価手技の実施を行い、作業療法計画立案へつなげるための病状等を含む対象者の全体像を把握することについて学ぶことを目的とする。<br>【方法】3週間で学外の施設に赴き、診療チームの一員として、臨床実習指導者の指導・監督の下で学外実習を行う。学外実習前後に学内実習としてセミナー、報告会等を行う。                                                                                                        | 旧科目「臨床実習Ⅱ（評価実習）」から「評価実習」へ名称変更し、単位数、内容変更あり。                                                    |                                      | 臨床実習Ⅱ（評価実習）      | 【目的】学生毎に1施設に赴き、臨床実習指導者のもと、症例に即した評価方法の選択、評価手技の実施を行い、評価をもとに抽出された問題点から臨床像を把握する過程を学ぶことを目的としている。<br>【方法】3年次に行う。4週間で学外の施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。実習後にセミナーを行う。                                                                                                                          |                                           |
|                                      | 地域実習              | 【目的】対象者が医療機関などから在宅生活へ移行する際や移行後の問題点を学び、その問題を支援する方法および技術の一部を修得する。地域包括ケアシステムにおける通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションの役割や、リハビリテーションマネジメントについての理解を深めることを目的とする。<br>【方法】3年次に行う。臨床実習指導者の指導の下、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションに関する学外実習を行う。学外実習前後に学内実習としてセミナー、報告会等を行う。                                                            | 旧科目「臨床実習Ⅴ（地域実習）」から「地域実習」へ名称変更し、内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため、「通所リハビリテーション」又は「訪問リハビリテーション」に関する実習を実施する。 |                                      | 臨床実習Ⅴ（地域実習）      | 【目的】対象者が医療機関などから在宅生活へ移行する際や移行後の問題点を学び、その問題を支援する方法および技術の一部を修得することを目指す。<br>【方法】4年次に行う。2週間で訪問看護ステーションやデイサービスセンター、障害者総合支援法指定施設を含めた地域関連施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。実習後にセミナーを行う。                                                                                                         |                                           |
|                                      | 総合臨床実習Ⅰ           | 【目的】3年次までに学んだ基本的知識と技術を応用し、臨床実習指導者の指導のもとに症例を介して、作業療法評価・治療を体験する。対象者を適切に評価、統合解釈、問題を把握し、障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果効果判定を行う。また、実習の過程で作業療法の社会的役割とチームワークの重要性、理論的・法的責任を理解し、作業療法実施上の総合的能力を高める。<br>【方法】3年次に行う。7週間で学外の施設に赴き、診療チームの一員として、臨床実習指導者の指導・監督の下で臨床実習を行う。臨床実習前後に学内での実習で、セミナー、学生の評価等を行う。          | 旧科目「臨床実習Ⅲ（総合実習Ⅰ）」から「総合臨床実習Ⅰ」へ名称変更し、内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため、「臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価」に対して、本科目で対応する。   |                                      | 臨床実習Ⅲ（総合実習Ⅰ）     | 【目的】3年次までに学んだ基本的知識と技術を応用し、臨床実習指導者の指導のもとに症例を介して、作業療法評価・治療を体験する。症例を適切に評価、統合解釈、問題を把握し、その問題に応じた作業療法プログラムを設定し、実践する。さらに、再評価を行うことによって治療効果を検討する。また、実習の過程で作業療法の社会的役割とチームワークの重要性、理論的・法的責任を理解し、作業療法実施上の総合的能力を高める。<br>【方法】4年次に行う。8週間で学外の施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。実習後にセミナーを行う。               |                                           |
|                                      | 総合臨床実習Ⅱ           | 【目的】3年次及び総合臨床実習Ⅰまでに学んだ基本的知識と技術を応用し、臨床実習指導者の指導のもとに症例を介して、作業療法評価・治療を体験する。対象者を適切に評価、統合解釈、問題を把握し、障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果効果判定を行う。また、実習の過程で作業療法の社会的役割とチームワークの重要性、理論的・法的責任を理解し、作業療法実施上の総合的能力を高める。<br>【方法】4年次に行う。7週間で学外の施設に赴き、診療チームの一員として、臨床実習指導者の指導・監督の下で臨床実習を行う。臨床実習前後に学内での実習で、セミナー、学生の評価等を行う。 | 旧科目「臨床実習Ⅳ（総合実習Ⅱ）」から「総合臨床実習Ⅱ」へ名称変更し、内容変更あり。新指定規則の要件を満たすため、「臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価」に対して、本科目で対応する。   |                                      | 臨床実習Ⅳ（総合実習Ⅱ）     | 【目的】3年次まで及び臨床実習Ⅲ（総合実習Ⅰ）で学んだ基本的知識と技術を応用し、臨床実習指導者の指導のもとに症例を介して、作業療法評価・治療を体験する。症例を適切に評価、統合解釈、問題を把握し、その問題に応じた作業療法プログラムを設定し、実践する。さらに、再評価を行うことによって治療効果を検討する。また、実習の過程で作業療法の社会的役割とチームワークの重要性、理論的・法的責任を理解し、作業療法実施上の総合的能力を高める。<br>【方法】4年次に行う。8週間で学外の施設に赴き、臨床実習指導者のもとで実習を行う。実習後にセミナーを行う。 |                                           |
|                                      | 特論                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                                                                               |                                      | 特論               |                                                                                                                                                                                                                                                                               |                                           |
|                                      | 作業療法技術学Ⅰ（アートセラピー） | 【目的】アートセラピー（芸術療法）の中でも特に、人間性心理学の理論を基礎としてクライアントに対峙する「パーソン・センタード表現アートセラピー」を学ぶことによって、自分と他者をより深く理解し、カウンセラー・セラピストといった対人援助者としての在り方や対象者への関わり方を学ぶことを目的とする。<br>【方法】パーソン・センタード表現アートセラピーの技法と理論を理解できるように、実際のセッション体験を中心とした講義を行う。                                                                                | 名称変更あり。                                                                                       |                                      | 作業療法技術学Ⅰ（画像診断）   | 【目的】作業療法の対象として代表的な中枢神経障害（特に脳血管障害）患者に対するより具体的なアプローチ構築のために、CT・MRI等の診断技術を学修することを目的とする。<br>【方法】実際の画像を使いながら診断の実技を交えた講義を中心とする。                                                                                                                                                      | 新科目「作業療法画像評価学」へと名称変更し、「作業療法評価学Ⅰ」へと区分変更する。 |
|                                      | 作業療法技術学Ⅱ（音楽療法）    | 【目的】アートセラピー（芸術療法）の中でも特に、人間性心理学の理論を基礎としてクライアントに対峙する「パーソン・センタード表現アートセラピー」を学ぶことによって、自分と他者をより深く理解し、カウンセラー・セラピストといった対人援助者としての在り方や対象者への関わり方を学ぶことを目的とする。<br>【方法】パーソン・センタード表現アートセラピーの技法と理論を理解できるように、実際のセッション体験を中心とした講義を行う。                                                                                | 名称変更あり。                                                                                       |                                      | 作業療法技術学Ⅱ（音楽療法）   | 【目的】精神障害者・発達障害児（者）・高齢者に共通して有効な「音楽療法」を神経学や心理学、音楽理論の観点から検証し、各疾患への技術の習熟を目的とする。<br>【方法】音楽療法の理論と実技を交えた講義を中心とする。                                                                                                                                                                    |                                           |
|                                      | 作業療法技術学Ⅲ（特別支援教育）  | 【目的】作業療法の新しい分野「特別支援教育」における作業療法について学ぶ。特別支援教育分野での作業療法士としての介入の方法について事例を通して学修することを目的とする。<br>【方法】まず特別支援教育についての理解を深めた後に、各教育分野での障害特性について考え、生活実態や年齢に即した学校での作業療法士としての支援のあり方について、ディスカッションをまじえながら、導き出すことができるようにする。                                                                                           | 名称変更あり。                                                                                       |                                      | 作業療法技術学Ⅲ（音楽療法）   | 【目的】精神障害者・発達障害児（者）・高齢者に共通して有効な「音楽療法」を神経学や心理学、音楽理論の観点から検証し、各疾患への技術の習熟を目的とする。<br>【方法】音楽療法の理論と実技を交えた講義を中心とする。                                                                                                                                                                    |                                           |
|                                      | 作業療法技術学Ⅳ（特別支援教育）  | 【目的】作業療法の新しい分野「特別支援教育」における作業療法について学ぶ。特別支援教育分野での作業療法士としての介入の方法について事例を通して学修することを目的とする。<br>【方法】まず特別支援教育についての理解を深めた後に、各教育分野での障害特性について考え、生活実態や年齢に即した学校での作業療法士としての支援のあり方について、ディスカッションをまじえながら、導き出すことができるようにする。                                                                                           | 名称変更あり。                                                                                       |                                      | 作業療法技術学Ⅳ（特別支援教育） | 【目的】作業療法の新しい分野「特別支援教育」における作業療法について学ぶ。特別支援教育分野での作業療法士としての介入の方法について事例を通して学修することを目的とする。<br>【方法】まず特別支援教育についての理解を深めた後に、各教育分野での障害特性について考え、生活実態や年齢に即した学校での作業療法士としての支援のあり方について、ディスカッションをまじえながら、導き出すことができるようにする。                                                                       |                                           |
|                                      | チャレンジゼミⅠ          | 【目的】知的好奇心、疑問を具体化させ明らかにする過程を体験し、知的活動の面白さを体験することを目的とする。<br>【方法】ゼミ形式で行う。それまでに学んだ科目、或いは、教員から提示された領域からゼミ担当教員の指導のもとで、学生自身が興味、関心、疑問を持った課題を見つけ出す。見つけ出した課題について理解を深めると共に、課題に関する解決の方法を考える。                                                                                                                   | 変更なし。                                                                                         |                                      | チャレンジゼミⅠ         | 【目的】知的好奇心、疑問を具体化させ明らかにする過程を体験し、知的活動の面白さを体験することを目的とする。<br>【方法】ゼミ形式で行う。それまでに学んだ科目、或いは、教員から提示された領域からゼミ担当教員の指導のもとで、学生自身が興味、関心、疑問を持った課題を見つけ出す。見つけ出した課題について理解を深めると共に、課題に関する解決の方法を考える。                                                                                               |                                           |

| 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |        |           |                                                                                                                                                                                                                                 | 授業科目の概要<br>(医療学部リハビリテーション学科 作業療法学専攻) |          |        |           |                                                                                                                                                                                                                                 |    |
|--------------------------------------|--------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------|----------|--------|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 科目<br>区分                             |        | 授業科目の名称   | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                          | 備考                                   | 科目<br>区分 |        | 授業科目の名称   | 講義等の内容                                                                                                                                                                                                                          | 備考 |
| 専門<br>分野                             | 特<br>論 | チャレンジゼミⅡ  | 【目的】知的好奇心、疑問を具体化させ明らかにする過程を体験し、知的活動の面白さを体験することを目的とする。<br>【方法】ゼミ形式で行う。チャレンジゼミ演習Ⅰで得られた課題及びその解決方法を用いて、課題の学習を進めレポートを作成する。                                                                                                           | 変更なし。                                | 専門<br>分野 | 特<br>論 | チャレンジゼミⅡ  | 【目的】知的好奇心、疑問を具体化させ明らかにする過程を体験し、知的活動の面白さを体験することを目的とする。<br>【方法】ゼミ形式で行う。チャレンジゼミ演習Ⅰで得られた課題及びその解決方法を用いて、課題の学習を進めレポートを作成する。                                                                                                           |    |
|                                      |        | チャレンジゼミⅢ  | 【目的】知的好奇心、疑問を具体化させ明らかにする過程を体験し、知的活動の面白さを体験することを目的とする。<br>【方法】ゼミ形式で行う。作業療法に関する文献の検索、抄読を行い、自ら作業療法に関する専門知識を深めていく。                                                                                                                  | 変更なし。                                |          |        | チャレンジゼミⅢ  | 【目的】知的好奇心、疑問を具体化させ明らかにする過程を体験し、知的活動の面白さを体験することを目的とする。<br>【方法】ゼミ形式で行う。作業療法に関する文献の検索、抄読を行い、自ら作業療法に関する専門知識を深めていく。                                                                                                                  |    |
|                                      |        |           |                                                                                                                                                                                                                                 |                                      |          |        | 作業療法研究ゼミⅠ | 【目的】学生自身の興味・関心から疑問を探索し解明していく研究の一連の過程を経験することにより、作業療法の研究に必要な知識、技術、態度を習得することを目的とする。将来の臨床場面における問題発見、解決及びプレゼンテーション能力の基礎を築く。<br>【方法】学生はゼミ担当教員の指導のもと、研究計画に沿って研究を進める。                                                                   | 廃止 |
|                                      |        | 作業療法研究ゼミⅠ | 【目的】学生自身の興味・関心から疑問を探索し解明していく研究の一連の過程を経験することにより、作業療法の研究に必要な知識、技術、態度を習得することを目的とする。将来の臨床場面における問題発見、解決及びプレゼンテーション能力の基礎を築く。<br>【方法】学生はゼミ担当教員の指導のもと、研究計画に沿って研究を進める。                                                                   | 名称変更あり。                              |          |        | 作業療法研究ゼミⅡ | 【目的】学生自身の興味・関心から疑問を探索し解明していく研究の一連の過程を経験することにより、作業療法の研究に必要な知識、技術、態度を習得することを目的とする。将来の臨床場面における問題発見、解決及びプレゼンテーション能力の基礎を築く。<br>【方法】学生はゼミ担当教員の指導のもと、研究計画に沿って研究を進める。                                                                   |    |
|                                      |        | 作業療法研究ゼミⅡ | 【目的】学生自身の興味・関心から疑問を探索し解明していく研究の一連の過程を経験することにより、作業療法の研究に必要な知識、技術、態度を習得することを目的とする。将来の臨床場面における問題発見、解決及びプレゼンテーション能力の基礎を築く。<br>【方法】学生はゼミ担当教員の指導のもと、得られた結果に対して適切な分析を行う。また、研究成果について発表資料を作成し、プレゼンテーションを実施し、適切な文章表現を用いて研究報告書（卒業論文）を作成する。 | 名称変更あり。                              |          |        | 作業療法研究ゼミⅢ | 【目的】学生自身の興味・関心から疑問を探索し解明していく研究の一連の過程を経験することにより、作業療法の研究に必要な知識、技術、態度を習得することを目的とする。将来の臨床場面における問題発見、解決及びプレゼンテーション能力の基礎を築く。<br>【方法】学生はゼミ担当教員の指導のもと、得られた結果に対して適切な分析を行う。また、研究成果について発表資料を作成し、プレゼンテーションを実施し、適切な文章表現を用いて研究報告書（卒業論文）を作成する。 |    |
|                                      |        | 作業療法総合演習Ⅰ | 【目的】1～3年次で履修した主要な教養科目、基礎専門科目、専門科目の復習を行い知識を定着させるとともに、専門職業人としての態度、基本的臨床実践能力を身につける。<br>【方法】作業療法を実施するにあたって必要な基礎・臨床医学と作業療法との関連性について総合的にグループ演習を中心に学ぶ。                                                                                 | 時間数の変更(15時間より30時間に)、内容変更あり。          |          |        | 作業療法総合演習Ⅰ | 【目的】作業療法の知識、技術の総まとめを行うとともに、専門職業人としての態度、基本的臨床実践能力を身につける。<br>【方法】作業療法を実施するにあたって必要な基礎・臨床医学と作業療法との関連性について総合的にグループ演習を中心に学ぶ。                                                                                                          |    |
|                                      |        | 作業療法総合演習Ⅱ | 【目的】1～4年次で履修した主要な教養科目、基礎専門科目、専門科目の復習を行い知識を定着させるとともに、専門職業人としての態度、基本的臨床実践能力を身につける。<br>【方法】作業療法を実施するにあたって必要な作業療法の知識を領域別に総合的に学ぶ。また、地域・在宅生活に必要な関連法規を学ぶ。                                                                              | 時間数の変更(15時間より30時間に)、内容変更あり。          |          |        | 作業療法総合演習Ⅱ | 【目的】作業療法の知識、技術の総まとめを行うとともに、専門職業人としての態度、基本的臨床実践能力を身につける。<br>【方法】作業療法を実施するにあたって必要な作業療法の知識を領域別に総合的に学ぶ。また、地域・在宅生活に必要な関連法規を学ぶ。                                                                                                       |    |
|                                      |        |           |                                                                                                                                                                                                                                 |                                      |          |        | 作業療法総合演習Ⅲ | 【目的】作業療法総合演習Ⅱを補充するものである。作業療法の知識、技術の総まとめを行うとともに、専門職業人としての態度、基本的臨床実践能力を身につける。<br>【方法】作業療法を実施するにあたって必要な作業療法の知識を領域別に総合的に学ぶ。また、地域・在宅生活に必要な関連法規を学ぶ。                                                                                   | 廃止 |